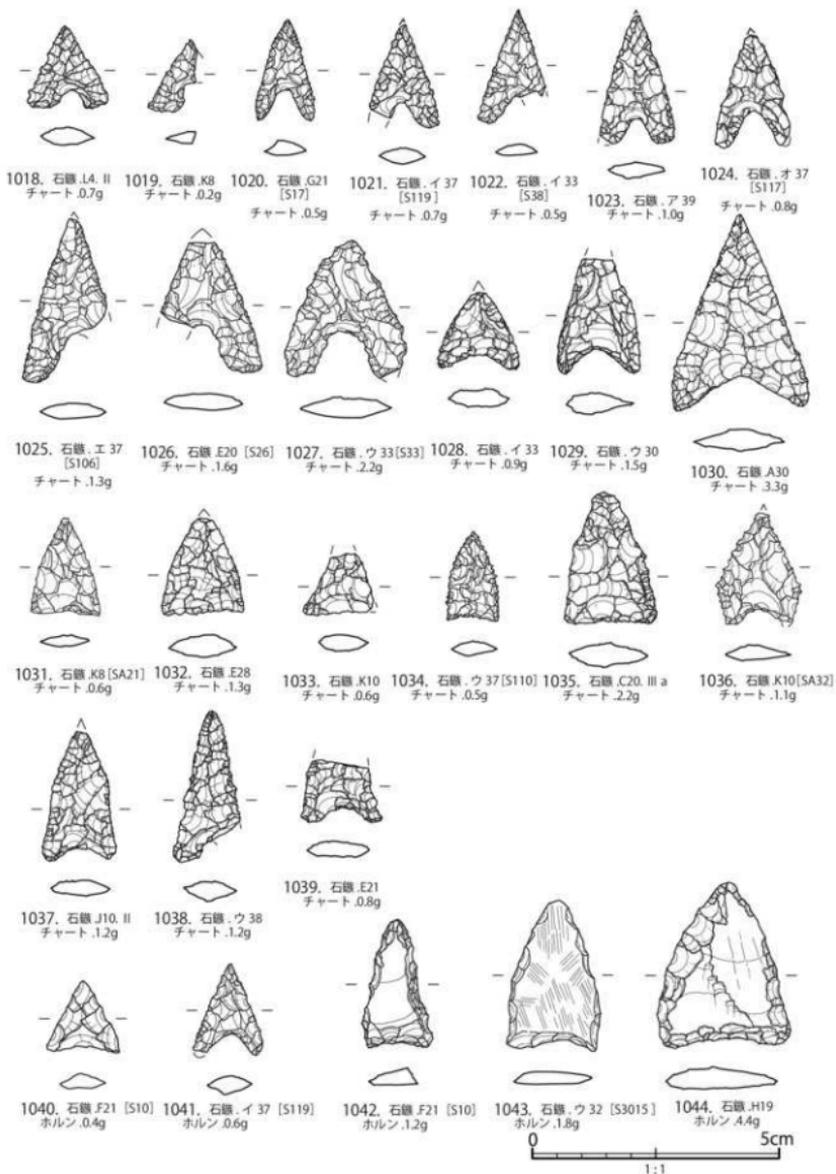
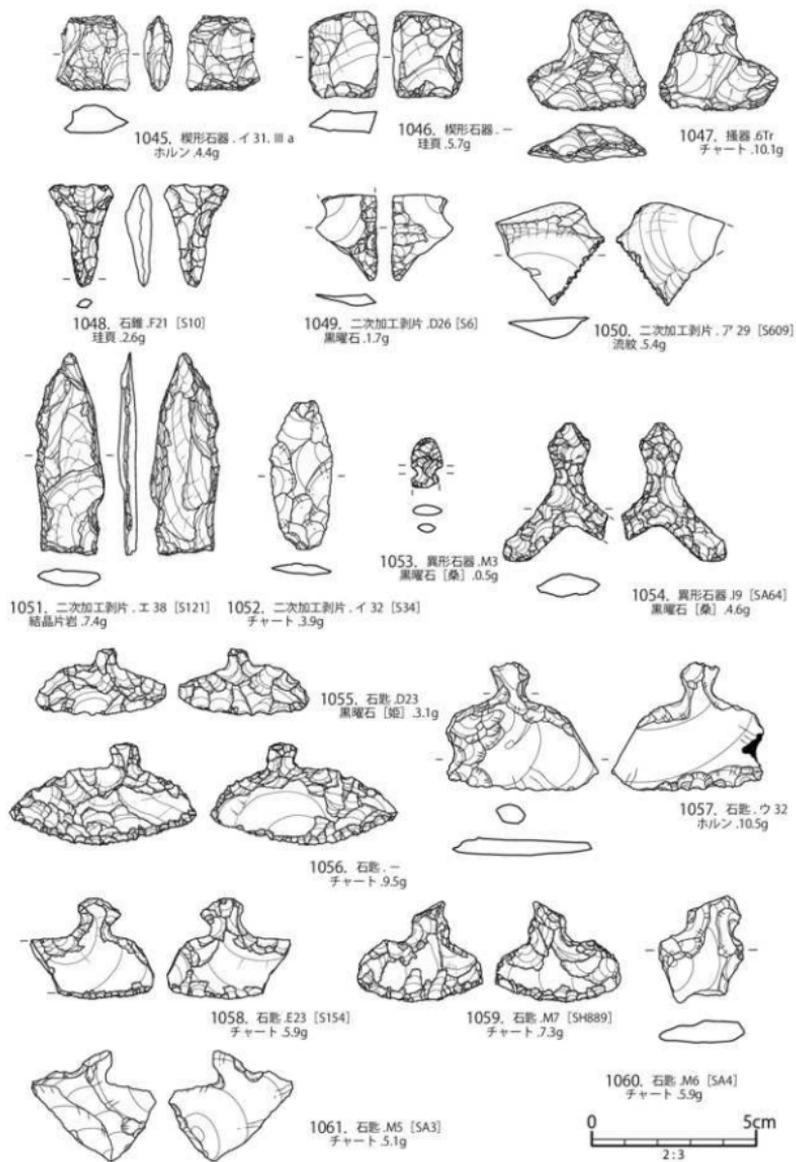


第 135 圖 繩文時代晚期石器實測圖 (2)

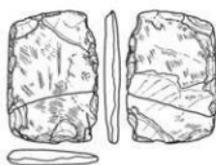


第 136 図 縄文時代晩期石器実測図 (3)

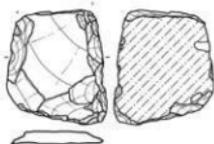


第 137 図 縄文時代晩期石器実測図 (4)

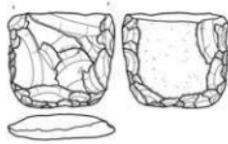




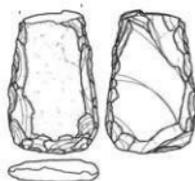
1066. 打製石斧 .D29 [S12]  
ホルン .59.1g



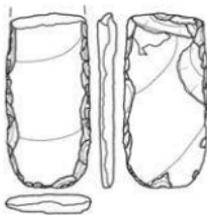
1067. 打製石斧 .一  
ホルン .52.8g



1068. 打製石斧 .G18 [S60]  
ホルン .81.5g



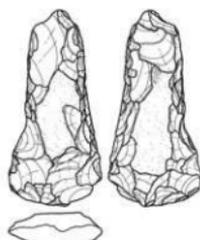
1069. 打製石斧 .一  
ホルン .94.7g



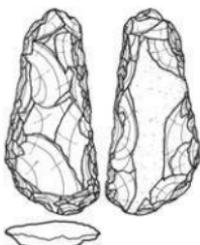
1070. 打製石斧 .F22  
ホルン .86.1g



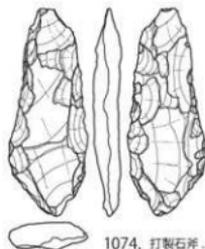
1071. 打製石斧 .C24 [S122]  
ホルン .113.6g



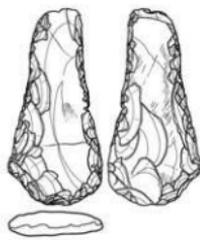
1072. 打製石斧 .K7  
ホルン .155.9g



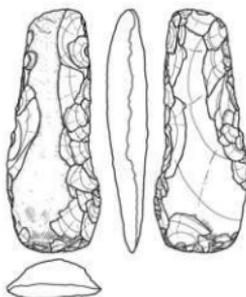
1073. 打製石斧 .一  
ホルン .121.7g



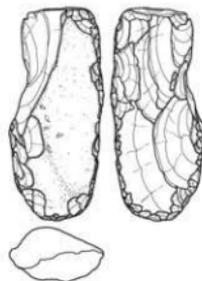
1074. 打製石斧 .一  
ホルン .102.1g



1075. 打製石斧 .M7  
ホルン .108.5g



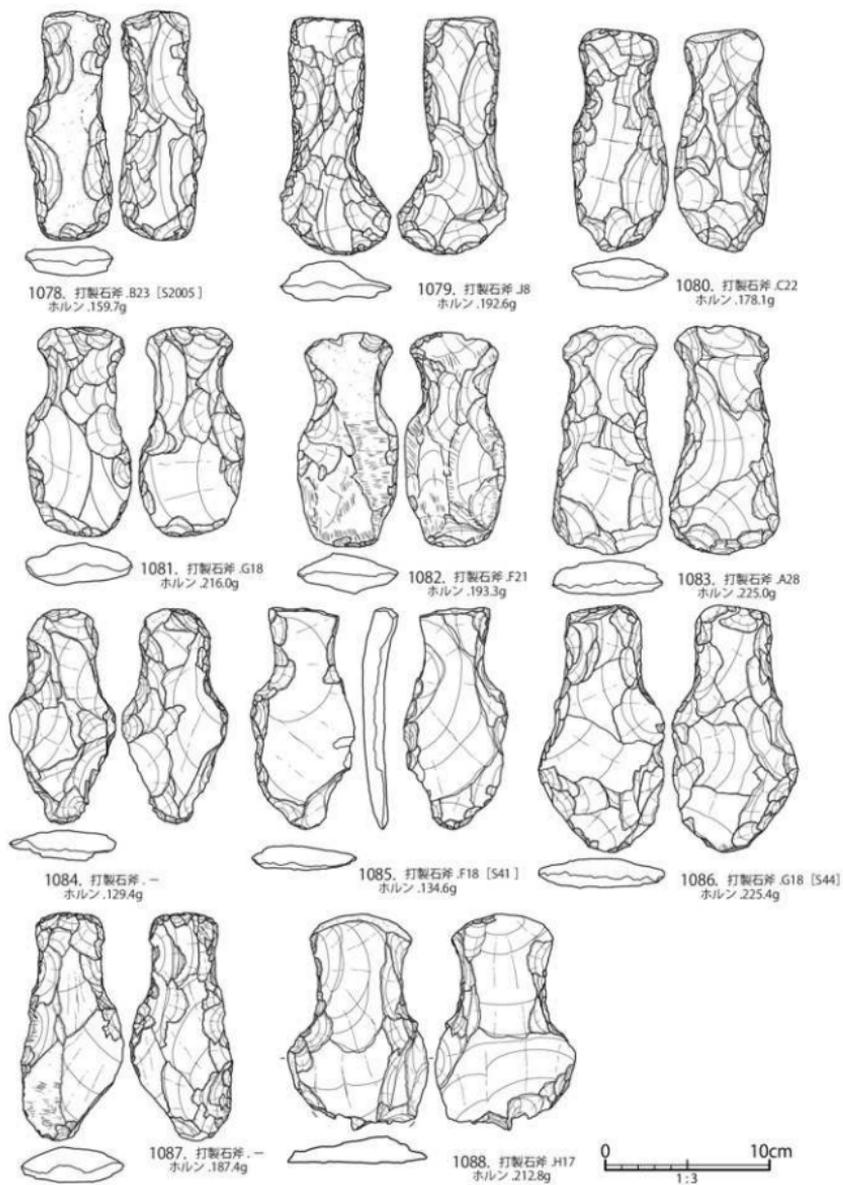
1076. 打製石斧 .C23 [S170]  
ホルン .213.3g



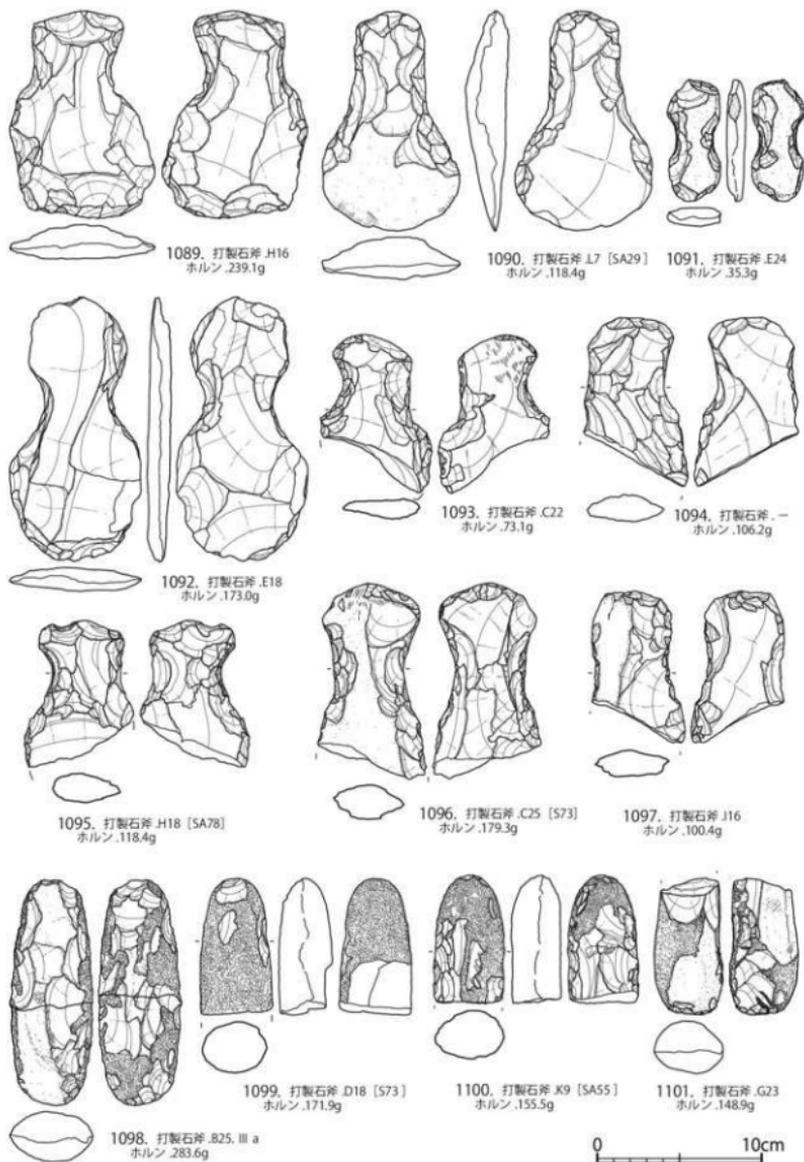
1077. 打製石斧 .C22 [S150]  
ホルン .271.4g



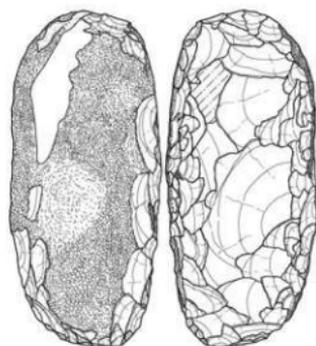
第139図 縄文時代晩期石器実測図(6)



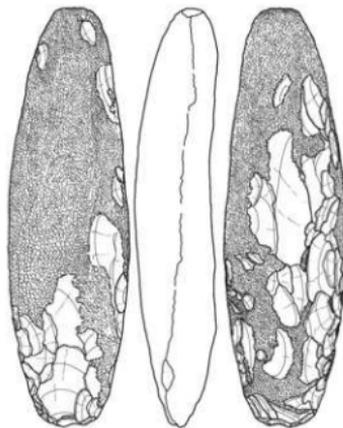
第140図 縄文時代晩期石器実測図(7)



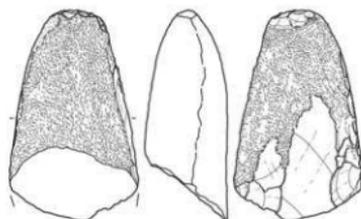
第141図 縄文時代晩期石器実測図(8)



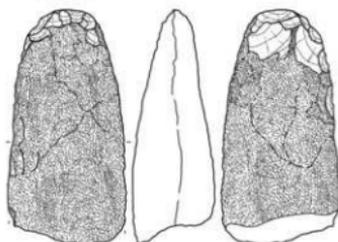
1102. 打製石斧 E17 [S38]  
ホルン .1557.0g



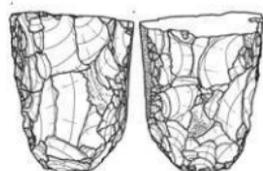
1103. 打製石斧 J11 [SC130]  
ホルン .1213.0g



1104. 打製石斧 .ア 32 [S344]  
ホルン 569.0g



1105. 打製石斧 .G20 [S18]  
ホルン 640.0g



1106. 打製石斧 E19 [S80]  
ホルン 438.0g



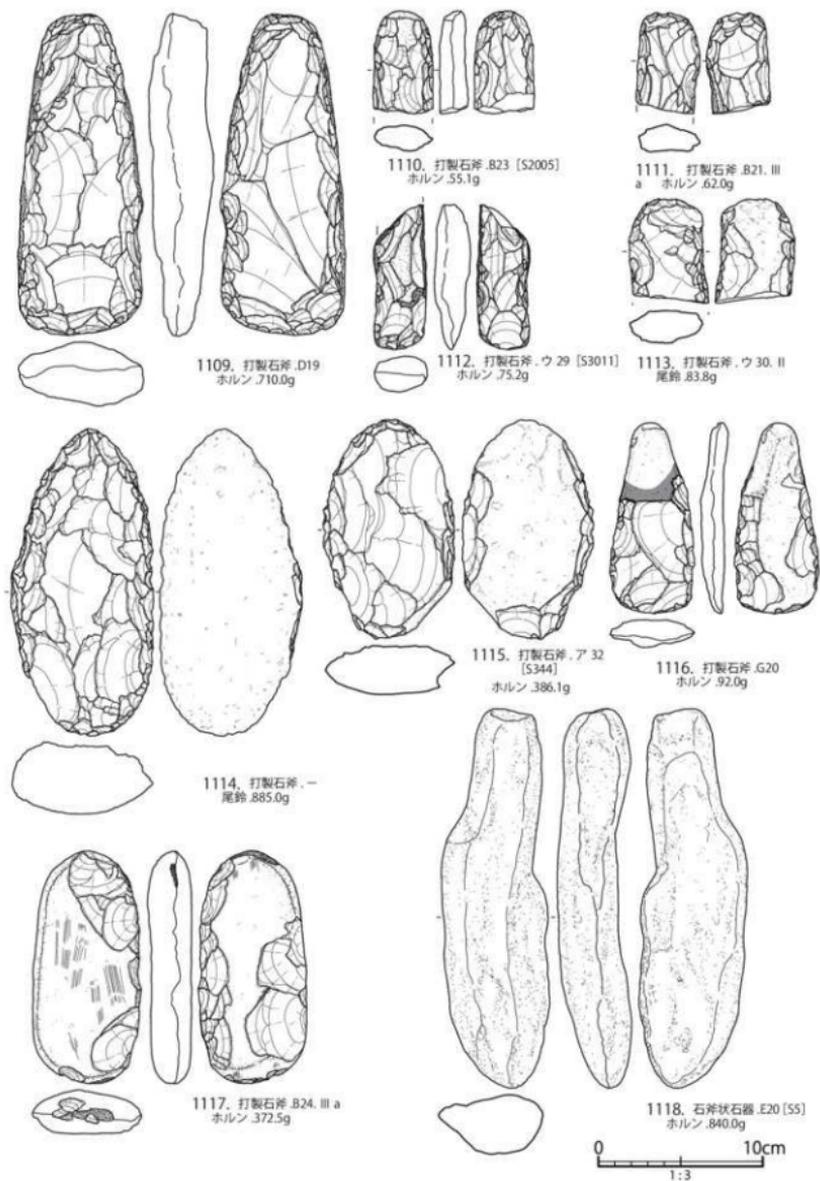
1107. 打製石斧 .-  
ホルン 402.0g



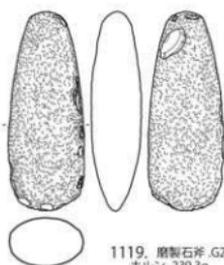
1108. 打製石斧 .G18 [S44]  
ホルン 253.8g



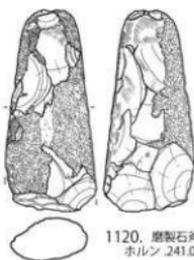
第 142 図 縄文時代晩期石器実測図 (9)



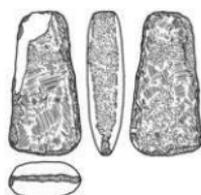
第 143 図 縄文時代晩期石器実測図 (10)



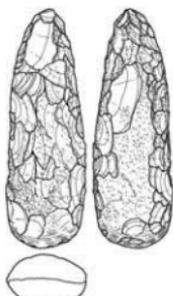
1119. 磨製石斧 .G20  
ホルン .239.3g



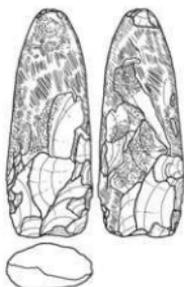
1120. 磨製石斧 .B20. III a  
ホルン .241.0g



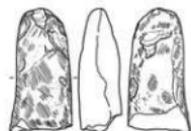
1121. 磨製石斧 -  
蛇紋 .133.8g



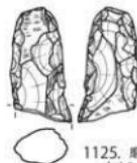
1122. 磨製石斧 .E23  
ホルン .273.8g



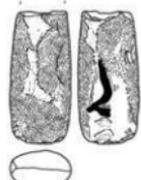
1123. 磨製石斧 .M7. III a  
ホルン .265.1g



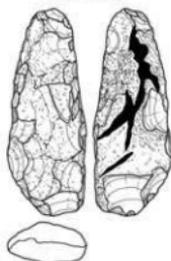
1124. 磨製石斧 .G23  
ホルン .101.2g



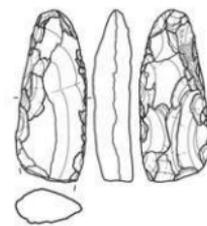
1125. 磨製石斧 .D24 [S27]  
ホルン .61.2g



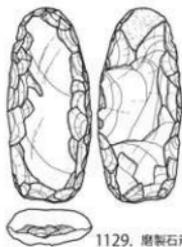
1126. 磨製石斧 .F20  
ホルン .109.3g



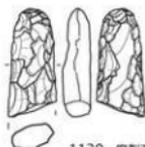
1127. 磨製石斧 [未製品] .H20  
ホルン .179.4g



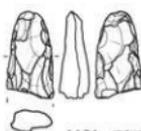
1128. 磨製石斧 [未製品] .H21  
ホルン .131.1g



1129. 磨製石斧 [未製品] .J10 [SA23]  
ホルン .188.3g



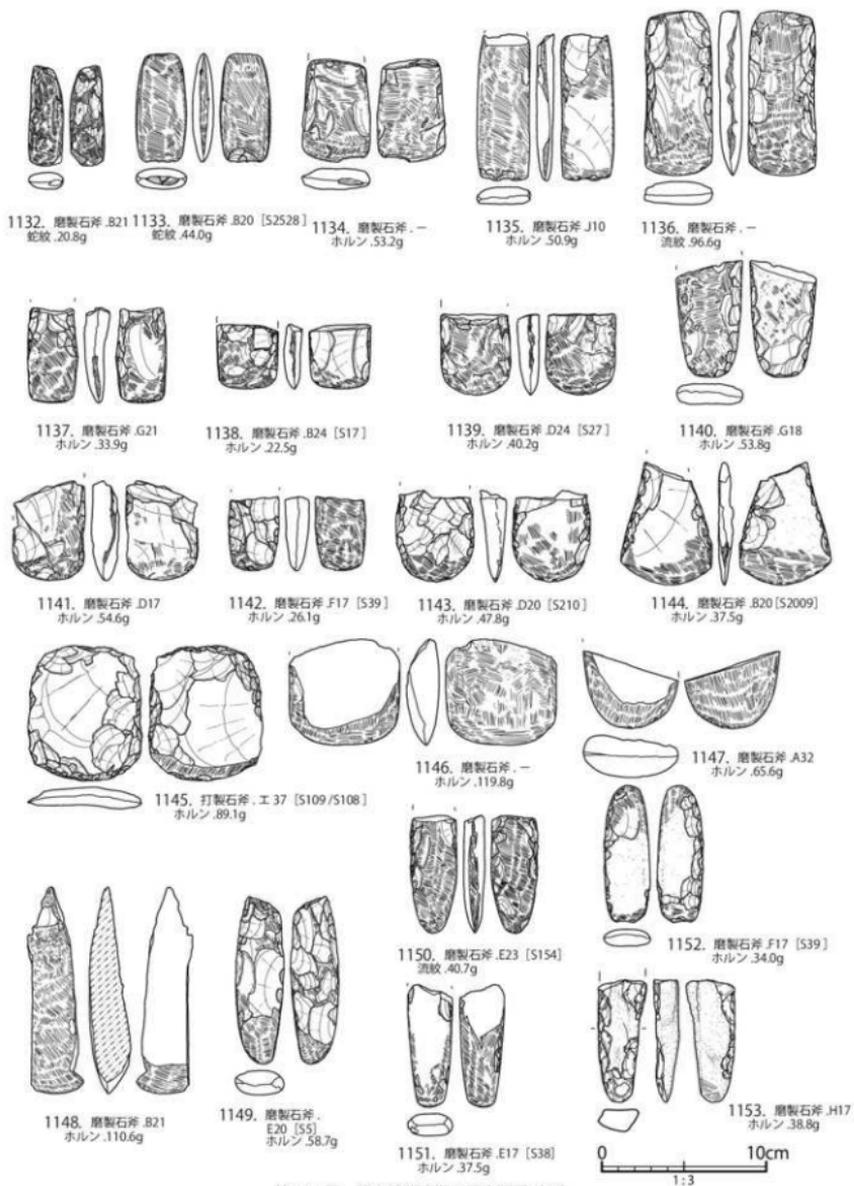
1130. 磨製石斧 [未製品] .H21  
ホルン .42.0g



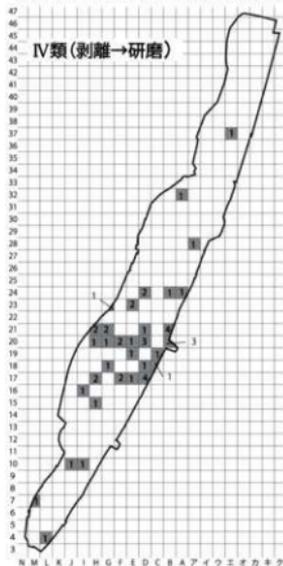
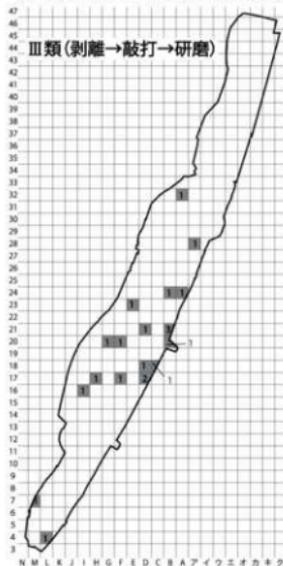
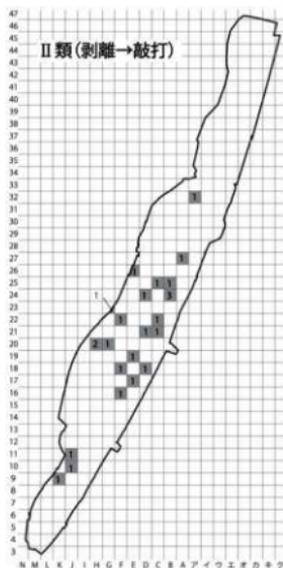
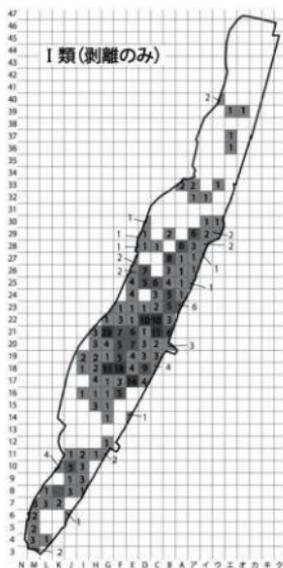
1131. 磨製石斧 [未製品] .F20  
ホルン .27.7g



第 144 図 縄文時代晩期石器実測図 (11)

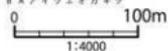


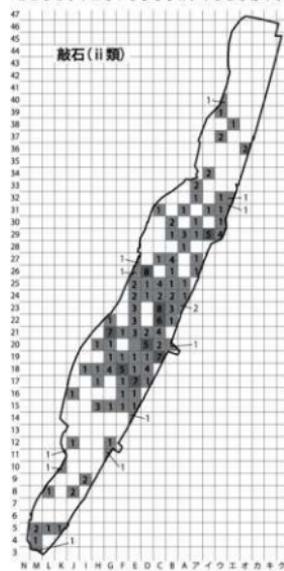
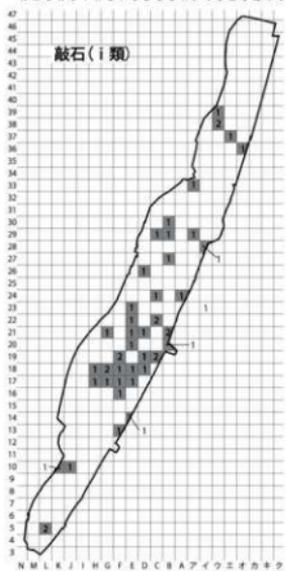
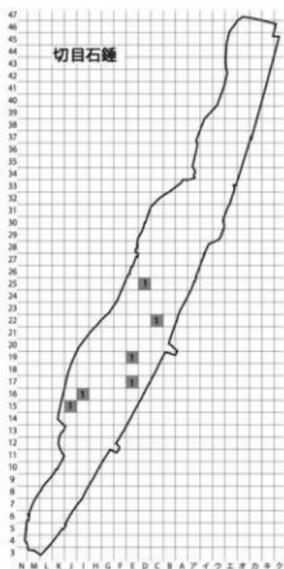
第 145 図 縄文時代晩期石器実測図 (12)



※ 出土地不明のものは点数に加算していない。

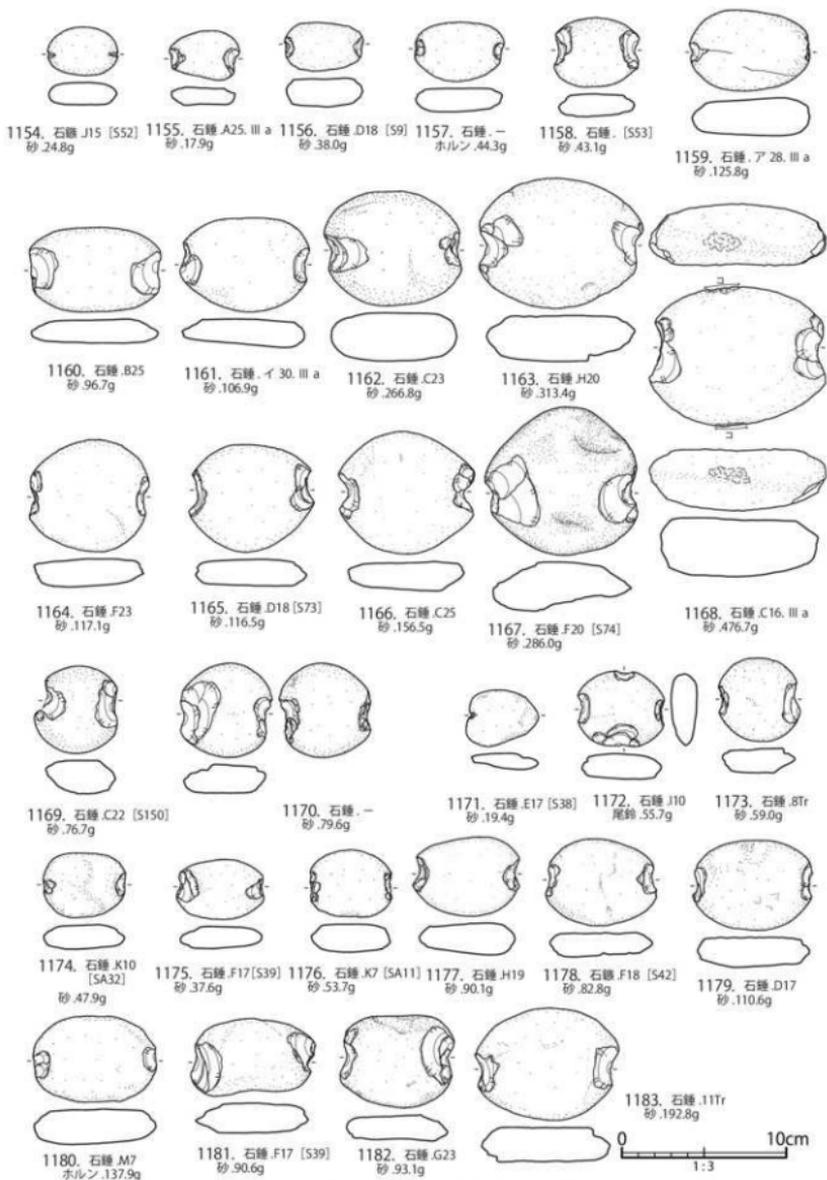
第146図 石斧 (I~IV類) 分布図 (数字は出土点数)



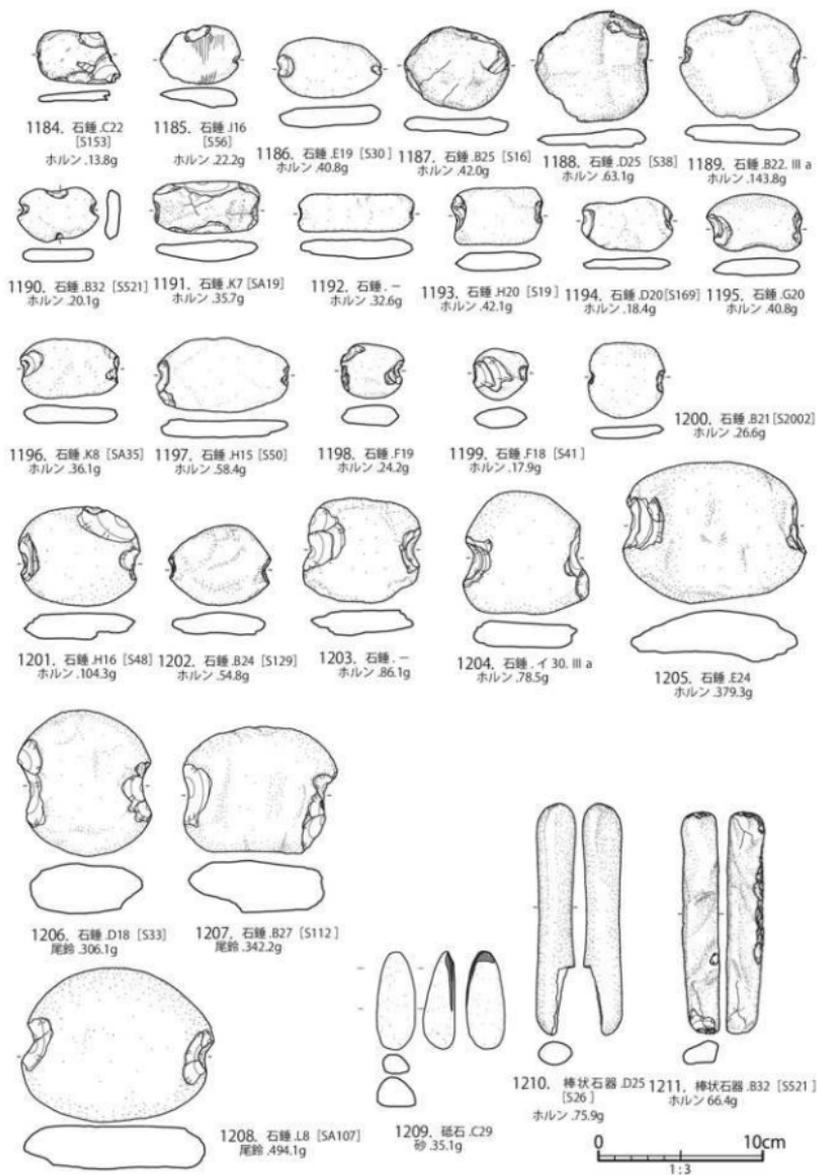


※ 出土地不明のものは点数に計算していない。

第147図 石鍾(打欠・切目)・敲石(i類・ii類)分布図(数字は出土点数)



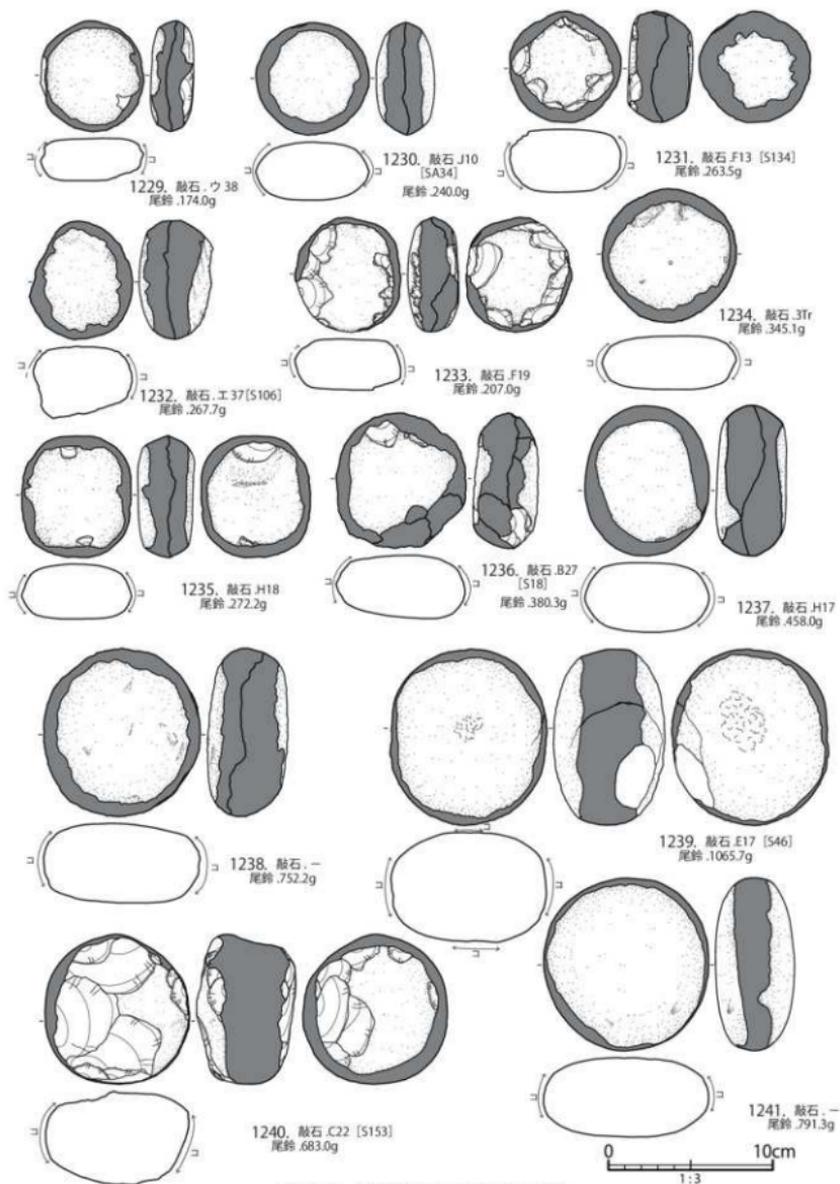
第 148 図 縄文時代晩期石器実測図 (13)



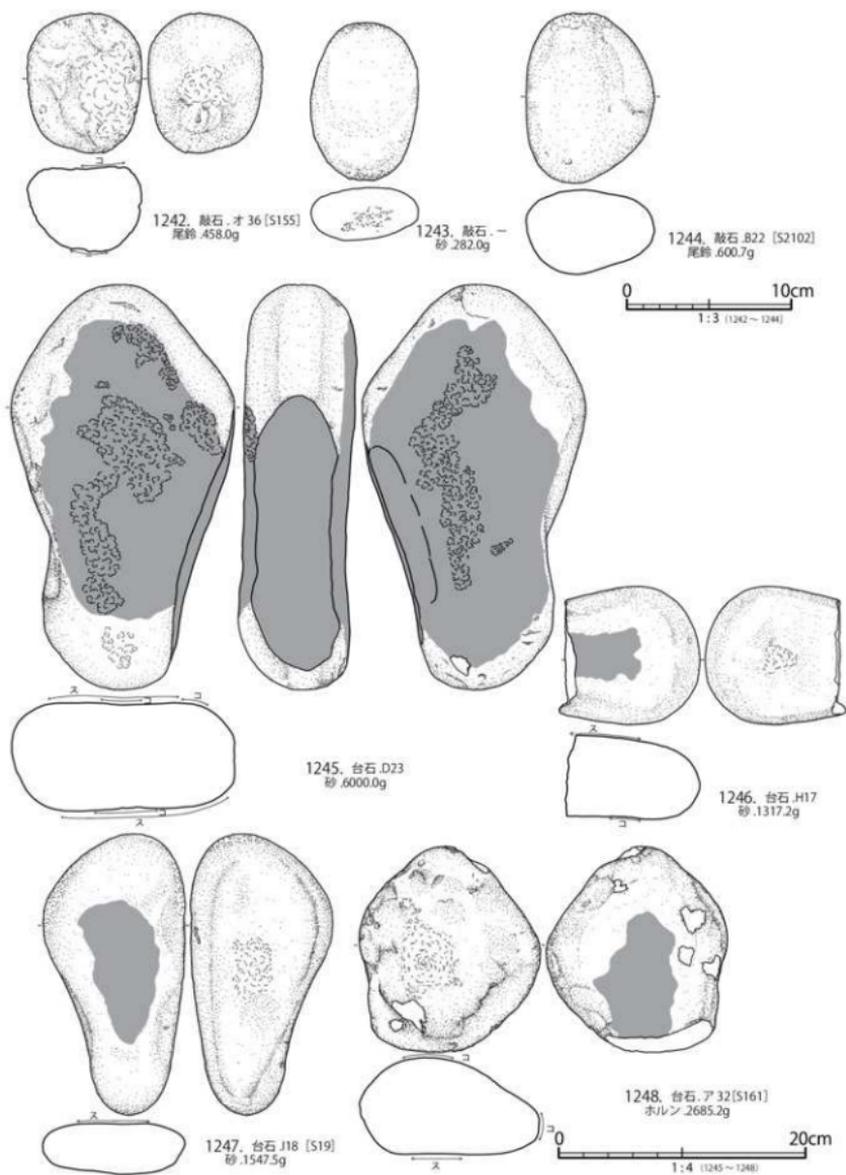
第 149 図 縄文時代晩期石器実測図 (14)



第 150 図 縄文時代晩期石器実測図 (15)



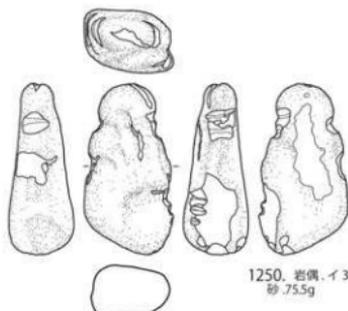
第 151 図 縄文時代晩期石器実測図 (16)



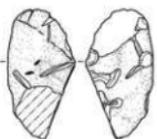
第 152 図 縄文時代晩期石器実測図 (17)



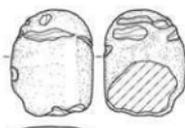
1249. 岩偶 F20 [S24]  
砂 34.6g



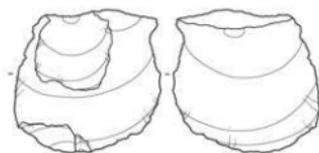
1250. 岩偶 -イ 33 [S38]  
砂 75.5g



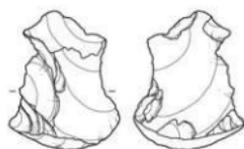
1251. 岩偶 G19  
ホルン 20.0g



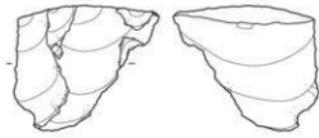
1252. 岩偶 H15 [S50]  
砂 21.6g



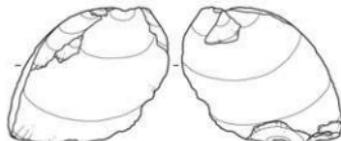
1253. 剥片 M5 (SC318)  
尾鈴 .171.9g



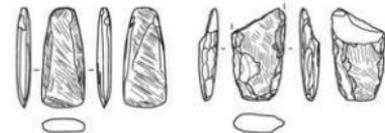
1254. 剥片 M5 (SC318)  
尾鈴 .82.3g



1255. 剥片 M5 (SC318)  
尾鈴 .102.7g



1256. 剥片 M5 (SC318)  
尾鈴 .175.8g



1257. 磨製石斧 H15 (S50)  
鉋紋 24.9g

1258. 磨製石斧 E19 (S7)  
鉋紋 23.4g



第 153 図 縄文時代晩期石器実測図 (18)

## 第V章 まとめと考察

本遺跡は、旧石器時代から近世まで、多くの時期の遺構・遺物が確認される複合遺跡であるが、本書では、旧石器時代～縄文時代草創期、早期、前～後期、晩期に位置づけられる遺構・遺物について報告を行った。以下、時代ごとにまとめと考察を行う。

### 第1節 旧石器時代

旧石器時代の遺構・遺物は、複雑に重複する弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡等による改変により、遺物包含層は大きな擾乱を受けている。さらに、包含層より出土した遺物に関しても、同一層内に旧石器時代の遺物と縄文時代草創期、早期の遺物が混在している。

このような制約はあるが、本遺跡の特徴を示すものとして18点のナイフ形石器の出土がある(第8図1～18)。ナイフ形石器は、調査区北端に位置するカ43G周辺と調査区南端にあたるM5G周辺でその分布は集中し、その分布域は大きく異なっているが、出土したナイフ形石器からは共通した形態的・技術的特徴を垣間見ることができる。

ナイフ形石器の特徴には以下の4つが挙げられる。

- ①小形縦長剥片素材の比率が圧倒的に高い。
- ②インバースリタッチが施されたものが多い。
- ③剥離面に縦長剥片素材石核のボシ面を残すものが多い。
- ④石刃技法を用いたものが多い。

これらの特徴から相対的に判断すると、本遺跡のナイフ形石器は、宮崎10段階編年(宮崎県旧石器文化協議会2005)の第7段階に位置づけられる。

(文責:岸田)

(参考文献)

- ・宮崎県旧石器文化協議会2005『宮崎県下旧石器遺跡調査報告書』(旧石器考古学)66号 旧石器文化協議会

### 第2節 縄文時代草創期

縄文時代草創期では、竪穴式遺構が1基検出され、遺構内から土器や石器などが出土した。このうち、竪穴式遺構とした縄文時代草創期と断定できる遺構

(第15図A1 SC256)は県内でもごく僅かであり意義は大きい。

県内の類別は、清武町上猪ノ原遺跡第5地区の竪穴住居跡のみであろう。同遺跡の例では、遺構内に焼土や石組跡があり、周囲には柱穴と見られるピットが巡る状況である。また、遺構内からは多量の土器とともに石鏃、槍先形尖頭器、台石、蔽石、磨石、剥片等の石器も出土している(秋成2007)。

本遺跡の竪穴式遺構にはピットや焼土が伴わず、石器も台石、蔽石、剥片に限られている。したがって、竪穴住居跡と判断する根拠には乏しい。しかし、出土遺物やこの遺構を中心に隆帯土器の分布が広がる状況から、何らかの活動の痕跡であることは間違いないと思われる。竪穴住居跡とすると、規模も他遺跡の事例に比べてやや小振りであるが、住居跡の認定としてその規模は範囲内ではあろう。現時点では、竪穴式遺構とせざるを得ないが、住居跡である可能性は指摘しておきたい。

竪穴式遺構内の土器群も重要な資料である。遺物の垂直分布がやや散漫であるため、厳密な意味での一括資料とは言えないが、比較的短い期間に使用された土器の形態を示す資料といえる。確認された3点の口縁部(第15図72、73、74)は異なった特徴を示しており、同一時期のバリエーションを示す資料として理解できよう。

また、竪穴式遺構内出土の底部については、底径が比較的大きなもの(第15図81、83)と小さなもの(第15図82、84)がある。鹿児島県三角山遺跡では縄文時代草創期において土器が大小に分化しており、それらがセット関係にあった可能性が指摘されている(鹿児島県埋蔵文化財センター2006)。

(文責:福田)

(参考文献)

- ・秋成博幸2007『宮崎県上猪ノ原遺跡における縄文時代草創期』平成10年度研究大学院大学学術推進研究『先史日本における土器の形成とその社会的意義』研究報告会資料第1編 研究報告会学術研究会
- ・鹿児島県埋蔵文化財センター2006『三角山遺跡(3) (三角山1遺構)』鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第96集

### 第3節 縄文時代早期

#### 1 集石遺構について

本遺跡では、243基の集石遺構が検出された。しかし、これまで幾度も触れているように、Ⅲb層 (KAI) 下位まで掘り込まれる弥生時代以降の遺構等により、集石遺構は削平や二次的な移動が想定される。

また、個体別の集石遺構の検討についても、本書でB類とした掘り込み・配石を持たない集石遺構は、まさに「礫の絨毯」とも呼べるような散礫が検出されている本遺跡では、その遺構認識の差異といった問題から客観性に欠ける。

そのため、ここでは、掘り込みを伴う集石遺構に限り、以下の3つの点を中心に検討を行う。

#### a 炭素14年代測定の結果と集石遺構について

#### b 配石を有する集石遺構について

#### c 集石遺構の分布について

上記のa, b, cは、以下に示す本遺跡の特徴に着目したものである。

a: 自然科学分析結果の援用により、客観的に集石遺構を検討できる

b: 上部削平の資料が多い中で、集石遺構の平面形態や残深、内部礫の石材、大きさ、重量の分析は検討に向いていない。しかし、配石は人が意図して「配置」したものと考えられ、傾向が見出せる可能性がある。

c: 広範囲にわたり調査が行われた本遺跡において、台地上の中での集石遺構の分布の傾向を見ることができると。

#### a 炭素14年代測定の結果と集石遺構について

炭素14年代測定の結果によって、集石遺構の特徴に言及している遺跡に清武町船引台地上の遺跡群がある。このうち、清川第1遺跡では炭素14年代測定の結果を受け、早期の集石遺構について以下の時期大別を行っている。(清武町教育委員会2006)。

- 1) 9350年BP頃: 「ボール状の大型の掘り込みを持ち、かなり磨耗した礫が掘り込み中央に集中するタイプ」
- 2) 8500年BP頃～8200年BP頃: 「掘り込みを持つタイプ」
- 3) 7500年BP頃: 「礫が平坦の(円形)に集中するタイプ」
- 4) 6800年BP頃: 「円形の掘り込みを持ち礫がギッシリと詰まった小型の集石遺構」

清川第1遺跡は、宮崎平野部南端に位置し、標高80～85mの台地上に立地する。遺跡の近隣に清武川が流れ、遺跡周辺には湧水地点も確認されている。本遺跡と立地する地域こそ違うが、地形条件は同じと思われる。

本遺跡では、19基の集石遺構に対して炭素14年代測定を行った。各分析結果については、文中に示したが、それをまとめたものが第9表である。

第9表をみると、時期的な差はBC8500年～BC8000年、BC7500年～BC7000年、BC6500年前後の3つの範囲を見出せる。このうち、9400±50BPと分析値が示したA5 S31はボール状の掘り込みを持ち、礫が遺構上部付近に集中する。

7500年BP～7700年BP頃の分析結果が得られたA1 S59、A4 S16、A3 S103、A5 S17は、全て配石を有さず、浅い掘り込みを持つものである。

第9表 集石遺構炭素14年代測定結果一覧表

測定番号	遺構名	補正年代	試料採取位置	B.C.					
				6,000	8,000	8,000	7,000	7,000	6,500
Beta-226346	A1 S12	8760 ± 40BP	内部礫中						
Beta-226347	A1 S123	8230 ± 40BP	配石内						
Beta-226348	A1 S146	8280 ± 60BP	配石上部						
Beta-226349	A1 S159	7770 ± 50BP	内部礫中						
Beta-226350	A1 S165	8390 ± 40BP	配石上面						
Beta-226351	A1 S170	8480 ± 60BP	配石上面						
Beta-226352	A1 S178	8360 ± 50BP	内部礫中						
Beta-226353	A1 S18	3860 ± 40BP	配石周辺						
PEI-8494	A1 S118	8155 ± 30BP	遺構底部付近						
PEI-8495	A1 S146	8345 ± 30BP	遺構底部						
PEI-8496	A1 S159	8130 ± 30BP	遺構底部						
Beta-226345	A3 S123	8150 ± 50BP	遺構底部						
Beta-226324	A4 S16	7560 ± 80BP	遺構底部						
PEI-8535	A3 S103	7780 ± 30BP	遺構内上部付近						
PEI-8536	A3 S141	8090 ± 35BP	遺構内上部付近						
PEI-8537	A5 S170	8865 ± 35BP	遺構底部						
PEI-8538	A3 S153	7815 ± 30BP	遺構底部						
Beta-226368	A5 S17	7530 ± 40BP	遺構底部付近						
Beta-226369	A5 S31	9400 ± 50BP	遺構底部付近						

■ は1σ (Bate: 68%確率, PED: 68.2%確率)

■ は2σ (Bate: 95%確率, PED: 95.4%確率)

8500年BP～8000年BPを示す11基の集石遺構(A1 S8は除く)は、全て掘り込みを持ち、さらに配石を有している。

このように、炭素14年代による分析結果は、船引台地上の遺構群の炭素14年代による集石遺構の時期大別を自認する結果となった。

小丸川を挟んで対岸する野首第2遺跡でも、集石遺構が189基検出されている。炭素14年代測定によれば8500年BP頃と結果が得られた集石遺構は、そのほとんどが掘り込み・配石を有している。さらに、集石遺構の特徴が、調査区により異なるといった調査成果も報告されている。

こうしたことから、小丸川周辺においても、集石遺構の持つ属性により時期の大別を行うことは可能と思われる。

#### b 配石を有する集石遺構について

配石を有する集石遺構(A I類)は44基検出され、その内32基が調査区南より検出されている。ここで調査区南において、各類型別に分布をみると、傾向としては弱いもののA I類周辺に規模の小さなA II類が分布している。

また、A I類はA II類に比べ、掘り込みが深い傾向が強く、さらに第3表(P38)で示したように、A I類のほうが切り合いを持つものはなく、多くは、A II類との切り合いであった。これは、A I類とA II類の基数の寡多を勘案しても明確な差である。

このうちA I類をA II類が切るA1 S176、77(第36図)やA1 S151、52(第47図)のように、一方の土坑壁面には、配石が敷き詰められているのに対し、A II類の集石遺構が掘り込まれることにより、土坑壁面に敷き詰められた配石は除去されたことが確認されるものもある。

勿論、A I類とA II類との切り合いについては、これまで幾度か指摘される「準備礫・廃棄礫」(宮崎県教育委員会1985、清武町教育委員会2004)といった、旧石器期に存在した異なる機能をもつ施設であった可能性も想定しなければならない。しかし、A I類同士の切り合いが確認されないこと、A I類をA II類が切る傾向が強いこと、前述した自然科学分析

の結果から、本遺跡においてA I類は、台地上に人々が住み始めた初期段階の遺構であり、A II類はA I類に付属する旧石器期の施設あるいはA I類に後続する集石遺構である。

これまでA I類とした集石遺構が本遺跡においては初期段階に位置づけられる可能性を示したが、各集石遺構の配石の「配置」の特徴は一定ではない。

ここでその傾向を大まかに示すと、以下の5つの傾向を見出すことできる。

- ①: 土坑とは別に配石を意識した掘り込みを持ち、配石が配置されるもの (A3 S14、A1 S46)
- ②: 土坑下部に配石が面を持って配置されるもの (A1 S40、A1 S77)
- ③: 土坑下部に配石がボウル状に配置されるもの (A1 S70、A1 S95)
- ④: 土坑上端まで配石が壁面を沿うように配置されるもの (A1 S8)
- ⑤: 内部礫に比べ大きな礫が散在するもの (A4 S2、A1 S16)

①～⑤とした配石の「配置」は人が機能差等による意図が働いたために起こると思われるが、上記の分類のうち、②、③が多くを占め、①、④としたものは図化したもの以外には存在していない。また、⑤に関しては、内部礫に比べ明らかに大きな礫が含まれるが、これが配石を意識し「配置」したものと限らず、配石が抜き取られた可能性や、内部礫の可能性もある。

#### c 集石遺構の分布について

本遺跡は台地上に、調査範囲が設定され、集石遺構は台地縁辺に集中するといった傾向がみられた。

調査区の中でも、台地南西縁辺に位置する調査区南端では、集石遺構群ともいえるような集石遺構の密集地帯であり、礫が存在しない範囲はなく、調理施設と推測されているが、その中でもほとんど確認されなかった。

集石遺構のセトルメントパターンについて考察した、八木澤一真氏の分類によれば、「堅穴住居」は存在しておらず、集石遺構群とは場場の空間構成は見られないものの、施設構造の発達した集石3類(本書



第154図 尾花A遺跡と尾花坂上遺跡位置関係図

分類AⅡ類、集石4類〔本書分類AⅠ類〕が検出される場合〕とし、長い年月にわたる恒常的な「食生活の場」としての確立を指摘する(八木澤 2007〔 〕内は文責者追加)。

本遺跡の調査区南端は、指箭のとおり、まさに恒常的な「食生活の場」といえるだろう。

本遺跡の周辺に立地する遺跡に目を向けると、本遺跡からおよそ500m東には、本書の分類でAⅠ類、AⅡ類に該当する集石遺構が380mから34基検出された尾花坂上遺跡が立地する(第154図:巻頭写真3)。

尾花坂上遺跡は、現地地形では、両遺跡を挟む谷から派生する台地南西縁辺に位置し、集石遺構の密集規模は、本遺跡調査区南端と同じか、それよりも高密度となっている。

尾花坂上遺跡では、貝殻文土器(中原Ⅱ式)や押型土器(下菅生B式)等が出土しており、本遺跡と同時期の遺跡と思われる。両遺跡をつなぐ範囲の状況は不明確なため推測ではあるが、恒常的な「食生活の場」の範囲は台地縁辺に派生し、かなり広い面積を持って存在していた可能性もある。

#### d. 本遺跡の集石遺構について

これまで、a、b、cの視点で本遺跡より検出された集石遺構を検討してきた。類型別の相違をみると大枠では、AⅠ類がAⅡ類に先行する可能性があるが、その時間差が長期的なものかは分からない。

本遺跡のような集石遺構群が形成されるには、人々が礫を採取しやすい地点であることが第一の条件であろう。礫層内の構成礫と集石遺構の内部礫・配石の石材構成が似ることがこれを示している。次に、複数時期に渡る利用であるが、それがどの程度の長さであるのかは判断が難しい。

前述したa、bとの矛盾は理解しているが、個別の集石遺構に関して、形態的分類により時間差を見出すことに疑問も感じている。仮に、集石遺構の利用可能な回数が1基につき数回で、2~30年間に渡ってその場が継続的に使用されていったとすると、本遺跡のような集石遺構群や「礫の絨氈」が広がるのは案外容易なことであり、これまで言われてきたよりもかなり短いスパンで礫が広がっていったのではないかとも思う。

また、AⅠ類どうしの切り合いは確認されていないが、AⅠ類がAⅡ類に先行する例もあれば、その逆となる例、また、AⅡ類どうしかり合い合う例等類型別にも傾向は見出しがたい。

上記の例から考えると形態的・分類や切り合い関係から時期差を推定することは、実に困難な作業なのかもしれない。集石遺構をより理解するためには、分布の詳細を検討することに可能性を見出せると文責者は考える。

地域を別にする遺跡間ごとの遺構の形態的な比較等の検討より、むしろ遺跡が立地する空間内で集石遺構が少しずつ使用の場をずらしていったと推測し、集石遺構あるいは鏝の範囲について、よりミクロな視点で検討することが、集石遺構を理解する上で、一つの有効な手段となるのかもしれない。(文責:津田)

#### 《参考文献》

- ・宮崎県教育委員会 1985 『土上遺跡』『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第3集
- ・清武町教育委員会 2004 『龍山遺跡』『清武町埋蔵文化財調査報告書』第12集
- ・清武町教育委員会 2006 『伊弉Ⅰ遺跡』『清武町埋蔵文化財調査報告書』第21集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2005 『石倉Ⅰ遺跡』『宮崎県埋蔵文化財センター埋蔵文化財調査報告書』第101集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007 『野原Ⅱ遺跡』第一分冊『埋蔵文化財調査報告書』第158集
- ・八木澤一郎 1994 『南九州の集石遺構』『南九州縄文展』No.8 九州縄文研究会
- ・八木澤一郎 2007 『集石遺構とその機能 - 九州島の状況から - 』『縄文時代の考古学』5 ならびに『食料生産の発展』同誌
- ・横山直三・日高弘人 2003 『宮崎県の集石遺構と伊弉Ⅰ』九州縄文研究会・2004考古学学会

## 2 土器埋設遺構について

県内における縄文時代早期の土器埋設遺構については、清武町龍岡地区の事例が紹介されている(井田・秋成 2004)。土器の出土は全て正位であり、上猪ノ原遺跡の下刺釜式の例を除いて塞ノ神式の深鉢である。また、都城市伊勢谷第1遺跡では、塞ノ神式の深鉢が口縁部を下にして検出されている。底部が欠失して土坑内につぶれたような状態で出土しており、祭祀的な用途の可能性が指摘されている(都城市史編さん委員会 2007)。

また、土坑内からの出土ではないが、宮崎県椎原形第2遺跡ではカマの焼遺部分の床面近くの中房式

にあたる土器が検出されている。土器は口縁部を下にし、やや斜めになっている状態で出土し、報告者によると底部は打ち欠かれている(宮崎市教育委員会 1996)。

上に挙げた例は、上猪ノ原第4遺跡の下刺釜式の例を除いて全て縄文時代早期後葉に属するものである。明瞭な被熱の痕跡がある場合が多く、土器埋設遺構は同時期の遺物集中区から少し外れた地点に存在することが共通点として指摘される(清武町教育委員会 2005)。また、機能ははっきりしないものの、祭祀的な遺構として関連づけられることも多い。

本遺跡の土器埋設遺構(A1 SC210)は、その土器の特徴から縄文時代早期中葉に属すると考えられる。該別の土器埋設遺構として現在のところ最北の事例である。逆位の例としては2例目であり、伊勢谷第1遺跡の埋設土器と同様に、底部はその欠損面から打ち欠かれたと考えられる。他にも被熱の痕跡や、遺物分布域の縁辺に位置する点ではこれまでの類型に共通している。しかし、土坑内、土器内の焼礫の存在やユリ科植物の鱗茎が出土した点は新たな特徴である。

ここでは、本遺跡出土の土器埋設遺構について、

- ①熱を加えられていること
- ②焼礫が混入すること
- ③ユリ科植物の鱗茎という植物の可食部が出土したことの3点の特徴から植物を調理した可能性を指摘したい。土器内部を密閉空間として利用した石蒸し調理施設が考えられる。

どのような場面での調理であるかは不明であるが、祭祀等の非日常的な場面であったことは考えられ、使用される土器と同タイプのものが、遺跡内では他に出土していないことも示唆的である。(文責:福田)

#### 《参考文献》

- ・井田篤・秋成博樹 2004 『龍岡遺跡調査報告』『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第14回埋蔵文化財調査報告書
- ・宮崎県史編さん委員会 2007 『龍岡遺跡』『龍岡遺跡』都城市
- ・宮崎市教育委員会 1996 『龍山遺跡』『龍山遺跡』第2遺跡』『龍山遺跡地区全貌調査事業報告書』上・中・下巻埋蔵文化財調査報告書
- ・清武町教育委員会 2005 『上猪ノ原 - 4 - 』『上猪ノ原 - 2 - 』『清武町埋蔵文化財調査報告書』第17集

### 3 早期土器について

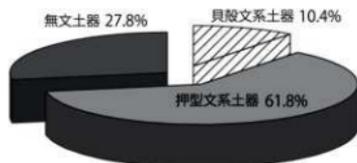
本遺跡から出土した早期土器について、これまでの編年研究の成果も踏まえながら、各分類別に若干の説明をしていきたい。なお、本遺跡から出土した早期土器の割合については、第155図の通りである。

#### a. I類 貝殻文系土器

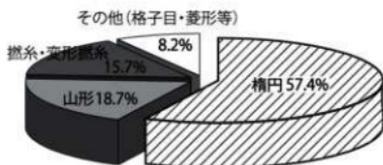
I A類のうち228～230は直口した口縁端部外面に貝殻線による刺突文あるいは押し文を施し、口縁部下位には貝殻条痕を施している。前平式土器に相当する。これは鹿兒島系の貝殻文円筒形土器の古い型式で、縄文時代早期前葉の時期に比定されている。この土器の特徴を引き継ぎ、宮崎で独自に作られた土器である231は口縁部に貝殻線による短沈線文列、口縁部下位に斜めの貝殻条痕を施している。金丸武司氏分類の「別府原2式土器」に相当する（金丸2007）。238～243の胴部及び246の底部は、上記に述べた貝殻文円筒形土器の一部である。なおA3SP4から出土した204は口縁端部外面にヘラ状工具による斜位の刺突文列を施している。金丸氏分類の「別府原3式土器」に相当する。

I C類の237は内面の口縁部部に粘土紐を貼付して肥厚させ、口縁部下位は横位の貝殻線刺突文を縦方向に二列施している。下刺式土器に相当する。胎土に4mm以下の白色粒や3mm以下の淡黄色、灰白色粒が入り、他の土器には見られない特色を有する。また、内面の調整も強いナデ調整が施され、光沢もある。244は別府原の同型式の胴部であるが、全体としてその個体数は少なく、客体として持ち込まれた可能性が考えられる。なお236は口縁部が直口し、口唇部を平らにして条痕を施す。外面は縦位の貝殻線刺突文を施し、その外縁部には短沈線文を施す。別府原式土器と下刺式土器の両方の特徴が見られることから、両者をつなぐ土器と思われる。

I B類の232、233は口縁部が外反し、口縁部に短沈線を施すことから、別府原式土器に後続する土器と考えられる。234は口縁部部に条痕文列を施し、その下位に櫛状の工具による条痕文を施している。桑ノ丸式土器に相当する。235も櫛状の工具で、外面に斜方向の条痕文が施され、口縁部も内傾することから上記の土器に近い時期のものと思われる。



第155図 早期土器重量割合図



第156図 押型文系土器重量割合図

#### b. II類 押型文系土器

本遺跡から出土した早期土器の約6割が押型文系土器であった。また、その施文様も第156図から分かるように楕円押型文が全体の約6割を占める。本遺跡の楕円押型文系土器の口縁部は、その器形や粒の大きさ、施文方向など非常にバリエーションに富んでいるので、そこに着目して、「北・東九州地域編年」(水ノ江1998)の土器型式を基準にして述べたい。

まず、II A類のうち247～250は最も古い時期に位置する川原田式に近い土器である(鹿兒島県埋蔵文化財センター：八木澤一郎氏・黒川忠広氏の教授による)。特に247は外面に横位の非常に細かい楕円押型文(斜線文)を施し、ベルト状施文をもつ。内面の口縁部にも同様の文様を施し、非常に丁寧に作られている。次にII A類のうち251～255は上記の土器に後続するもので、251、252は粒径が小さく横走して施文されていることにより、稲荷山式土器の範疇に入るものかと思われる。また、押型文土器の底部は一般的に尖底であるが、254、255は平底の底部であるので、岩永哲夫氏が指摘したように南九州では早い時期に平底の押型文土器が存在したことが分かる(岩永2008)。

Ⅱ B 類 (ア) の 260、261、314 は早水台式土器に比定される。直立した口縁で、丁寧な小形の押型文を外面に横走し、内面には原体条痕と横位の押型文を施す。特に 260、261 は、外面の口縁端部に無文帯を施す特徴をもつ。

「北・東九州地域編年」によれば、早水台式土器の次には、外面の施文が横位から縦位方向に変化する下管生 B 式土器、粗大な楕円押型文を特徴とする田村式土器の順になる。本遺跡において、下管生 B 式土器に比定できるのはⅡ C 類 (ア) の 316 である。その後Ⅱ C 類 (ウ) の 318 や 319 のような原体条痕を施さず、外面には縦位の、内面と口唇部に横位の山形押型文を施したものに變遷し、さらに口縁部が大きく外反したⅡ C 類 (ウ) の 320 や 322 のような山形押型文に変遷していったと推測される。

そこで、上記の変遷をもとに楕円押型文を施す口縁部を見てみると、Ⅱ B 類 (ア) の 256 は外面に小粒の縦位の楕円押型文を施し、内面にも口縁端部に同文様を横位に施す。また、同じ施文様か外反するⅡ B 類 (イ) の 265 にも見られる。これらの土器は原体条痕を施さないが、下管生 B 式土器の範疇に入ると考えられ、さらに粒を大きくしたⅡ B 類 (イ) の 263 や 264 のような楕円押型文土器や口縁部を大きく外反させたⅡ B 類 (ウ) の 279 ~ 281、284 や 285 のような土器に変遷すると推測できる。しかし、その一方でⅡ B 類 (ア) の 259 のように外面に横位の楕円押型文を、内面に原体条痕を施したものがある。これは内面に押型文を施さない、Ⅱ B 類 (イ) の 266 や 267 のような内面に沈線を施すものやⅡ B 類 (イ) の 268 ~ 270 やⅡ B 類 (ウ) の 282、283 のような田村式土器の範疇に属する土器に変遷したと推測される。以上のように楕円押型文の施文様の變遷には、二つの流れを見ることができ。

本遺跡で一番多く出土した土器は、外面に大粒の楕円押型文を縦・斜位方向に施し、内面は無文でナデ調整をしたⅡ B 類 (イ) の 272 ~ 277、Ⅱ B 類 (ウ) の 278 の口縁部を有するものである。これは沈目式土器と言われ、宮崎県域や熊本県域において主体的に出土する土器で、下管生 B 式土器が分布域を拡大する中で、本来の型式情報を拡散させた土器と理解

されており、大分編年の田村・ヤトコロ式並行期にあたる。本遺跡においては、この時期が縄文時代早期において一番の最盛期で、地域色の豊かな文化をもった時期と思われる。そして、この時期の楕円押型文土器の底部は 313 のように平底の底部があった。しかし、上記の時期以後には楕円押型文を施す土器はほとんど作られなくなった。

最後に沈目式土器から手向山式土器への変遷について述べてい。まず、今回の調査では手向山式土器は出土していないが、手向山式土器の前段階と思われるⅡ E 類 (ウ) の 372 ~ 375 の変形擔糸文を施した土器が出土している (八木澤氏・黒川氏のご教授による)。この土器は胎土に金色の雲母を多く含んでおり、外面に繊細な変形擔糸文を施し、口唇部にはミガキ調整を、内面は丁寧にナデ調整され、非常に精緻に作られている。そして、Ⅱ E 類 (ウ) の 376 ~ 378 も同様である。

#### C Ⅲ類 無文土器

無文土器は、早期土器の 4 分の 1 を占めており、口縁部がわずかに開きながらも、そのほとんどは直口する器形であり、尖底の深鉢である。器型の厚さにわずかな違いを指摘することはできるが、明確に区別する判断基準はもてなかった。しかし、S C 205 から出土した 208 や 209、同じ器形のⅢ類 (ア) の 408 や 409 の少ない資料からではあるが、本遺跡における早期の無文土器の具体的な器形や調整法について知ることができた。

以上のように、本遺跡では縄文時代早期前葉~中葉の土器群が断絶なく出土し、その中でも押型文系土器の沈目式土器段階にピークがある。しかし、その後の早期土器の出土量は急激に減少しておりこの現象については、今後の課題としたい。(文責: 山田)

#### 参考文献

- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007 『野原第 2 遺跡 第一分堀: 後編(石器群)』縄文時代早期編: 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 136 集
- ・金丸武司 2007 『宮崎における縄文時代(早期)の土器』『宮崎考古』19 号
- ・宮崎考古学会
- ・水ノ江正則 1998 『九州における押型文土器の地域性』『九州の押型文土器』編成集: 九州縄文研究会
- ・鈴木佳夫 2008 『南北朝の押型文土器』『宮崎考古』20 号、宮崎考古学会

#### 4 早期石器について

早期の石器は、打製石鏃、打製石斧、礫器、敲石・磨石類、台石等が出土した。出土石器の数量は第7表(P105)に示すとおりであり、早期石器の中で敲石・磨石類は大きな比重を占めている。

敲石・磨石類としたものには、凹みを持つもの、敲打痕を持つもの、磨面を持つものが存在し、これらは1つの個体中に複数の使用痕が観察される場合が多い。そこで、敲石・磨石類を、樹形図で示したものが第157図である(hは明瞭な磨面等が観察されないが、滑らかな面をもち、何らかの使用に関係すると考えたため礫とは区別した)。

第157図に示すように、凹みを有するものや凹みは確認されないが敲打痕を持つものは砂岩を利用し、磨面を持つものは、尾鈎山酸性岩類が利用されている。砂岩は軟質で、使用の痕跡が残しやすい石材であるのに対して、尾鈎山酸性岩類は硬質で、使用の痕跡が残りにくい石材と思われる。

さらに、24点確認された凹石についても触れたい。凹石は砂岩が石材として多く利用されている。砂岩は断面形が扁平なものと肉厚なものに区別され、凹みが確認される箇所は礫の中で平たい面である。

凹みは、一つの面に2つ以上が存在するものや正面から180°回転した方向に凹みが施されるもの、凹み同士が切り合いをもつもの(第85・86図543、544、551等)もある。また、凹みを持つ面に破損やひび割れは確認されない。

凹石は、これまで植物加工具や石器の製作具等とその用途が推測され、野村一邦氏により研究史がまとめられているが(野村1987)、その用途について説明できる資料は残念ながら本遺跡では確認されていない。さらにいえば、凹石が集中して出土した調査区南端は集石遺構が集まる場所でもあり、凹石は不用品として廃棄された後、集石遺構に混入し、焼礫としての役割を負わされたため、一定量も出土したとも推測される。実際、集石遺構から出土した凹石もあり、凹み内にも比熱を受けたかのような赤化が観察されるものも出土している。

このような二次的な移動が考えられる資料に対し、細かな時期を検討することは困難である。

そこで、一つの可能性として凹石の凹みの深さが、どの深さまで進むと廃棄されるのかについて検討を行った(第158図)。計測の仕方は第158図に示す通りであるが、ミリ単位での計測のため、この結果に意味を見出せるかは疑問も残る。

しかし、計測結果として凹みの最深部は1~2mm間と、3mm~4mm間に集中し、最短径が大きいものは最深部が深くなっている。また、重量と凹みの深さに関連は見出せなかった。

本遺跡から出土した凹石についてまとめるならば次の3点となる。

- ・凹石は8cm大ものも多く、手に持ち振りかざせる
- ・面に対して凹みが存在し、礫の破損率は僅かしかない
- ・重量に関係なく、凹みの深さは一定である



第157図 敲石・磨石類樹形図

さらに、重視したいのが、第85図543の凹石である。543は断面形が三角形となり3面それぞれに凹みが存在する。また、1つの面には2つの凹みが存在する。各面の凹みを側面図に示すと、第159図のように浅い凹みと深い凹みが確認される。

この浅い凹みと深い凹みが共存する理由について明確な答えを見出せないが、3つの面全てで浅い凹みと深い凹みが確認されることは注目される。

なお、国分直一氏は台湾・紅頭嶼の民族から「ヤミ族はこの石槌を用いてパンタナスの種実を潰して、これを食し(中略)石器は、使用していた面にある程度凹みができてしまうと新しい面を使用して、四面の全てに凹みができてしまうと、これを廃棄してしまう」と記述している(国分1957)。また、米沢容一氏は、上記の石槌を凹石の一種と考え、凹みの深さの相違から石槌と凹石の使用法、もしくは対象となるものの相違を指摘している(米沢1986)。

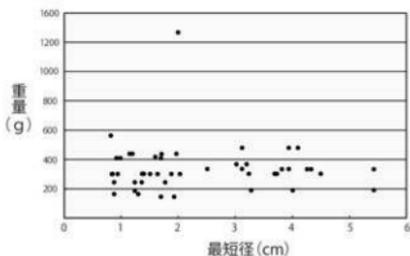
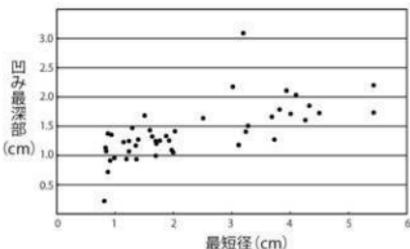
これらの記述は、本遺跡出土の543と同じような特徴を見て取ることができ、凹石の利用の一つ使用のあり方とも思われる。(文責：岸田・日高)

\* *Pandanus tectorius* (タコノキ科タコノキ属)

：南西諸島の海岸にふつうにみられる。果実は真夏に橙色に熟し、良い香りがする。果実は甘みがあり、食べられる。

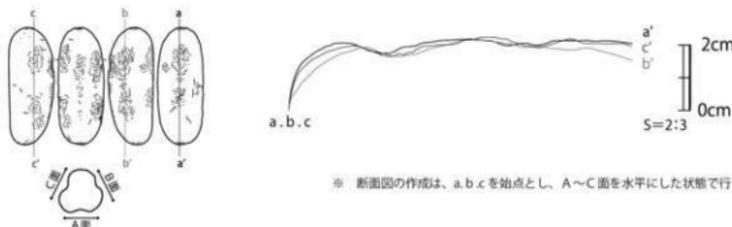
《参考文献》

- ・野村一寿 1987 「歴史研究のために(1)・学芸」 国史刊行館文化センター(編) 国史刊行館文化センター
- ・国分直一 1957 「紅頭嶼の石槌及び土器の考察」 『水産庁海洋物産研究所(古)人文科学』 第2巻 島林水産部編輯
- ・米沢容一 1986 「台湾・蘭陽出土の石槌・凹石」 『太古のオーストラリア人の生活空間』 1) 31 創日本教育出版株式会社
- ・山崎ハナディ 1985 藤々吹く花 2001 山と溪谷社



※ 凹み最深部の測定は、凹みの中に粘土により型取りを行い、その最深部から上端面までの長さを計測した。

第158図 凹み計測図



※ 断面図の作成は、a, b, cを始点とし、A～C面を水平にした状態で行った。

第159図 凹石(543)断面図

## 第4節 縄文時代前期～後期

### 1 遺構について

縄文時代前期土坑は調査区中央の西側谷寄りに、縄文時代後期土坑は調査区中央に分布するが、いずれも当該期土器分布との重なりは見られない。炭化物の炭素14年代測定は、試料のサンプリングから整理に至るまでにおいて様々なコンタミネーションの可能性を含むため、遺構出土遺物が無い限り、遺構の所属年代を実証することは困難で、推測の域を超えることはできない。しかし、ひとつの推測として、A4 S83の北東に位置するC31Grに位置する土坑A1 S778（弥生時代以降）の埋土から5358 ± 30BP (BC4340 ~ 4220)の年代値を示す炭化種実が出ていることも含め、この周辺に前期の営みの場があった可能性がある。

また、A4 S83は埋土が非常に硬く、他のⅢb層(KA)上の遺構埋土と比べ異質なものであった。出土遺物もなく、特に特徴がある訳でもないので土坑としか言いようのない遺構ではあるが、谷地形に至る丘陵縁辺近くに立地することから、陥し穴状遺構の可能性も推測できる。 (文責：高橋)

### 2 前期～後期土器について

出土数は少ないが、様々な型式の土器が出土している。土器編年に沿って若干の説明を行う。

597は特徴から縄B式土器と思われる。

598～614は曾畑式土器である。土器全体の形状を把握することは出来ないので、部分的な特徴を見てみる。口縁部は外反するものが多く、波状口縁も確認できる。口唇部刻みと口縁部に連続刺突文を持つものや器壁の薄いものが滑石粉末を多く含み、比較的丁寧な作りか成されている。胴部は文様に折帯文や四角組文が目立つ。今回出土した曾畑式土器片149点中胎土に滑石粉末を含む土器片の割合は約30%である。

615～617は器面に条痕地を残すもので、文様から曾畑式土器に近い特徴が見られる。

618は深壺式土器に類する。

619は中期前葉期の船元Ⅱ式土器と思われる。

620は器形から春日式土器の可能性がある。

やや太めの凹線を持つ621～623や沈線や貝殻文を持つ624、625、627、629は中期後葉から後期前葉に位置する土器である。

621～623は阿高式土器である。

624と627は後期前葉期に比定される土器で、前者は鉢式土器、後者は指筒式土器と思われる。

629は後期中葉期の市来式土器と思われる。

632～634は後期後半から晩期前半の黒色磨研土器の祖形をなす鉢形土器と思われ、632は太郎皿式土器より新しい卑段のもの、633、634は三万田式土器と思われる。

これらの前期から後期の土器は、これまでに本遺跡周辺の小川左岸台地縁辺部で確認された例がなく、今回、当該期の遺物散布地が確認されたことは評価できる。

また、残念ながら住居跡等は確認されなかったが、前期土器と比較的まとまった分布状況が見られ、近くに遺構が包蔵される可能性が考えられる。縄文時代の遺構については弥生時代以降の遺構等あらゆる要因によって検出が難しいことが多い。当時の環境復原を念頭に置きながら、当時の人々の土地の選択、土地の利用を考える必要がある。今後の調査成果に期待したい。 (文責：高橋)

### 《参考文献》

- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2006 『市営土第1遺跡・市営土第4遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘報告書第121集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2008 『市営土第2遺跡 第二分冊：縄文期以降』発行 発行所：宮崎県埋蔵文化財センター発掘報告書第172集

## 第5節 縄文時代晩期

### 1 晩期土器について

#### a 遺構内出土の土器について

縄文時代晩期の土器は、精製鬘鉢・鉢、壺、粗製浅鉢・鉢、粗製深鉢等が出土している。また、晩期の土器のみが出土する土坑も検出されている。

これら出土した土器の大半は南九州で晩期前半～後半に位置づけられる黒川式土器の範疇に含まれる。

黒川式土器については、堂込秀人氏により、古段帯・中卑段帯・新卑段帯と細分されている(堂込1997)。

本遺跡出土の土器と、前述の編年を対比すると、I①類、I③類は、入佐式新段階と黒川式古～中段階を含み、I②類は黒川式中～新段階、I④類は黒川式新段階に比定される。

また、近年、黒川式土器の新段階の資料の増加により黒川式土器との区別を見出し、「干河原段階」という段階が設定されている(東2006)。これに該当する資料も本遺跡では確認されており、I⑦類、I⑧類の鉢や三叉文を有する土器(第112図771～773)が、この「干河原段階」の土器に比定されると思われる。

前述したように、晩期土器のみが出土した土坑が7基確認され、このうち2基の土坑(第97図A1SC318、第104図A2S2501)では精製釜鉢とともに、無刻目突帯文土器が出土している。

土坑内出土遺物の中でも、特に注目したいのが、A1SC318(第97～99図)遺構内出土遺物である。

SC318は遺構検出面、遺構埋土上部では遺物が確認されず、遺構埋土中～下部付近まで晩期土器と石器が連続的に出土している。また、遺構内出土の土器(第97図638、640)に付着していた炭化物について炭素14年代測定を行ったところ、2895±25BP、2840±20BPの年代値が判明している。

SC318では、I①類の精製釜鉢とともに、粗雑な弧線文が施された粗製深鉢(第97図638、639)、IV2A①類、IV2A③類の粗製深鉢、Ⅲ③類の粗製釜鉢が出土している。I①類の精製釜鉢は、前述の堂込氏の編年では黒川式土器古段階に位置づけられる。

弧線文が施される638、639は器面調整や胎土から640と同一個体の可能性もある。外面に施された弧線文は都城市虎崩遺跡や高鍋町野首第2遺跡等、県内でも数例確認され、これらの土器は古閑2式の深鉢・口縁部に良くみられる文様と捉えられる。

なお、この弧線文に関しては「滋賀里式文様」と呼ばれることもあるが、この弧線文は九州でしか成立しないものと考えられ、滋賀里式との影響関係を強くみないほうがよいと思われる(福原考古学研究所:岡江憲一氏のご教示による)。

古閑2式土器は、前述の堂込氏の編年では入佐式新段階に比定するとされる(清田1998)。古閑2式は、

器形が口縁部から胴部にかけて屈曲する特徴をもつが、本遺跡出土の638、639は、口縁部は直口して胴部から立ち上がる。

638、639に関しては、文様構成の概念のみが土器製作に取り入れられ、在地的な土器の器形に融合したものと思われる。

また、同遺構から出土している641～650等の口縁部にしっかりとした断面三角形の突帯をもち、胴部が膨らむ土器(いわゆる「松添式土器」)の共伴が確認されたことは重要である。

いわゆる「松添式土器」について型式学的な視点から考察した下山覚氏は、この粗製深鉢を刻目突帯文土器様式の成立以前とし黒川式土器新段階後集と位置づけている(下山2000)。

県内では無刻目突帯文をもつ深鉢と精製釜鉢等のセット関係の分かる資料が少なく、無刻目突帯文が残存する時期幅は、資料の増加を待たなければならぬが、SC318内出土の641～650(第98図)の粗製深鉢は、I①類の浅鉢や弧線文をもつ土器との共伴関係から黒川式土器の中でも古い段階に属すると思われる。

今回、堂込氏の編年と清田氏の編年を参考としたが、編年に使用された資料と比べると、本遺跡出土の土器からは異なる点もみられた。

精製釜鉢・鉢では、特徴が似るものが存在するが、粗製深鉢については在地色が強まる。巨視的にみると精製釜鉢・鉢での南九州との広域編年は可能と思われるが、資料の増加と研究の蓄積により、今後の解明が期待される。

## b. 包含層出土の土器について

包含層出土の土器については、IV2類とした無刻目突帯文の土器が特徴的である。無刻目突帯の形状には、突帯が大きく突出し断面形が三角形を呈するもの、頂部が低いあるいは調整により断面形がカメラポコ状を呈するもの、口縁部を肥厚させあるいは粘土帯を貼り付け、その上下をナデて突帯状に作り出す資料等、バリエーションに富んでいる。

無刻目突帯の作出方法については、突帯の貼り付け痕跡が明瞭に観察されるものが少なかったが、断

面形三角形のしっかりとした突帯をもつものは、突帯の貼り付けの痕跡が断面より明確に観察されるものもある(第105図700)

また、孔列文を伴う土器は、突帯文をもたない深鉢、無刻目突帯文をもつ深鉢、粗製深鉢(Ⅲ①類)、刻目突帯文を有する鉢で確認される。

孔列文の有無による土器片の割合、重量分布に関しては、第108図、第126図に示しているが、孔列文が施される深鉢と施されない深鉢との重量分布域が調査区中央と調査区南の2つの範囲で若干異なるという傾向は興味深い。

詳述すると、調査区中央にあたるH23～G23Gc周辺では、本分類のⅣ1類～Ⅳ4類が一定量確認されるのに対して、調査区南にあたるK9～J9Gc周辺ではⅣ1類とⅣ2類に比べ、Ⅳ3類とⅣ4類の重量分布は少なくなっている。

なお、Ⅳ2A①類・Ⅳ2A②類・Ⅳ2A③類の中でもしっかりとした断面三角形の突帯をもつものには孔列文は施されていない。

Ⅳ2A①類・Ⅳ2A②類の粗製深鉢は、SC318内出土遺物で触れたように、黒川土器期の中期の中でも古い段階に位置づけられる可能性もある。

孔列文は、黒川土器新段階に位置づけられるとの検討もあり(千2008)、孔列文の有無から時期幅を見出すことができるのかもかもしれない。

## c. 赤色付着物について

今回、鹿児島県埋蔵文化財センターの内山伸明氏のご協力により、晩期土器器面より確認された赤色付着物について電子顕微鏡下での観察を行った(第111～113図754、768、770、800)。

観察の結果、塗布されていた赤色付着物も、パイプ状ベンガラ(パイプ)の形状を持っていることが確認された。パイプ状ベンガラは、鉄細菌 *Leptotrix* 属由来とされ、崖端の湧水部や池中に沈殿した鉄細菌の生産物を燃焼した結果得られたものとされている(岡田1997)。

本遺跡の南には切原川が流れ、周辺には溜池や湧水地点が存在することから、褐色沈殿物(鉄細菌が作る沈殿物)も採取可能な環境であったと思われる。

(文責：岸田)

## 【参考文献】

- ・松本 1997 『南九州縄文土器の再検討—人形土器の編年—』 『鹿児島考古』 31号 鹿児島考古学会
- ・東 和幸 2006 『鹿児島における縄文時代晩期の遺跡』 『南九州縄文』 No.17 南九州縄文研究会
- ・内田 一 1986 『縄文後晩期土器 中九州縄文後晩期土器とその分布状況について』 『鹿児島考古』 第11号 鹿児島考古学会
- ・宮崎県教育委員会 1985 『平福遺跡』 『宮崎県縄文遺跡発掘調査報告』 第2集
- ・宮崎県縄文文化財センター 2007 『野宮第2遺跡 第一分冊：後期旧石器時代—縄文時代早期編』 『宮崎県縄文文化財センター発掘調査報告』 198集
- ・宮崎県縄文文化財センター 2001 『志摩・榎木遺跡 発掘・土器の調査報告』 『宮崎県縄文文化財センター発掘調査報告』 第41集
- ・内山 寛 2000 『イオウの「松島式土器」の分布をめぐって—南部九州の資料を用いて—』 『九州縄文』 第4号 九州縄文文化研究会
- ・千 尚幸 2008 『西日本の孔列土器』 『日本考古学』 第25号 日本考古学協会
- ・宮崎考古学協会編発刊委員会 2008 『南九州における水原遺跡の発掘と検証—南日本における縄文時代の土器を通して—』 『宮崎考古学協会編発刊委員会』
- ・岡田文男 1997 『パイプ状ベンガラ粒子の観察』 『日本文化財科学会第14回研究発表要旨集』 日本文化財科学会

## 2 晩期石器について

### a. 局部磨製石鏃について

本遺跡では、縄文時代早期及び晩期に帰属すると思われる石鏃が193点出土している。その中でも部分的に研磨による調整が施されている安山岩製の局部磨製石鏃が注目される。

局部磨製石鏃の存在については下川達弥氏が岩下溝穴の資料を中心に検討し、早期押型文段階を中心に出土することと、後期—晩期にも九州地方には存在していることを指摘している(下川1972・1973)。

本報告書に掲載した11点の局部磨製石鏃は、すべてⅢb層(K4h)上位から出土し、このうち安山岩製のものが10点を占めている。安山岩製の局部磨製石鏃は、剥離による整形後、正面及び裏面の中央部に研磨が施されており、周縁部は剥離面を残している。研磨が施されている部分はいずれも平坦で滑らかであり、明確な研磨痕が確認できる。研磨の方向は縦方向を基本としているようにも見えるが、斜め方向や横方向に研磨痕が確認できるものもある。

なお、ホルンフェルス製の1点(第136図1043)については、周縁の端部に剥離面を残しながら表裏面の広い範囲に研磨が施されているが、風化による磨滅も激しい。安山岩製のものとは様相が異なり、

縄文時代晩期以外の遺物の可能性も残る。

安山岩製の石鏃を全体的に見ると、Ⅲ b層 (KAh) 上位で確認したものは基部に袢りが無いが、浅いものが多く、Ⅲ b層 (KAh) 下位から出土したものは3点ともU字型の袢りを有している点で異なる。また、安山岩はⅢ b層 (KAh) 下位では使用石材としての割合が低くなっている。

Ⅲ b層 (KAh) 下位に対し、Ⅲ b(Ah) 層上位において出土する安山岩製の石鏃は、いずれも縄文時代晩期の土器が集中して出土する H23～G23Gc 周辺で出土する傾向が見られる。

県内において局部磨製石鏃が出土した遺跡を集成したものが第 10 表である。遺跡数は 57 遺跡で、報告書掲載時期については縄文時代～弥生時代と表記される等、時期が不明確なものが多い。

このような記載が多いため、局部磨製石鏃の時期特定の補助となるよう、第 10 表では、時期が特定できる遺物が出土している場合は、その全ての該当時期を記している。

集成の結果、縄文時代早期と KAh 層上位に位置づけられる時期に大きく分かれる。1 遺跡あたりの出土量は、ほとんどが 1～2 点と非常に少ない。

縄文時代早期の局部磨製石鏃は、頁岩製や安山岩製のものが半数以上を占めている。遺跡周辺において採取できる石材の違いにもよると考えるが、縄文時代早期には黒曜石やチャートが打製石鏃の石材として使用されることが多く中で、局部磨製石鏃については研磨に適した石材をあえて使用したのではないかと推察される。

また、縄文時代早期の局部磨製石鏃は形態では正三角形や二等辺三角形を呈し、基部に袢りを有するものと有さないものがある。その中でも縦長の二等辺三角形を呈し、側縁部が鋭角状に加工されているものが多く特徴的である。

Ⅲ b層 (KAh) 上位から出土した局部磨製石鏃については、深い袢りを有さないものの割合が高くなる。時期を特定して報告されているものは少ないが、出土している土器との共伴関係で遺跡の時期範囲を推察できるものもある。

その中の一つとして、局部磨製石鏃が 6 点出土し

ている宮崎市石葛ヶ丘遺跡がある。本分類でⅣ 2 類とされる無刻目突帯文土器や刻目突帯文土器など縄文時代晩期に属する土器が主体となっており、本遺跡と共通する。また、局部磨製石鏃には特定の石材が使用されている点や石鏃の形態も本遺跡のものに類似している。

縄文時代晩期の土器が出土する遺跡で KAh 層下位の時期が該当しない遺跡として、宮崎市平畑遺跡や高原町吉牟田遺跡、都城市平無遺跡など数遺跡があり、局部磨製石鏃の時期を推測するものとして有効な資料と思われる。

県内の局部磨製石鏃の集成を受けて、本遺跡で出土した 2 点の特長の駒形を呈した五角形の局部磨製石鏃は非常に特徴的であることが分かる。類似したものかり山南町市納上第 1 遺跡等で数点確認されるが非常に少数である。

また、本遺跡では打製石鏃にも五角形を呈するものが見られるが、集成作業を行っていく中で、県内資料の中でも局部磨製石鏃が出土している遺跡や KAh 層上位の縄文時代後・晩期の遺物として五角形を呈する石鏃が報告されている例が多いことは指摘しておきたい。

石器の時期については、土器との共伴関係で考察し得る資料が乏しい中で、今回の本遺跡の出土例で見られるような、特定の石材を用いた局部磨製石鏃や特長の駒形を呈する局部磨製石鏃が、縄文時代晩期の遺物として位置づけられる。

(文責：日高)

#### 《参考文献》

- ・F16遺跡 1972 「新刊資料」『福岡県立史学博物館報』24号(福岡県史学博物館)
- ・F17遺跡 1973 「局部磨製石鏃について」『福岡県立史学博物館研究紀要』第1号(福岡県立史学博物館)
- ・宮崎県教育委員会 1985 「平畑遺跡」『宮崎県教育委員会発行資料第2集』
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2000 「石葛ヶ丘遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第185集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2007 「吉牟田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第154集
- ・宮崎県埋蔵文化財センター 2008 「平無遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第166集

第10表 県内局部磨製石緻集成表

No.	遺跡名	市町村	出土 点数	遺物が出土している時期							報告書記載時期	石材	備考
				旧石器	草創期	早期	中期	後期	飛鳥	発生以降			
1	吉城*	西臼杵郡高千穂町	1			●			●●	●●	縄文時代～弥生時代	チャート	
2	樋田	臼杵市東郷町	2						●●	●●	縄文時代後期以降	凝灰岩 (2)	
3	上野原	臼杵市東郷町	1			●			●●	●●	縄文時代中期以降	頁岩	
4	市納上第1*	児湯郡川南町	1	●					●●	●●	時期不明	松山岩	トレンチ出土
5	赤取*	児湯郡川南町	1	●					●●	●●	弥生時代～中世	ホルン	表層
6	前ノ田村上第2*	児湯郡川南町	1	●	●				●●	●●	縄文時代草創期～早期	ホルン	
7	唐木ノ第3*	児湯郡高鍋町	1	●					●●	●●	旧石器	凝灰岩	文書表注：時期は縄文時代不明
8	老瀬第1第3	児湯郡高鍋町	1	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代	凝灰岩	
9	野首第1*	児湯郡高鍋町	3	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代	チャート (3)	
10	野首第2	児湯郡高鍋町	3	●					●●	●●	時期不明	チャート (1) 栗色片岩 (1)	文書表注：報告書に記述は無いが 片岩遺物あり
11	藤山第2*	児湯郡新富町	1			●			●●	●●	縄文時代	チャート	
12	滝町原第1 (3・4次)*	児湯郡新富町	1	●					●●	●●	縄文時代早期	頁岩	
13	尾ノ原*	児湯郡新富町	2	●					●●	●●	縄文時代早期	ホルン (2)	
14	藤山第1*	児湯郡新富町	1	●					●●	●●	縄文時代早期	チャート	文書表注：磨製なく、磨製品少
15	宮内宮	西郷市	1						●●	●●	縄文時代	紅瓦	「磨製」と記載
16	内城跡*	宮崎市佐土原町	1						●●	●●	縄文時代早期	松山岩	
17	下塚*	宮崎市佐土原町	2						●●	●●	縄文時代早期	凝灰岩 (2)	
18	古君ノ迫*	宮崎市	6	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文～弥生	頁岩 (6)	3点のみ記述
19	渡辺第2*	宮崎市	2						●●	●●	縄文時代後期	頁岩 (2)	「磨製」と記載
20	池水第2	宮崎市	1	●					●●	●●	縄文時代早期	頁岩	「磨製」と記載
21	西ノ原第2	宮崎市	1						●●	●●	～古墳	頁岩	磨製品に磨製の説明
22	西ノ原地区遺跡 C区	宮崎市	1	●	●	●	●	●	●●	●●	不明	松山岩	
23	車塚・山下遺跡群 車塚第1	宮崎市	1						●●	●●	縄文時代早期	頁岩	
24	黒太郎	宮崎市	1						●●	●●	弥生時代	頁岩	「磨製」と記載 (表)
25	宮大平遺 X V	宮崎市	1						●●	●●	縄文時代後期以降	不明	
26	平畑*	宮崎市	3						●●	●●	縄文時代	不明 (1)	
27	前原西*	宮崎市	1			●			●●	●●	縄文時代～弥生時代	不明	「磨製石磨鉢」と記載
28	坂元遺跡	宮崎県清武町	3	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	頁岩 (3)	
29	観音堂 下第ノ原	宮崎県清武町	3						●●	●●	縄文時代早期	頁岩 (3)	
30	山田第1	宮崎県清武町	2	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	頁岩 (2)	
31	山田第2	宮崎県清武町	1						●●	●●	縄文時代早期	頁岩	
32	南川第1	宮崎県清武町	2	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	頁岩 (1) 千枚岩 (1)	
33	南川第2	宮崎県清武町	6	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代	頁岩 (早期)：2 頁岩 (1) 松山岩 (1) 千枚岩 (2)	
34	上野ノ原	宮崎県清武町	4	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	頁岩 (4)	
35	上の原第2*	宮崎県清武町	2						●●	●●	縄文時代早期	頁岩 (2)	
36	上の原第1*	宮崎県清武町	1						●●	●●	縄文時代	頁岩	文書表注：遺物が不明な部分には ない。遺物品少。
37	下野野*	宮崎県清武町	1						●●	●●	縄文時代早期	頁岩	
38	白ノ野第2・第3*	宮崎県清武町	2						●●	●●	縄文時代草創期～早期	チャート (1) 頁岩 (1)	
39	スダノ山2 上地区	宮崎市田野町	1			●			●●	●●	縄文時代早期	頁岩	文書表注：形態は資料品に似る
40	木野	宮崎市田野町	1						●●	●●	縄文時代	頁岩	
41	釣野	宮崎市高岡町	2						●●	●●	縄文時代	ホルン (2)	
42	祝野	宮崎市高岡町	1	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	凝灰岩	
43	木畑*	藤原郡吉田町	1						●●	●●	縄文時代早期	凝灰岩	
44	大ノ谷	西郷郡野田町	1						●●	●●	縄文時代早期	凝灰岩	「磨製」と記載
45	吉平田*	西郷郡高岡町	1						●●	●●	縄文時代後期～晩期	頁岩	
46	築ヶ野遺跡群 築ヶ野第3	都城市高城町	1	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	頁岩	
47	築ヶ野遺跡群 築ヶ野第4	都城市高城町	1						●●	●●	縄文時代早期	不明	
48	妙見*	えびの市	1	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期～前期	不明	
49	野久野*	えびの市	2			●			●●	●●	縄文時代～近世	頁岩 (1) 松山岩 (1)	
50	えびの山城遺跡 岡田城跡	えびの市	1						●●	●●	不明	松山岩	
51	池無*	都城市	1						●●	●●	縄文時代後期～弥生時代	ホルン	
52	分牟瀬遺 (土安久)	都城市	1						●●	●●	縄文時代～中世	不明	
53	分牟瀬遺 (下尾平野第4)	都城市	1						●●	●●	縄文時代	不明	
54	黒土	都城市	1						●●	●●	弥生時代	凝灰岩	「磨製石磨鉢」と記載
55	十三東第2 (二次)	都城市	1						●●	●●	縄文中期以降～弥生時代	不明	
56	屋原	都城市	1	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代～弥生時代	頁岩	「磨製石磨鉢」と記載
57	畑々字戸	伊都市	1	●	●	●	●	●	●●	●●	縄文時代早期	頁岩	

注1 今回の集積にあたり、実測図及び報告書本文・表紙欄等に記載があったものを対象とした。また、実測図のみの場合でも研削痕と判断される表記が確実に認められたものについては対象とした。なお、遺跡名に\*の記号のあるものは実現できた資料である。

注2 報告書により磨製石の基幹に差異があるため、集積にあたっては研削痕が認められ、磨製石と判断されるものを対象とした。よって報告書上では「磨製」とされたものも一部含まれている。ただし全量で研削痕が認められ、磨製石と判断されるものは対象外とした。

注3 掲載時期については各報告書の記載に従い、一括や時期不明とされているものは不明とした。

注4 今回の集積した遺跡は、2008年3月までに発行された報告書に限っている。また、掲載した市町村名は2009年1月現在のものである。

## b. 遺構内出土の石器について

「晩明土器について」で触れたように、晩明に位置づけられる遺構は7基存在する。このうち、晩明の土器と石器がほぼ出土した土坑は3基ある。

このうち、3基の中でも、特に多くの石器が出土したのがA2S226である。

S226は石器が遺構下部に溜まっているかのように出土し、その下部から晩明土器が出土している(第101～103図)。

遺構内から出土したものには石斧未製品の可能性もある石斧(Ⅰ類・Ⅳ類)、磨製石斧、石錘、敲石・磨石類(Ⅰ類・Ⅱ類)、台石、加工の痕跡が確認されない礫が含まれる。これらの器種は、土掘具、伐採加工具、漁労具、植物加工具や石器製作具等の用途が想定される。

これらの器種の中で、注目したいのが、本書でⅠ類とした敲石(第102図 685、686)の存在である。

685、686は尾鈴山酸性岩類の円礫に敲石による平坦面が作られ、レモンのような形状となっている敲石である。尾鈴山酸性岩類の円礫は本遺構南を流れる小丸川で容易に採取可能であり、石材の特徴としてははこれまで幾度も触れているように硬質という点があげられる。

Ⅰ類の尾鈴山酸性岩類製敲石については、藤木聡氏により石斧製作用ハンマーと推定されている(藤木2005)。藤木氏は、「石斧製作用の石製ハンマーであれば、必要条件である握りのよいこと・対象物(この場合石斧本体)より硬いこと」を石斧用工具の条件とする。

S226内出土の打製石斧はホルンフェルス製の尾鈴山酸性岩類製の敲石と比較すれば明らかに軟質な石材である。

S226以外の遺構内出土の石器には、A4 S104(第100図)、A4 S222(第103図)出土した石斧がある。両遺構内より出土した石斧に共通するのは、礫面を大きく残し、石斧未製品と推測されるものである。

包含層より出土した打製石斧の中にも礫面を大きく残すものはあるが、それらは礫の形状を利用し石斧完成形とするものが多く、前述した遺構内の石斧のように石斧未製品と思われるものの割合は少ない。

このうち、無刻目突帯文を持つ深鉢と共に出土したS222出土の打製石斧(第103図 689)は、まさに石斧製作の初期段階と推定されるものである。689は扁平な礫を素材とし、石器上端、下端の二次加工の後、石器側面に調整が移っている。加工が施される石器縁で、表裏で剥離の形状が非対称をなすといった特徴がみられ、これは、石斧の製作についての一つの技法として提唱されている「両極対称技法」による製作の可能性もある(久保田2006)。

これまで述べた3つの遺構は遺構の平面形態や残深等に差異があり、同じ時期の所産かとはっきりしない。しかし、S226が石斧や石錘、敲石等の晩明の人々の「道具箱」であるかのような、豊富な器種構成であるのに対し、S222やS104は石斧のみの出土である。

また、S226内に大量の石器が残された背景には、人々の「道具箱」であった可能性や石器の一括廃絶等、多数の可能性が推測される。S222やS104と異なる点としてS226内に含まれていたものは、石器としてすぐに使用できる、あるいは既に使用されたものであり、S222、S104内に含まれていた石器未製品の状態ではこれから完成を待つ状態である点である。

3つの遺構全てで確認されている石斧については、片面に礫面を大きく残し、未製品と思われる資料も多い。このことは、石斧の素材となる礫に一次的な加工を加えた状態の石斧未製品が集積されていたことを示唆している。(文責:岸田)

## 【参考文献】

- ・藤木 聡 2005 「宮城県における縄文時代の石斧製作と石材」『石器部会研究報告会誌 Stone Sources』No.5 石器部会研究
- ・久保田正寿 2006 「両極対称技法について」『打製石斧の製作技術とあらたな視点』『国語学』第一号 言語学論文集 考古学編 101頁

遺物觀察表  
写真図版

第 11 表 縄文時代草創期土器観察表

観 測 番 号	時 期	器 種	部 位	出 土 地 点	調 整 ・ 文 様		胎 土	分 類	備 考
					外 面	内 面			
72	草創期	深鉢	口縁部	LS S256	口唇部貝殻列突、口縁部隆帯文（貝殻背面押圧）、胴部以下ナデ	ナデ	4mm 以下の灰白色粒、2mm 以下の褐色色粒を含み、1mm 以下の黒色粒、透明光沢粒を少量含む。	A	
73	草創期	深鉢	口縁部	LS S256	口唇部ナデ、口縁部貝殻列突、貝殻背面押圧、胴部以下ナデ	ナデ	暗褐色灰白色、黒色粒を含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	A	底化薄しい
74	草創期	深鉢	口縁部	LS S256	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（爪先刺突）、ナデ	ナデ	暗褐色灰白色粒、灰白色粒、透明光沢粒を含む。	E	
75	草創期	深鉢	口縁部	LS S256	口唇部貝殻列突、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒を多量に含み、2mm 以下の灰白色粒を少量含む。		
76	草創期	深鉢	胴部	LS S256	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒、黒色光沢粒を含む。		
77	草創期	深鉢	胴部	LS S256	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒を含む。		
78	草創期	深鉢	胴部	LS S256	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒、微細な透明光沢粒を含む。		
79	草創期	深鉢	胴部	LS S256	ナデ	ナデ	1mm 以下の黒色粒、灰白色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色粒、透明光沢粒を含む。		
80	草創期	深鉢	胴部	LS S256	隆帯文（指押押圧）、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、黒色光沢粒を含む。		計 2 同一
81	草創期	深鉢	底部	LS S256	胴部隆帯文（指押押圧）、ナデ、底蓋ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、黒色光沢粒を含む。		計 2 同一 直径 11.2cm
82	草創期	深鉢	底部	LS S256	ナデ	ナデ	微細な淡黄色粒、褐色粒、透明光沢粒を含む。		直径 7.4cm
83	草創期	深鉢	底部	LS S256	ナデ	ナデ	微細な褐色粒、灰白色粒、黒色粒、透明光沢粒を含む。		
84	草創期	深鉢	底部	LS S256	ナデ	ナデ	1mm 以下の赤褐色粒、微細な淡黄色粒を含む。		直径 8.6cm
103	草創期	深鉢	口縁部	MS S23 +MS S95 +L5 [SA7]	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（貝殻背面押圧）、沈帯文、口唇部貝殻背面押圧、胴部以下ナデ	ナデ	微細な淡黄色粒を多量に含み、1mm 以下の黒褐色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を少量含む。	A	
104	草創期	深鉢	口縁部	MS [SA5]	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（貝殻背面押圧）、口唇部貝殻背面押圧、胴部以下ナデ	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒、黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を少量含む。	A	
105	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（貝殻背面押圧）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の黒褐色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を少量含む。	A	
106	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部貝殻列突、口縁部貝殻列突、貝殻背面押圧	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒、黒褐色粒、透明光沢粒を含む。	A	107 と同一
107	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部貝殻列突、口縁部貝殻列突、貝殻背面押圧	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒、黒褐色粒、透明光沢粒を含む。	A	106 と同一
108	草創期	深鉢	口縁部	KS [SC9]	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（貝殻背面押圧）、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒、褐色粒、黒色光沢粒を多量に含む。	A	欠付帯 底化薄しい
109	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（貝殻押圧）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を多量に含む。	A	口径 10.1cm
110	草創期	深鉢	口縁部	MA	口唇部貝殻列突、口縁部隆帯文（貝殻列突）、ナデ	ナデ	微細な灰白色粒、透明光沢粒、1mm 以下の暗灰色粒を少量含む。	A	
111	草創期	深鉢	口縁部	KS	口縁部隆帯文（貝殻列突）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒を多量に含む。	A	内面底化薄しい
112	草創期	深鉢	口縁部	MA [SX3]	口唇部貝殻列突、口縁部隆帯文（貝殻列突）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、淡黄色粒を含む。	A	
113	草創期	深鉢	口縁部	K6 S58	口縁部刻目（工具）、口縁部隆帯文（工具による刻目）、ナデ	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒を少量含む。	B	
114	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（工具による刻目）、ナデ	ナデ	1mm 以下の褐色粒、灰白色粒、淡黄色粒を含む。	B	
115	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（工具による刻目）、ナデ	ナデ	微細な灰白色粒、褐色粒、透明光沢粒を少量含む。	B	
116	草創期	深鉢	口縁部	MS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（爪先刺突）	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、褐色粒、赤褐色粒を多量に含む。	C	117 と同一
117	草創期	深鉢	口縁部	MS S95+MS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（爪先刺突）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、褐色粒、赤褐色粒を多量に含む。	C	116 と同一
118	草創期	深鉢	口縁部	MS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（指押押圧）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、淡黄色粒、褐色粒、透明光沢粒を含む。	C	
119	草創期	深鉢	口縁部	KS S53	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）、胴部以下ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、淡黄色粒、褐色粒、褐色粒を多量に含み、微細な黒色粒、透明光沢粒を少量含む。	D	
120	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）	ナデ	3mm 以下の灰白色粒、淡黄色粒、1mm 以下の透明光沢粒、5mm 以下の暗褐色粒を少量含む。	D	
121	草創期	深鉢	口縁部	A1 一拵	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）	ナデ	1mm 以下の灰白色粒、褐色粒を含む、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	D	
122	草創期	深鉢	口縁部	A1 一拵	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）	ナデ	3mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒、2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	D	
123	草創期	深鉢	口縁部	LS	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）	ナデ	微細な褐色粒、淡黄色粒、透明光沢粒を含む。	D	
124	草創期	深鉢	口縁部	L4	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）	ナデ	1mm 以下の淡黄色粒、褐色粒を多量に含み、2mm 以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒を少量含む。	D	
125	草創期	深鉢	口縁部	KS S51	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）、ナデ	ナデ	微細な黒色光沢粒を多量に含み、1mm 以下の灰白色粒、褐色粒を少量含む。	D	
126	草創期	深鉢	口縁部	MA S2	口唇部ナデ、口縁部隆帯文、ナデ	ナデ	1mm 以下の褐色色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒を少量含む。	D	
127	草創期	深鉢	口縁部	MS	口唇部貝殻列突、口縁部隆帯文（ナデ）	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒を多量に含み、2mm 以下の褐色粒、透明光沢粒を少量含む。	D	
128	草創期	深鉢	口縁部	L6 SC17	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）、胴部以下ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒を多量に含み、1mm 以下の暗褐色粒を少量含む。	D	
129	草創期	深鉢	口縁部	L6	口唇部ナデ、口縁部隆帯文（ナデ）、ナデ	ナデ	微細な灰白色粒を多量に含み、微細な褐色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒を少量含む。	D	口径 16.6cm

船載 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
130	草創期	深鉢	口縁部 L4		口唇部ナデ、口縁部隆帯文(ナデ)	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒色粒を含み、2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	D	底文物付番 11350 ± 70BP
131	草創期	深鉢	口縁部 L5		口唇部ナデ、口縁部隆帯文(ナデ)	ナデ	1mm以下の灰白色粒・黒色粒を少量含む。焼酎や褐色光沢粒を少量含む。	D	
132	草創期	深鉢	口縁部 L3		汎形文	ナデ	焼酎や黒色粒・淡黄色粒・灰白色粒を含む。	E	
133	草創期	深鉢	口縁部 L6		口縁部隆帯文(ナデ)	ナデ	焼酎や灰白色粒・黒色粒・透明光沢粒を少量含む。	D	底文物付番 11440 ± 50BP
134	草創期	深鉢	口縁部 L5		ナデ	ナデ	2mm以下の淡黄色光沢粒・1mm以下の淡褐色粒・褐色粒・灰白色粒を含む。	E	
135	草創期	深鉢	口縁部 L4		汎形文	ナデ	焼酎や黒色粒・淡黄色粒・灰白色粒を含む。	E	酸化層しい
136	草創期	深鉢	口縁部 M4 S11		ナデ	ナデ	2mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒を含む。	F	
137	草創期	深鉢	胴部 L4		具股背面押注、ナデ	ナデ	1mm以下の細灰白色粒を少量含む。1mm以下の灰白色粒・焼酎や黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		赤褐色化土か
138	草創期	深鉢	胴部 L4		具股背面押注、ナデ	ナデ	1mm以下の細灰白色粒を少量含む。1mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒・透明光沢粒を少量含む。		内面又付番
139	草創期	深鉢	胴部 L4 S18		隆帯文(指摺押注)、ナデ	ナデ	2mm以下の淡褐色粒・黒色光沢粒を含む。		
140	草創期	深鉢	胴部 L4		隆帯文(指摺押注)、ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・灰色粒を少量含む。1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		
141	草創期	深鉢	胴部 L5		隆帯文(ナデ)、ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・淡黄褐色粒・褐色粒・1mm以下の黒色光沢粒を含む。		
142	草創期	深鉢	口縁部 M5 付込		突帯文、ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・淡黄褐色粒・褐色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
143	草創期	深鉢	口縁部 L4 付込		汎形文、ナデ	ナデ	焼酎や淡黄色粒・褐色粒を含む。		
144	草創期	深鉢	口縁部 L4 付込		汎形文	ナデ	焼酎や褐色粒・黒色粒を含む。		
145	草創期	深鉢	胴部 L5		ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・黒色粒・灰白色粒を少量含む。1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		内面赤褐色化土か
146	草創期	深鉢	胴部 L4 S18		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・淡黄褐色粒・褐色粒・褐色粒を少量含む。		
147	草創期	深鉢	胴部 M4 S12/S13/S14		ナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒・褐色光沢粒を少量含む。1mm以下の黒色粒・透明光沢粒を含む。		
148	草創期	深鉢	胴部 M5		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色光沢粒を少量含む。焼酎や黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		
149	草創期	深鉢	胴部 M5		ナデ	ナデ	3mm以下の灰白色粒・1mm以下の細灰白色粒を少量含む。焼酎や黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		
150	草創期	深鉢	胴部 L5 S11/S116		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒色粒・褐色粒・1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		
151	草創期	深鉢	胴部 K5		ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。3mm以下の黒褐色粒・1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		外周酸化層しい
152	草創期	深鉢	胴部 M5 S145		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色光沢粒を少量含む。焼酎や黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
153	草創期	深鉢	胴部 M4 S12+KS S191		ナデ	ナデ	2mm以下の淡褐色粒・黒色粒・透明光沢粒を少量含む。		
154	草創期	深鉢	胴部 M4 S111		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。		
155	草創期	深鉢	胴部 M5		ナデ	ナデ	1mm以下の細灰白色粒・黒褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。2mm以下の赤褐色粒・淡黄褐色粒を少量含む。		
156	草創期	深鉢	胴部 L6 SC240		ナデ	ナデ	2mm以下の黒褐色粒・灰白色粒・褐色粒を含む。1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
157	草創期	深鉢	胴部 L5		ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。焼酎や黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		内面赤褐色化土か
158	草創期	深鉢	胴部 L5 SC262		ナデ	ナデ	1mm以下の細灰白色粒を少量含む。1mm以下の灰白色粒・褐色光沢粒を少量含む。		
159	草創期	深鉢	胴部 L5 S124		ナデ	ナデ	5mm以下の淡黄褐色粒・1mm以下の細灰白色粒を少量含む。1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
161	草創期	深鉢	胴部 KS S119		ナデ	ナデ	3mm以下の褐色粒・黒褐色粒を少量含む。焼酎や黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
162	草創期	深鉢	胴部 M4 S12		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒を含む。		
163	草創期	深鉢	胴部 M5 S123/S195		ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。1mm以下の褐色粒・黒色光沢粒を少量含む。		
164	草創期	深鉢	胴部 M4 S11		ナデ	ナデ	3mm以下の淡黄褐色粒・淡褐色粒を少量含む。1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		
165	草創期	深鉢	胴部 L6 SC215		ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒褐色粒を含む。2mm以下の黒色光沢粒を少量含む。		内面又付番
166	草創期	深鉢	胴部 M4		ナデ	ナデ	焼酎や灰白色粒・褐色粒を少量含む。焼酎や黒色粒・透明光沢粒を少量含む。		
167	草創期	深鉢	胴部 M5 S123/S195+MS		ナデ	ナデ	焼酎や淡黄褐色粒・灰白色粒を少量含む。3mm以下の褐色赤褐色粒・1mm以下の褐色赤褐色粒を少量含む。		
168	草創期	深鉢	胴部 L6		ナデ	ナデ	焼酎や灰白色粒・褐色粒を含む。焼酎や赤褐色粒・透明光沢粒を少量含む。		内面赤褐色化土か
169	草創期	深鉢	胴部 L4		ナデ	ナデ	焼酎や灰白色粒・淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。		170と同一
170	草創期	深鉢	胴部 L6		ナデ	ナデ	焼酎や灰白色粒・淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。		内面赤褐色化土か
171	草創期	深鉢	胴部 L4		ナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒・焼酎や淡黄褐色粒を少量含む。2mm以下の褐色赤褐色粒を少量含む。		169と同一
172	草創期	深鉢	胴部 L4		ナデ	ナデ	焼酎や灰白色粒・褐色粒を少量含む。		赤褐色化土か
173	草創期	深鉢	胴部 KS S185		ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。		
174	草創期	深鉢	胴部 M5 S123/S195		ナデ	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・褐色粒を少量含む。2mm以下の褐色赤褐色粒を少量含む。		

発掘 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
175	草創期	深鉢	胴部	KS S46S147	ナデ	ナデ	1mm 未満の赤色粒・黒粒と透明光沢粒を含む。		
176	草創期	深鉢	胴部	K5	ナデ	ナデ	20mm 以下の黄褐色粒を多量に含む。20mm 以下の透明光沢粒を少量含む。		
177	草創期	深鉢	底部	L5	ナデ	ナデ	1mm 以下の黄褐色粒・黒褐色粒を多量に含む。1mm 以下の褐色赤色粒・淡黄色粒を少量含む。	直径 11.6cm	
178	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	1mm 以下の黒色粒・透明光沢粒を多量に含む。20mm 以下の黄褐色粒・灰褐色粒を含む。	直径 11.6cm	
179	草創期	深鉢	底部	L5	ナデ	ナデ	1mm 以下の黄褐色粒を含む。2mm 以下の褐色粒を少量含む。	直径 11.4cm	
180	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	20mm 以下の黄褐色粒を多量に含む。50mm 以下の赤褐色粒・灰褐色粒。1mm 以下の黒色光沢粒を含む。		
181	草創期	深鉢	底部	MS S195	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白色粒を多量に含む。4mm 以下に細かい褐色粒。稀粒の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。		
182	草創期	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	1mm 以下の褐色赤色粒・稀粒の黄褐色粒を多量に含む。1mm 以下の褐色赤褐色粒・透明光沢粒を少量含む。		
183	草創期	深鉢	底部	M4 [攪乱]	ナデ	ナデ	1mm 以下の細点赤色粒・黄褐色赤色粒を多量に含む。稀粒の黒色光沢粒を少量含む。		
184	草創期	深鉢	底部	L5	ナデ	ナデ	稀粒の黄褐色赤色粒・褐色粒を多量に含む。稀粒の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。		
185	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	1mm 以下の透明光沢粒を多量に含む。20mm 以下の灰褐色粒・黒色粒を含む。		
186	草創期	深鉢	底部	L6 SC217	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色を多量に含む。20mm 以下の暗褐色粒。1mm 黒色光沢粒を少量含む。		
187	草創期	深鉢	底部	KS/L5 [攪乱]	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰褐色粒・黄褐色粒を多量に含む。20mm 以下の黄褐色粒・透明光沢粒を含む。		高さ薄い
188	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒を多量に含む。1mm 以下の褐色赤色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	直径 10.4cm	
189	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・褐色赤色粒・透明光沢粒を含む。1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	直径 13.0cm	
190	草創期	深鉢	底部	M5	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・黄褐色赤色粒・黒色粒・透明光沢粒を少量含む。		
191	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	20mm 以下の赤褐色粒・褐色赤色粒・黄褐色赤色粒を含む。20mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		割傷多い
192	草創期	深鉢	胴部	L5 S38	ナデ	ナデ	3mm 以下の黄褐色赤色粒・黒褐色赤色粒を多量に含む。		割傷多い
193	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白色粒・黄褐色赤色粒・褐色赤色粒を多量に含む。		
194	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	30mm 以下の灰褐色粒・黄褐色赤色粒を多量に含む。1mm 以下の透明光沢粒を少量含む。		
195	草創期	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒・黄褐色赤色粒・透明光沢粒を含む。1mm 以下の赤色粒を少量含む。		
196	草創期	深鉢	底部	M5	ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒を含む。稀粒の黄褐色赤色粒・透明光沢粒を少量含む。		
197	草創期	深鉢	底部	L6 [SA6]	ナデ	ナデ	1mm 以下の細点赤色粒・黄褐色赤色粒を多量に含む。稀粒の透明光沢粒を少量含む。		割傷多い
198	草創期	深鉢	底部	MA	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒。稀粒の透明光沢粒・黒色光沢粒を含む。		高さ薄い
199	草創期	深鉢	底部	K5	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰褐色赤色粒を多量に含む。20mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		高さ薄い

第12表 縄文時代早期土器観察表

観測 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
200	早期	深鉢	口縁～胴部	K6 SC210+K6	口唇部ナデ、口縁部以下横方向の貝殻条痕。胴部下半は縦方向の貝殻条痕	ナデ (指節痕)	1mm以下の灰白色粒・黒褐色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IA	口径22.5cm 内面に横筋を多量含む。外面半の黒化無し。
201	早期	深鉢	胴部	L5 S20+K6 SC211	横筋粗文か	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒色光沢粒を含む。	II D	
203	早期	深鉢	胴部	K6 SC212	横筋粗文か	ナデ	3mm以下の灰白色粒を多量に含み、2mm以下の赤褐色粒・白色粒・金色の塵屑を少量含む。	II F	
204	早期	深鉢	口縁部	才44 SP4	口唇部丁家ナデ、口縁端部へうた工具による斜め方向の粗突文列。口縁部以下貝殻条痕	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・白色粒を多量に含み、1mm以下の透明光沢粒を少量含む。	IA	腹径口径12.5cm ス入付帯 内面を黒化無し 200と同一
205	早期	深鉢	底部	才44 SP4	ナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒・白色粒・黒褐色粒を多量に含む。	IA	腹径20.4cm、 204と同一
206	早期	深鉢	胴部	才42 SP1	貝殻条痕	ナデ	1mm以下の灰白色粒・淡黄色粒・褐色粒・褐色色粒・褐色色粒・透明光沢粒を少量含む。	IA	207と同一
207	早期	深鉢	胴～底	才42 SP2	ナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒を多量に含み、1mm以下の淡黄色粒・褐色色粒・透明光沢粒を少量含む。	IA	腹径20.7cm、 黒化無し 205と同一 口径28.8cm
208	早期	深鉢	口縁～胴部	J9 SC205+J9	ナデ	ナデ	2mm以下の淡黄色粒・黒色光沢粒を含む。5mm以下の白色粒・灰白色粒を少量含む。	III (ア)	208と同一
209	早期	深鉢	胴部	J9 SC205	ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・淡黄色粒・1mm以下の黒色光沢粒・微細な黒色粒を含む。	III	208と同一
210	早期	深鉢	胴部	K7 SC232	菱形押型文	ナデ	1mm以下の黒色粒・透明光沢粒を含む。3mm以下の淡黄褐色粒を少量含む。	II F	内面を黒化無し
211	早期	深鉢	胴部	K7 SC232+J6+J7	横内押型文	ナデ	3mm以下の白色粒・1mm以下の灰白色粒・網目状粗粒・淡黄色粒を含む。1mm以下の赤褐色粒・透明光沢粒を含む。	II B	303・307と同一
213	早期	深鉢	胴部	L4 SC220	貝殻条痕	ナデ	5mm以下の灰白色粒・赤褐色粒・2mm以下の網目状粗粒・透明光沢粒を含む。	IA	黒化無し 214・215と同一
214	早期	深鉢	胴部	L4 SC220	貝殻条痕	ナデ	3mm以下の灰白色粒・褐色粒を多量に含む。	IA	黒化無し 213・215と同一
215	早期	深鉢	胴部	L4 SC220	貝殻条痕	ナデ	微細な透明光沢粒を多量に含み、2mm以下の褐色粒・および赤褐色粒・赤白色粒を少量含む。	IA	黒化無し 213・214と同一
216	早期	深鉢	胴部	M5 SC247	横内押型文	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒を多量に含み、4mm以下の赤褐色粒・1mm以下の灰白色粒・黒色光沢粒を少量含む。	II B	
217	早期	深鉢	胴部	M5 SC248	粗突文	ナデ	微細な黒色粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒・非透明粒を少量含む。	II D	218と同一
218	早期	深鉢	胴部	M5 [粗突]	粗突文	ナデ	1mm以下の灰白色粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒・赤褐色粒を少量含む。	II D	217と同一
219	早期	深鉢	胴部	L6 SC215	山形押型文	ナデ	2mm以下の淡黄色粒を多量に含み、3mm以下の灰白色粒・褐色色粒を少量含む。	II C	
220	早期	深鉢	胴部	L6 SC215	粗突文	ナデ	1mm以下の灰白色粒・褐色色粒・透明光沢粒を多量に含む。	II D	
221	早期	深鉢	底部	L6 SC215	山形押型文、ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・淡黄色粒・褐色色粒を多量に含む。	II C	
222	早期	深鉢	底部	L6 SC215	胴部丁家ナデ、底面粗粒	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色色粒・1mm以下の黒色粒・透明光沢粒を含む。4mm以下の暗赤褐色粒を少量含む。	IA	
223	早期	深鉢	胴部	J7 SC208	菱形粗突文	調整不明(ナデか)	3mm以下の白色の塵屑・2mm以下の黒褐色粒・灰色の塵屑を多量に含み、2mm以下の赤褐色粒を少量含む。	II E	内面を黒化無し
224	早期	深鉢	口縁部	L5 SC249	口唇部横内押型文、口縁部以下横内押型文	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黒褐色粒・灰白色粒・黒色光沢粒を多量に含み、1mm以下の褐色粒を少量含む。	II (イ)	
225	早期	深鉢	胴部	L5 SC249	横内押型文	ナデ	2mm以下の褐色色粒を多量に含み、1mm以下の灰白色粒・微細な黒色光沢粒を少量含む。	II B	
226	早期	深鉢	口縁部	L5 SC249	口唇部ナデ、口縁部以下横内押型文	ナデ	3mm以下の網目状粗粒・褐色色粒・褐色色粒・1mm以下の淡黄色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II (イ)	
227	早期	深鉢	胴部	L4 SC251	横内押型文	斜め方向のナデのち一部貝殻条痕	3mm以下の淡黄褐色粒を多量に含み、2mm以下の黒褐色粒・赤褐色粒・微細な黒色光沢粒を少量含む。	II B	
228	早期	深鉢	口縁部	L4	口唇部ナデ、口縁端部貝殻粗突文、口縁部以下貝殻条痕	貝殻条痕のちナデ	3mm以下の淡黄褐色粒・1mm以下の淡褐色色粒を多量に含み、2mm以下の褐色色粒・1mm以下の黒色光沢粒を少量含む。	IA	
229	早期	深鉢	口縁部	H11	口唇部ナデ、口縁端部貝殻粗突文、口縁部以下太い貝殻条痕	ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色色粒・黒褐色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IA	縁折れ 230と同一
230	早期	深鉢	胴部	L5	太い貝殻条痕	ケズリ	微細な灰白色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IA	縁折れ 229と同一
231	早期	深鉢	口縁部	才44	口唇部ミガキ、口縁端部貝殻粗粒による短柱状文列、口縁部以下斜めの貝殻条痕	横方向ミガキ	3mm以下の灰白色粒・灰白色粒・黒褐色粒・透明光沢粒を多量に含む。	IA	
232	早期	深鉢	口縁部	才34	口縁端部縦方向の短柱状文列、口縁部以下ナデによる粗突文	ナデ	1mm以下の淡黄褐色粒・褐色色粒を多量に含み、透明光沢粒を少量含む。	II B	
233	早期	深鉢	口縁部	才41	口唇部ミガキ、口縁端部貝殻粗粒による短柱状文列、口縁部以下ナデの工具による粗突文	ミガキ、丁家ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・黒褐色色粒を多量に含み、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B	
234	早期	深鉢	口縁部	M4+M5	口唇部粗突ミガキ、口縁端部条痕文列、口縁部以下ナデの棒状の工具による粗突文	粗いミガキ	4mm以下の灰白色粒・褐色色粒・褐色色粒・黒褐色色粒を多量に含み、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B	
235	早期	深鉢	口縁部	M5	口唇部ナデ、口縁部以下斜め方向の条痕文	丁家ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色色粒・褐色色粒・赤褐色色粒を含む。微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	II B	
236	早期	深鉢	口縁部	L6	口唇部条痕、口縁端部短柱状文列、口縁部以下貝殻条痕	丁家ナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を多量に含み、3mm以下に広い黄褐色色粒を少量含む。	II C	
237	早期	深鉢	口縁部	L4	口唇部丁家ナデ(光沢あり)、口縁部以下貝殻粗粒	強いナデ	4mm以下の灰白色粒・褐色色粒・褐色色粒・黒褐色色粒・灰白色粒・1mm以下の黒色光沢粒を多量に含む。	II C	
238	早期	深鉢	胴部	L5 S138	貝殻条痕	ナデ	3mm以下の灰白色粒・淡黄褐色色・褐色色・1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	IA	

発掘 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
239	早期	深鉢	胴部	K5 S90/S91	ナデ	ナデ	5mm 以下の灰白色粒、20mm 以下の黒褐色粒・黒色 光沢粒を多量に含む。	IA	241 と同一
240	早期	深鉢	胴部	才 41	貝殻表面	ナデ	10mm 以下の灰白色粒、黒褐色粒・透明光沢粒を多量 に含む。	IA	
241	早期	深鉢	胴部	H11	ナデ	ナデ	4mm 以下の黒褐色胎土、黒褐色粒、2mm 以下の黒色 光沢粒を多量に含む。	IA	内面割痕深い 239 と同一
242	早期	深鉢	胴部	M5	ナデ	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土、黒褐色粒を多量に含む。10mm 以下の透明光沢粒を含む。	IA	
243	早期	深鉢	胴部	J7	貝殻表面	貝殻表面	20mm 以下の灰白色粒を多量に含む。10mm 以下の黒 灰色粒を少量含む。	IA	
244	早期	深鉢	底部付 D24 [S27] 近	貝殻縁部刻印突文	ナデ	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土、透明光沢粒を多量に含む。 微細な透明光沢粒・金色の微塵を少量含む。	IC	
245	早期	深鉢	胴部	C28 [S10]	貝殻縁部刻印突文、ナデ	ナデか	20mm 以下の灰白色粒を含む。微細な黒褐色粒・透明光 沢粒を少量含む。	IC	黒化著しい
246	早期	深鉢	底部	L4	ナデ	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土・黒褐色粒・透明光沢粒・黒色 褐色粒・灰白色粒・黒色光沢粒を含む。	IA	平直
247	早期	深鉢	口縁部	M4	口唇部ナデ、口縁部構内押 型文、その下に無文帯あり	口縁部端部構内押型 文、胴部以下ナデ	10mm 以下の灰白色粒を少量含む。	IIA	249 と同一か
248	早期	深鉢	口縁部	才 41 S1122	口縁部端部構内 構内押型文	口縁部端部構内 構内押型文	10mm 以下の黒褐色胎土を少量含む。	IIA	
249	早期	深鉢	胴部	M4	構内押型文、その間に無文 帯あり	ナデ	20mm 以下の灰白色粒、にじみ褐色粒・黒褐色粒を含む。 微細な黒色光沢粒を少量含む。	IIA	247 と同一
250	早期	深鉢	胴部	才 41 S1151	構内押型文、その間に無文 帯あり	ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土、透明光沢粒を少量含む。	IIA	内面欠片
251	早期	深鉢	口縁部	D29 [A12]	口唇部ナデ、口縁部無 文	ナデ	10mm 以下の灰白色粒を少量含む。	IIA	
252	早期	深鉢	胴部	才 41 S1108	口縁部以下構内押型文	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土、10mm 以下の透明光沢粒を 含む。	IIA	縁部割痕多い
253	早期	深鉢	胴部	A1 一括	山形押型文	ナデ	20mm 以下の灰白色粒を含む。10mm 以下の黒褐色 胎土・黒色光沢粒を少量含む。	IIA	
254	早期	深鉢	底部	L6 [腹底]	胴部山形押型文、直蓋ナデ	ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土を多量に含む。10mm 以下の黒 褐色胎土を少量含む。	IIA	平直
255	早期	深鉢	底部	A1 一括	胴部山形押型文、直蓋ナデ	ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土・黒褐色粒を多量に含む。	IIA	平直
256	早期	深鉢	口縁部	M5	口唇部～口縁部端部ナデ、口 縁部端部無文、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部構内押 型文、胴部以下ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土、灰白色粒・黒褐色粒。微細な黒 色光沢粒を少量含む。	IIA	目取ア
257	早期	深鉢	口縁部	K4 S18	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部構内押 型文、胴部以下ナデ	10mm 以下の胎土を多量に含む。微細な黒褐色粒・透 明光沢粒を少量含む。	IIA	目取ア
258	早期	深鉢	口縁部	L7	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部構内押 型文、胴部以下ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土を少量含む。	IIA	目取ア
259	早期	深鉢	口縁部	L7 [腹底]	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部無文、 胴部以下ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土を多量に含む。10mm 以下の透明 光沢粒を少量含む。	IIA	目取ア
260	早期	深鉢	口縁部	M5 S125+M5 胴部	口唇部～口縁部端部ナデ、口 縁部端部無文、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部構内 構内押型文、胴部以下ナ デ	20mm 以下の黒褐色胎土・黒褐色粒、にじみ褐色粒、 10mm 黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IIA	目取ア
261	早期	深鉢	口縁部	L5 [SA7]	口縁部端部一帯の構内ナ デによる無文帯、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部端部 無文、口縁部山形 押型文、胴部以下 ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土・黒褐色粒・灰白色粒・黒褐色 粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IIA	目取ア
262	早期	深鉢	口縁部	L5	口唇部端部構内押型文、口縁部 以下構内押型文	ナデ	20mm 以下の褐色胎土・灰白色粒を含む。	IIA	欠付程度
263	早期	深鉢	口縁部	L8 [SA107]	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	口縁部山形押型 文、胴部以下ナデ	20mm 以下の灰白色粒・黒褐色粒・黒色光沢粒・透 明光沢粒を含む。	IIA	腹底口径 14.5cm
264	早期	深鉢	口縁部	M4 S1122	口唇部端部構内 構内押型文	口縁部端部構内 構内押型文、胴部以下ナ デ	10mm 以下の胎土を多量に含む。20mm 以下の褐色胎土を多量 に含む。10mm 以下の黒褐色胎土、透明光沢粒を少量含む。	IIA	目取イ
265	早期	深鉢	口縁部	M4	口唇部～口縁部端部ナデ、口 縁部端部無文、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部構内押 型文、胴部以下ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土・黒褐色粒・黒色光沢粒を少量 含む。	IIA	目取イ
266	早期	深鉢	口縁部	19	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	一帯の刻注線文、 胴部以下ナデ	10mm 以下の胎土を含む。褐色胎土・褐色胎土・ 10mm 以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を少量含む。	IIA	目取イ
267	早期	深鉢	口縁部	X7	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	半截竹筒による割 込み方向の半行注線 文、ナデ	20mm 以下の灰白色胎土・黒褐色胎土・褐色胎土、10mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IIA	目取イ
268	早期	深鉢	口唇部	M6 S1117	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部無文、 胴部以下ナデ	20mm 以下の灰白色粒、にじみ褐色胎土を多量に含む。20mm 以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	IIA	269・270 と同一
269	早期	深鉢	胴部	M6 S1117	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	ナデ	20mm 以下の胎土を多量に含む。20mm 以下の黒褐色胎土、 透明光沢粒を少量含む。	IIA	268・270 と同一
270	早期	深鉢	口縁部	M6 S1144	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	口縁部端部無文、 胴部以下ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土・褐色胎土・黒色光沢粒・透 明光沢粒を多量に含む。10mm 以下の黒褐色胎土を少 量含む。	IIA	268・269 と同一
271	早期	深鉢	口縁部	K5+L5 [SA7]	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	西条のための色線 文、ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土・褐色胎土・黒色光沢粒を多量 に含む。	IIA	目取イ
272	早期	深鉢	口縁部	K6	口唇部端部構内押型文、口縁部 以下構内押型文	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土・黒褐色胎土を多量に含む。4mm 以下の灰白色粒、20mm 透明光沢粒を少量含む。	IIA	目取イ
273	早期	深鉢	口縁部	K6	口縁部端部無文帯、口縁部以下 構内押型文	ナデ	20mm 以下の胎土を含む。褐色胎土を含む。微細な透明光 沢粒、5mm 以下の褐色胎土を少量含む。	IIA	目取イ
274	早期	深鉢	口縁部	110 胴部	口唇部～口縁部ナデ、口縁 部無文、胴部以下構内押 型文	ナデ	20mm 以下の胎土を含む。黒褐色胎土・褐色胎土・黒色光沢粒・ 透明光沢粒を多量に含む。	IIA	腹底口径 40.4cm
275	早期	深鉢	口縁部	C28	口唇部端部構内押型文、口縁部 以下構内押型文	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土・褐色胎土・灰白色粒を多量に含 む。20mm 以下の褐色胎土。微細な透明光沢粒を少量 含む。	IIA	目取イ
276	早期	深鉢	口縁部	L7 胴部	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	ナデ	10mm 以下の黒褐色胎土を多量に含む。5mm 以下の にじみ褐色胎土。30mm 以下の灰白色胎土を少量含む。	IIA	目取イ
277	早期	深鉢	口縁部	K5 胴部	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	ナデ	20mm 以下の灰白色胎土を多量に含む。10mm 以下の黒 褐色胎土。30mm 以下の褐色胎土を少量含む。	IIA	目取イ
278	早期	深鉢	口縁部	K5 胴部	口唇部ナデ、口縁部以下 構内押型文	ナデ	20mm 以下の黒褐色胎土・灰白色粒・黒色光沢粒を多量 に含む。	IIA	目取ウ



発掘 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
321	早期	深鉢	口縁部	M4	口唇部以下、口縁部以下山形押型文	口縁部山形押型文、胴部以下ナデ	20mm以下の黄白色、灰白色、褐色色を多量に含む。褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (Qウ)	
322	早期	深鉢	口縁部	M4	口唇部以下、口縁部以下山形押型文	口縁部山形押型文、胴部以下ナデ	20mm以下の黄白色、灰白色、褐色色を多量に含む。褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (Qウ)	336と同一
323	早期	深鉢	口縁部	J8	口唇部以下、口縁部以下ナデ	ナデのち黒色	10mm以下の黄白色、褐色色を多量に含む。褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (Qウ)	
324	早期	深鉢	口縁部	K5	口唇部以下、口縁部以下山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色を多量に含む。褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (Qウ)	325、326と同一
325	早期	深鉢	胴部	K5	山形押型文	ナデ	褐色黒色色、透明光沢を多量に含む。10mm以下の黄白色、褐色色を少量含む。	II (C)	324、326と同一
326	早期	深鉢	胴部	K5	山形押型文	ナデ	褐色黒色色、透明光沢を多量に含む。10mm以下の黄白色、褐色色を少量含む。	II (C)	324、325と同一
327	早期	深鉢	胴部	I7	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
328	早期	深鉢	口縁部	M7 [S4866]	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
329	早期	深鉢	胴部	K6 [963]	山形押型文	ナデ (指頭面)	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	大付着
330	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7]	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
331	早期	深鉢	胴部	M4 S14	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
332	早期	深鉢	胴部	J6+K6	山形押型文、ナデ	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
333	早期	深鉢	胴部	D30	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
334	早期	深鉢	胴部	M6 S22	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
335	早期	深鉢	胴部	L7	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	東京府立大蔵 35.4cm
336	早期	深鉢	胴部	L5	山形押型文、ナデ	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	322と同一
337	早期	深鉢	胴部	M5+M5 [SA3]	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
338	早期	深鉢	胴部	L7	山形押型文	ナデ	40mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
339	早期	深鉢	胴部	M6 [SA4]	山形押型文	ナデ	褐色黒色色、透明光沢を多量に含む。10mm以下の黄白色、褐色色を少量含む。	II (C)	347と同一
340	早期	深鉢	胴部	J7	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
341	早期	深鉢	胴部	M4 [SA3]	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
342	早期	深鉢	胴部	M4 S108	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
343	早期	深鉢	胴部	L5+I10	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色を多量に含む。20mm以下の黄白色、褐色色を少量含む。	II (C)	
344	早期	深鉢	胴部	土 40	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
345	早期	深鉢	胴部	L4	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
346	早期	深鉢	胴部	M5	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
347	早期	深鉢	胴部	M6 [SA4]	山形押型文、ナデ	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	339と同一
348	早期	深鉢	底部付	J8	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	349、357と同一
349	早期	深鉢	胴部	J8	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	348、357と同一
350	早期	深鉢	胴部	L7	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	355、356と同一
351	早期	深鉢	胴部	L4	山形押型文、ナデ (指頭面)	ナデ (指頭面)	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
352	早期	深鉢	底部付	L5	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
353	早期	深鉢	胴部	K6	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
354	早期	深鉢	胴部	J7	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
355	早期	深鉢	胴部	L5 S15+L5 +L5 [SA2426]	山形押型文	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	350、356と同一
356	早期	深鉢	胴部	L5	山形押型文	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	350、355と同一
357	早期	深鉢	底部	J8	胴部山形押型文、底部ナデ	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	平塚 塚元遺跡 1.8mm 口径 4.4cm
358	早期	深鉢	底部	K9 [SA6]	胴部山形押型文、底部ナデ	ナデ	10mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	平塚
359	早期	深鉢	底部	L5	胴部山形押型文、胴部以下から底部ナデ	ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を少量含む。	II (C)	
360	早期	ミナチ	口縁部	→ J10	口唇部以下、胴部山形押型文、底部ナデ	ナデ	褐色黒色色、透明光沢を多量に含む。20mm以下の黄白色、褐色色を少量含む。	II (C)	塚元遺跡 6.6mm 口径 3.2cm 高さ 4.4cm 網付底付
361	早期	深鉢	口縁部	M5 S29+L5	口唇部以下、口縁部以下係文	ナデ	40mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を多量に含む。20mm以下の黄白色、褐色色を少量含む。	II (Qア)	
362	早期	深鉢	口縁部	L3 S9	係文	口縁部係文、胴部以下ナデ	20mm以下の黄白色、褐色色、褐色黒色色、透明光沢を多量に含む。	II (Qア)	

掲載 番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
363	早期	深鉢	胴部	M4	唐系文	ナデ	1mm以下の灰白粉を散り、黒色光沢を少量含む。1mm以下の褐色色粒・透明光沢を少量含む。	Ⅱ D	
364	早期	深鉢	胴部	M5	唐系文	ナデ	20mm以下の灰白色粒。10mm以下の黄褐色色粒・透明光沢を少量含む。10mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ D	
365	早期	深鉢	胴部	M5	唐系文	ナデ(指通直)	10mm以下の灰白色粒。黄褐色粒を少量含む。20mm以下の褐色色粒。10mm以下の金色光沢・透明光沢を少量含む。	Ⅱ D	366と同一
366	早期	深鉢	胴部	L5 S338	唐系文	ナデ	20mm以下の灰白色光沢。10mm以下灰色色粒。黄褐色粒を少量含む。10mm以下の褐色色粒を少量含む。	Ⅱ D	365と同一
367	早期	深鉢	胴部	L5 S224	唐系文	ナデ	30mm以下の褐色粒・褐色粒。10mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ D	
368	早期	深鉢	胴部	M5 S29	唐系文	ナデ	50mm以下の灰・黄褐色粒・緑水褐色粒。20mm以下の灰白色粒を散り、褐色な輝点を含む。2~4mmの砂粒を少量含む。	Ⅱ D	
369	早期	深鉢	胴部	9 S70	唐系文	ナデ	20mm以下の灰白色粒。10mm以下の褐色色粒。褐色な黒色光沢を少量含む。	Ⅱ D	
370	早期	深鉢	胴部	J7	南目沢唐系文	ナデ	50mm以下の褐色色粒・黄褐色色粒。20mm以下の黒褐色色粒・透明光沢を少量含む。	Ⅱ D	
371	早期	深鉢	胴へ直上	L3 S59	胴部唐系文の上部に部分的に条帯。直線ナデ	ナデ(指通直)	20mm以下の灰白色粒・黄褐色色粒・緑褐色粒。褐色な黒色光沢・透明光沢を少量含む。	Ⅱ D	平直 横径直径 4.2cm
372	早期	深鉢	口縁部 L4+K5+K5	口唇部ニ方ナ。口縁部以下変形唐系文	口縁部ニ方ナ。胴部以下丁寧ナデ	ナデ	30mm以下の金色の輝点。20mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒。灰白色粒を少量含む。	Ⅱ D	173・174と同一 横径口径 28.6cm
373	早期	深鉢	胴部	K5	変形唐系文	ナデ	30mm以下の金色の輝点。20mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒。灰白色粒を少量含む。	Ⅱ E	172・174と同一
374	早期	深鉢	胴部	K5	こぶ状突起。変形唐系文	ナデ	30mm以下の金色の輝点・黄褐色色粒・褐色色粒。灰白色粒を少量含む。	Ⅱ E	172・173と同一
375	早期	深鉢	底部	J8 [復元]	ナデ	ナデ	20mm以下の金色の輝点・黄褐色色粒を少量含む。	Ⅱ E	172・173・174と同一 横径口径 6cm
376	早期	深鉢	胴部へL6	ナデ・左上に一部変形唐系文	美化のため調整不明	ナデ	30mm以下の灰白色粒・金色の輝点・黒色粒・黄褐色粒を少量含む。	Ⅱ E	内面の調整が難しい 377と同一
377	早期	深鉢	胴部	K6	変形唐系文	美化のため調整不明	20mm以下の金色の輝点。灰色色粒・透明光沢・黄褐色粒を含む。	Ⅱ E	内面の調整が難しい 376と同一
378	早期	深鉢	胴部	L3	変形唐系文	美化のため調整不明(ナデナ)	10mm以下の黄褐色粒・金色の輝点。20mm以下の灰白色粒を含む。	Ⅱ E	
379	早期	深鉢	胴部	L5 S38	変形唐系文	丁寧なナデ	褐色な灰白色粒・褐色色粒を散り、褐色な透明光沢を少量含む。	Ⅱ E	
380	早期	深鉢	底部	8 SC244	縄文	ナデ	褐色な黄褐色色粒・褐色色粒・黒色光沢・透明光沢を少量含む。	Ⅱ E	
381	早期	深鉢	口縁部	A1一括	ナデ。靱帯状突起文	横ナデ	10mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒・透明光沢を少量含む。10mm以下の金色の輝点を含む。	Ⅱ A	
382	早期	深鉢	口縁部	M6	口唇部へ口縁部直ナデ。口縁部無文飾。口縁部以下格子目押型文	ナデ(光沢あり)	20mm以下の褐色色粒・灰色色粒・透明光沢を少量含む。	Ⅱ A	383・384と同一
383	早期	深鉢	胴部	M6 S126+L6	格子目押型文	ナデ(光沢あり)	20mm以下の褐色色粒・透明光沢を少量含む。10mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ F	383・384と同一
384	早期	深鉢	底部	M6 S123	胴部格子目押型文。直線ナデ	ナデ(光沢あり)	20mm以下の褐色色粒・透明光沢。10mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ F	平直 横径 383と同一
385	早期	深鉢	口縁部	J6	格子目押型文	口縁部格子目押型文	20mm以下の黄褐色色粒・透明光沢を少量含む。20mm以下の灰褐色色粒・透明光沢を含む。	Ⅱ F	186と同一 横径口径 32.6cm
386	早期	深鉢	胴部	K6+L7	格子目押型文	ナデ	20mm以下の黒色光沢・透明光沢を少量含む。20mm以下の黄褐色色粒。3mm以下の0.5~1μm程度の黒褐色色粒を少量含む。	Ⅱ F	385と同一
387	早期	深鉢	胴部	L4	格子目押型文	ナデ	褐色な灰白色粒・黒色光沢を少量含む。褐色な黒褐色色粒を少量含む。	Ⅱ F	
388	早期	深鉢	胴部	L5	変形押型文	ナデ	30mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒・褐色色粒を少量含む。褐色な黒色光沢を少量含む。	Ⅱ F	
389	早期	深鉢	胴部	K6	変形押型文	ナデ(指通直)	20mm以下の灰白色粒・褐色色粒を少量含む。褐色な透明光沢を少量含む。	Ⅱ F	
390	早期	深鉢	胴部	K6	変形押型文	ナデ(指通直)	20mm以下の灰白色粒・黄褐色色粒・褐色色粒を少量含む。20mm以下の透明光沢を少量含む。	Ⅱ F	
391	早期	深鉢	胴部	K5 [復元]	変形押型文	ナデ	20mm以下の黒色光沢・透明光沢を少量含む。30mm以下の灰白色粒・黄褐色色粒・褐色色粒を含む。	Ⅱ F	
392	早期	深鉢	胴部	H19	枝田転文	ナデ	20mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒・褐色色粒を含む。	Ⅱ F	393と同一
393	早期	深鉢	胴部	H19	枝田転文	ナデ	30mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒・褐色色粒を含む。	Ⅱ F	392と同一
394	早期	深鉢	口縁部	J8	口唇部へ口縁部直ナデ。口縁部無文飾。口縁部以下格子目押型文	ナデ	10mm以下の褐色な黄褐色色粒を少量含む。10mm以下の黄褐色色粒を少量含む。	Ⅱ F	
395	早期	深鉢	口縁部	M5 [SA30]	格子目押型文	口縁部直線条帯。口縁部以下格子目押型文	20mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒を少量含む。10mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ F	
396	早期	深鉢	口縁部	L4 [復元]	格子ナ。斜め方向の二条の直線	調整で不明(ナデナ)	30mm以下の黄褐色色粒。30mm以下灰色色粒。比しい赤褐色色・黒色光沢・透明光沢を含む。	Ⅱ (A)	美化難しい 又寸巻
397	早期	深鉢	口縁部	D23 [P105]	ナデ	ナデ	30mm以下の黄褐色色粒。20mm以下の黒色光沢。10mm以下の透明光沢を含む。	Ⅱ (A)	
398	早期	深鉢	口縁部	D30	ナデ	ナデ(指通直)	10mm以下の灰白色粒・黒色光沢・透明光沢を含む。	Ⅱ (A)	
399	早期	深鉢	口縁部	ウ32	ナデ	ナデ	褐色な黒色光沢を少量含む。10mm以下の灰白色粒を少量含む。	Ⅱ (A)	401と同一
400	早期	深鉢	口縁部	A3一括	ナデ	ナデ	50mm以下の黄褐色色粒・灰褐色色粒。20mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ (A)	縁部調整多い
401	早期	深鉢	口縁部	ウ32	ナデ	ナデ	褐色な黒色光沢を少量含む。10mm以下の灰白色粒を少量含む。	Ⅱ (A)	399と同一
402	早期	深鉢	口縁部	L4+L5	ナデ	ナデ	20mm以下の灰白色粒・黄褐色色粒・褐色色粒を少量含む。20mm以下の黒色光沢を少量含む。	Ⅱ (A)	横径口径 18.2cm
403	早期	深鉢	口縁部	L5	ナデ	ナデ	20mm以下の褐色色光沢・黄褐色色粒・黄褐色色粒。10mm以下の黒色光沢・透明光沢を含む。	Ⅱ (A)	内面調整難しい
404	早期	深鉢	口縁部	K6 [復元]+L6+M4	ナデ	良原条直	10mm以下の黄褐色色粒・褐色色粒・黒色光沢。褐色な透明光沢を含む。	Ⅱ (A)	

掲載 番号	時期	器種	部位	出土地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
405	早期	鉢	口縁部	M5	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白胎。明赤褐色。黒褐色を含む。	Ⅲ (ア)	横正口径 11.4cm
406	早期	深鉢	口縁部	才 46	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白色胎を多量に含む。10mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ (ア)	407 と同一
407	早期	深鉢	胴部	才 46	ナデ	ナデ	40mm 以下の灰白色胎。灰褐色粒を多量に含む。10mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ (ア)	406 と同一
408	早期	深鉢	口縁部～H20 胴部	H20	ナデ (指頭値)	ナデ (指頭値)	30mm 以下の灰褐色胎。灰白色胎を多量に含む。30mm 以下の褐色粒。黒色粒を含む。微細な黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ (ア)	409 と同一 横正口径 21.1cm
409	早期	深鉢	底部付	H20	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰褐色胎。深褐色粒を多量に含む。微細な黒色光沢粒を含む。	Ⅲ (ア)	408 と同一
410	早期	深鉢	口縁部	G15	ナデ	ナデ	30mm 以下の灰褐色胎。黒色光沢粒。透明光沢粒を多量に含む。	Ⅲ (ア)	411 と同一
411	早期	深鉢	胴部	G15	ナデ	ナデ (指頭値)	20mm 以下の黒色光沢粒。10mm 以下の黄褐色粒。灰褐色粒を多量に含む。	Ⅲ (ア)	410 と同一
412	早期	深鉢	口縁部	K5 [SC9]	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白色胎。黄褐色粒。褐色粒。黒色粒を多量に含む。20mm 以下の黒色光沢粒を含む。	Ⅲ (イ)	外面の割傷が深い
413	早期	深鉢	口縁部	ア 33	ナデ	ナデ	30mm 以下の灰白胎。10mm 黒色光沢粒を多量に含む。10mm 以下の褐色粒。透明光沢粒を含む。	Ⅲ (ウ)	横正口径 14.9cm
414	早期	深鉢	口縁部	J 8	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白色胎。黒色光沢粒を多量に含む。10mm 以下の透明光沢粒。灰褐色粒を少量含む。	Ⅲ (ウ)	
415	早期	深鉢	口縁部	J9 [SH204]	ナデ (指頭値)	ナデ (指頭値)	30mm 以下の灰褐色胎。黄褐色粒を多量に含む。20mm 以下の黒色光沢粒。透明光沢粒を少量含む。	Ⅲ (ウ)	
416	早期	深鉢	胴部	F25 S11	ナデ	ナデ	20mm 以下の灰白色胎。黄褐色粒。赤褐色粒。10mm 以下の黒色粒。透明光沢粒を含む。	Ⅲ	縁部割傷が多い
417	早期	深鉢	胴部	H19 S31	ナデ	ナデ	10mm 以下の褐色胎。黄褐色粒を多量に含む。	Ⅲ	内面割傷が深い
418	早期	深鉢	胴部	L5	ナデ (指頭値)	ナデ (指頭値)	20mm 以下の灰白色胎を多量に含む。10mm 以下の褐色粒。にじみ。黒色粒。黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ	419 と同一
419	早期	深鉢	胴部	M5	ナデ (指頭値)	ナデ (指頭値)	30mm 以下の黄褐色胎。褐色粒。褐色粒を多量に含む。	Ⅲ	418 と同一
420	早期	深鉢	胴部	L4+L5	ナデ	ナデ (指頭値)	10mm 以下の黄褐色胎。褐色粒。黒色光沢粒。微細な透明光沢粒を含む。	Ⅲ	421 と同一
421	早期	深鉢	胴部	K5+L4	ナデ	ナデ (指頭値)	10mm 以下の黄褐色胎。褐色粒。黒色光沢粒。微細な透明光沢粒を含む。	Ⅲ	420 と同一
422	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7]	ナデ	風化のため観察不明	30mm 以下の黄褐色胎。20mm 以下の透明光沢粒を多量に含む。20mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ	内面割傷が深い
423	早期	深鉢	胴部	L5 [SA7]	ナデ	ナデ	20mm 以下の黄褐色胎。褐色粒。透明光沢粒を含む。	Ⅲ	縁部割傷が多い
424	早期	深鉢	胴部	L5	ナデ	ナデ	30mm 以下の黄褐色胎。灰褐色粒。20mm 以下の透明光沢粒を多量に含む。20mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ	内面の割傷が深い
425	早期	深鉢	胴部	L7	ナデ	ナデ	30mm 以下の黄褐色胎。褐色粒。褐色粒を多量に含む。	Ⅲ	
426	早期	深鉢	胴部	H19	ナデ	ナデ	20mm 以下の黒色光沢粒。10mm 以下の黄褐色胎。褐色粒を含む。	Ⅲ	
427	早期	深鉢	底部	M4	ナデ	ナデ	10mm 以下の褐色胎。深褐色粒を多量に含む。微細な透明光沢粒を少量含む。	Ⅲ	灰皿
428	早期	深鉢	底部	K6	ナデ	ナデ	30mm 以下の灰白色胎。褐色粒。黄褐色粒を含む。	Ⅲ	灰皿
429	早期	深鉢	底部	G22 S12	ナデ	ナデ	10mm 以下の黄褐色胎。褐色粒。微細な透明光沢粒を多量に含む。微細な黒色光沢粒を少量含む。	Ⅲ	灰皿
430	早期	深鉢	口縁部	イ 37	肥厚層、刮目 (工具 U)、ナデ	ナデ	20mm 以下の黄褐色胎。にじみ。褐色粒を含む。		
431	早期	深鉢	口縁部	M6	口唇部刮目 (工具 V)、口縁部ナデのち流線文 (工具 V)	ナデ	20mm 以下の黄褐色胎。白胎。深褐色粒。ナデ。黒色粒を多量に含む。30mm 以下の砂粒を少量含む。		
432	早期	深鉢	口縁部 79 [複製] 付近		棒状の工具による条痕	口縁部刮目、口縁部以下ナデ	10mm 以下の灰白色胎。黄褐色粒を多量に含む。10mm 以下の透明光沢粒。金色の砂粒を少量含む。		無文。口縁部のみ可能性もある。
433	早期	深鉢	胴～底	M5 [SA3] 部	ナデ	ナデ	30mm 以下の黄褐色胎。明赤褐色。にじみ。褐色粒。微細な黒色光沢粒。透明光沢粒を含む。		横正径 7.0cm
434	早期	深鉢	胴部	L8 [複製]	貝殻刺突文	ナデ	10mm 以下の褐色胎を多量に含む。	I C	土質片加工内層
435	早期	深鉢	胴部	A1～8	網目状刺突文	ナデ	10mm 以下の灰白色胎。褐色胎粒を多量に含む。	Ⅲ D	土質片加工内層
436	早期	深鉢	胴部	J7	格子目押型文	ナデ	10mm 以下の黄褐色胎。褐色胎粒を多量に含む。10mm 以下の黒色光沢粒。透明光沢粒を少量含む。	Ⅲ F	土質片加工内層 385・386・437 と同一か
437	早期	深鉢	口縁部	L6 [SA6] 付近	格子目押型文	格子目押型文	10mm 以下の灰白色胎。褐色胎粒を多量に含む。10mm 以下の黒色光沢粒。透明光沢粒を少量含む。	Ⅲ F	土質片加工内層 385・386・436 と同一か

第 13 表 縄文時代前期～後期土器観察表

観測 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
597	前期	深鉢	口縁部	F22 [S164]	刻目帯 (工具V)、 貝殻条痕	貝殻条痕	3mm 以下の灰白色粒、黒色粒を多量に含み、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		
598	前期	深鉢	口縁部	M7 [腹乱]	口唇部刻目、 口唇部以下刻目文、ナデ	ナデ	1mm 以下の滑石を多量に含み、1mm 以下の黒色粒を 含む。		
599	前期	深鉢	口縁部	M5	口唇部以下刻目文、ナデ	ナデ	3mm 以下の滑石を多量に含み、微細な黒褐色粒を少量 含む。		
600	前期	深鉢	口縁部	M5 [腹乱]	口唇部刻目、 口縁部以下刻目文、沈線 文	ナデ	5mm 以下の滑石を多量に含み、微細な黒褐色粒を含む。		
601	前期	深鉢	口縁部	L6 [腹乱]	口唇部刻目、口縁部以下 刻目文、沈線文、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、3mm 以下の滑石を少量含む。		
602	前期	深鉢	口縁部	M5 [SA475]	口唇部刻目、 口唇部以下沈線文、ナデ	短沈線文、 ナデ	3mm 以下の滑石を多量に含み、2mm 以下の黒色粒、 炭褐色粒を少量含む。		
603	前期	深鉢	口縁部	M5	短沈線文、ナデ	短沈線文、 ナデ	2mm 以下の黄褐色粒、灰褐色粒を多量に含み、2mm 以下の黒色光沢粒、滑石を少量含む。		
604	前期	深鉢	口縁部	M4	口唇部刻目、 口唇部以下沈線文、ナデ	短沈線文、 ナデ	微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm 以下の滑石、滑石 粒を少量含む。		
605	前期	深鉢	胴部	M4	沈線文、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含み、 2mm 以下の滑石を含む。		補綴孔
606	前期	深鉢	胴部	M5 [腹乱]	沈線文、ナデ	ナデ	2mm 以下の滑石を多量に含み、1mm 以下の灰白色粒、 微細な透明光沢粒を少量含む。		
607	前期	深鉢	胴部	K4 [腹乱]	沈線文、ナデ	ナデ	2mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含み、1mm 以 下の黒色粒、透明光沢粒、滑石を少量含む。		
608	前期	深鉢	胴部	M6 [SA116]	沈線文、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含み、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		
609	前期	深鉢	胴部	K5 [SA25]	沈線文、ナデ	ナデ?	3mm 以下の滑石を多量に含み、2mm 以下の赤褐色粒、 灰白色粒を含む。		内面割傷が深い
610	前期	深鉢	胴部	K5	短沈線文、ナデ	ナデ	1mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒を含み、1mm 以下の 黒色光沢粒、透明光沢粒を少量含む。		
611	前期	深鉢	胴部	M5 [SA3]	沈線文、ナデ	ナデ	3mm 以下の滑石を多量に含み、2mm 以下の褐色粒粒、 1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		
612	前期	深鉢	胴部	L7 [SA15]	沈線文、ナデ	ナデ	2mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒、黒褐色粒を多量に 含み、1mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。		
613	前期	深鉢	胴部	K5 [腹乱]	沈線文、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、黒褐色粒を多 量に含み、1mm 以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を少量 含む。		
614	前期	深鉢	胴部	M6 [SA4]	沈線文、ナデ	ナデ	2mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黒褐色粒、透明光沢粒を少量含む。		
615	前期	深鉢	胴部	M5 [SA475]	刻目文、貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕後ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を多量に含 み、3mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒を含む。		外面割傷が深い
616	前期	深鉢	胴部	K7 [SA11]	刻目文、沈線文、 貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	1mm 以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を多量に含み、 2mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、明赤褐色粒を含む。		
617	前期	深鉢	胴部	L6 [SA6]	刻目文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を多量に含 み、3mm 以下の灰白色粒、2mm 以下の炭褐色粒、 黒褐色粒を含む。		
618	前期～ 中期	深鉢	口縁部	M5	貝殻刻目文、貝殻条痕	ナデ	3mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含み、1mm 以下の透明光沢粒を含む。		入付痕
619	中期	深鉢	胴部	イ 33	尾節、半截竹管による押 引文、刻目文、線文	ナデ	1mm 以下の炭褐色粒を多量に含み、3mm 以下の黄褐 色粒を少量含む。		補綴孔
620	中期?	深鉢	口縁部	A5 一括	沈線文、ナデ	ナデ	5mm 以下の炭褐色粒、2mm 以下の灰白色粒を含み、 4mm 以下の滑石、微細な透明光沢粒を少量含む。		波状及びキリキリ 口縁の可能性
621	中期～ 後期	深鉢	口縁部	H16 [S48]	波頂部→口唇部刻目、 口唇部以下短沈線文、凹 線文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	2mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、透明光沢粒を多量に 含む。		622 と同一 波状口縁
622	中期～ 後期	深鉢	胴部	H16 [S48]	凹線文、刻目文、 貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	2mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、黒褐色粒、透明光沢粒を 多量に含む。		621 と同一
623	中期～ 後期	深鉢	口縁部	A5 一括	口唇部貝殻面押印文、 口縁部以下刻目文、凹線 文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	4mm 以下の黄褐色粒、灰褐色粒、褐色粒を多量に含む。		波状口縁
624	後期	深鉢	口縁部	M3 [SC320]	沈線文、貝殻刻目文、ナ デ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、褐色粒を多量に含む。		波状口縁
625	後期	深鉢	胴部	H16 [S48]	沈線文、ナデ	ナデ	4mm 以下の炭褐色粒を多量に含み、3mm 以下の滑 石を含む。		
626	後期	深鉢	口縁部	M3 [SA118] +M4 [SC321]	沈線文、筋溝線文、ナ デ	ナデ	2mm 以下の明褐色粒、褐色粒を少量含む。		
627	後期	深鉢	口縁部	ウ 34	口唇部沈線文、口唇部部 刻目、口縁部以下沈線文、 ナデ	貝殻条痕後ナデ	3mm 以下の褐色粒を多量に含み、1mm 以下の黒色光 沢粒、透明光沢粒を少量含む。		
628	後期	深鉢	胴部	A2 一括	貝殻刻目文、貝殻条痕 ナデ	ナデ	1mm 以下の炭褐色粒、褐色粒を多量に含む。		底化層なし
629	後期	深鉢	胴部	A3 一括	巻貝刺突部印線文、ナ デ	ナデ	6mm 以下の灰白色粒、2mm 以下の褐色粒を含み、微 細な黒色光沢粒を少量含む。		
630	後期	深鉢	口縁部	A1 一括	線文 (工具刻目)、ナ デ	ナデ	1mm 以下の炭褐色粒、褐色粒を含み、1mm 以下の 透明光沢粒を少量含む。		底化層なし 底化層なし
631	後期	深鉢	胴部	D28	尖刺、穿孔、沈線文、ナ デ	ナデ	1mm 以下の炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含み、2mm 以下の明褐色粒、褐色粒を少量含む。		波状口縁
632	後期	鉢	口縁部	F22 [S161]	ミ方弁	沈線文、ナデ	2mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒、黒褐色粒を多量に含む。 2mm 以下の明褐色粒、褐色粒を少量含む。		波状口縁
633	後期	鉢	口縁部	H19	ミ方弁	沈線文、口唇部 ミ方弁、口縁部 以下ナデ	1mm 以下の灰白色粒、黄褐色粒、黒褐色粒を多量に含む。		波状口縁の可能性
634	後期	鉢	口縁部	ア 31	沈線文、丁寧なナ デ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒、褐色粒、黒褐色粒を多量に含む。		波状口縁
635	後期	鉢	口縁部	38 [腹乱]	ミ方弁	ミ方弁	1mm 以下の褐色粒、黒色光沢粒を多量に含み、1mm 以下の灰白色粒、炭褐色粒を少量含む。		
636	後期	鉢	胴部	F20 [S24]	沈線文、刻目 (工具)、 ミ方弁	ナデ	微細な透明光沢粒を多量に含み、1mm 以下の明褐色 粒、灰白色粒を少量含む。		

第 14 表 縄文時代晩期土器観察表

観 測 番 号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
637	晩期	浅鉢	口縁部	MS SC318	丁寧なミガキ		焼締で灰黄色色・褐色色・赤褐色色を少量含む。	I①	口径 13.8cm、 内径黒黒、外底黒黒
638	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	ナデ、爪状沈線文	へつ状工具 ナデ	4mm 以下の網目褐色粒・3mm 以下の灰白色粒を含む。	IV-B③	637・640 と同一方 外底欠片有
639	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	ナデ、爪状沈線文	へつ状工具 ナデ	3mm 以下の網目褐色粒・灰色色・2mm 以下の灰白色粒を含む。	IV-B③	638・640 と同一方
640	晩期	深鉢	胴部	MS SC318+MS	ナデ	ナデ	2mm 以下の網目褐色粒・乳白色粒・1mm 以下の灰白色粒・黄褐色色・3mm 程の少小粒を含む。	IV-B③	638・639 と同一方
641	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	3mm 以下の黄褐色色を多量に含む。3mm 以下の網目褐色粒・流黄褐色を少量含む。	IV-2A③	643 と同一 網目有
642	晩期	深鉢	胴部	MS SC318	粗いナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・流黄褐色・褐色色を多量に含む。焼締な黒色光沢粒を少量含む。	IV-2A③	643 と同一
643	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2mm 以下の網目褐色粒・黄褐色色を多量に含む。3mm 以下の灰白色粒を少量含む。	IV-2A④	644 と同一方
644	晩期	深鉢	胴部	MS SC318	ナデ	条面のちナデ	2mm 以下の流黄褐色粒・黄褐色色を多量に含む。	IV-2B④	643 と同一方 外底欠片有
645	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	無刻目突帯、ナデ	口縁部ナデ、 胴部以下縦方向 条面のちナデ	2mm 以下の網目褐色粒・1mm 以下の流黄褐色色を多量に含む。1mm 以下の黒色光沢粒・網目褐色粒を少量含む。	IV-2A④	口径 20.7cm、 外底欠片有
646	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2mm 以下の乳白色粒・灰色色・赤褐色を多量に含む。	IV-2B①	
647	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	1.5mm 以下の黄褐色色を多量に含む。3mm 以下の灰白色粒を含む。	IV-2B①	648 と同一方 内底一線黒
648	晩期	深鉢	底部	MS SC318	ナデ	条面のちナデ、 ナデ	3mm 以下の網目褐色粒・網目褐色粒・乳白色粒を多量に含む。黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IV-2B①	647 と同一方 口径 7.6cm
649	晩期	深鉢	口縁部	MS SC318	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2mm 以下の網目褐色色を多量に含む。	650 と同一	
650	晩期	深鉢	胴部	MS SC318	ナデ	条面のちナデ	2mm 以下の網目褐色色を多量に含む。	649 と同一	
651	晩期	鉢	口縁部	MS SC318	ナデ、網代文様	丁寧なミガキ ナデ	4mm 以下の黄褐色色・3mm 以下の黄褐色色・2mm 以下の赤褐色粒を含む。	III③	652・653 と同一方
652	晩期	鉢	胴部	MS SC318	粗いナデ、一部網代文様	丁寧なナデ	2mm 以下の灰白色粒・網目褐色色を多量に含む。	III③	651・653 と同一方 内底黒
653	晩期	鉢	胴部	MS SC318	粗いナデ	丁寧なナデ	5mm 以下の黄褐色色・2mm 以下の灰褐色粒・1.5mm 以下の赤褐色色を多量に含む。	III③	651・652 と同一方 内底欠片有
661	晩期	深鉢	口縁部	E24 S203	無刻目突帯、ナデ	ナデ	3mm 以下の網目褐色粒・1mm 以下の灰白色粒・褐色色・網目褐色粒を含む。	IV-2B①	
662	晩期	深鉢	口縁部	E24 S203	無刻目突帯、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色色・網目褐色色を多量に含む。	IV-2B①	
663	晩期	深鉢	口縁部	E24 S203	無刻目突帯、ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・灰褐色色を多量に含む。	IV-2B①	
664	晩期	鉢	口縁部	E24 S203	ナデ	ミガキナデ	1mm 以下の流黄褐色色・焼締な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む。	IV-2B①	外底欠片有、 内底黒
665	晩期	深鉢	口縁部	C19 S226	無刻目突帯、ナデ、貝殻 条面のちナデ	条面のちナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色色を含む。	IV-2B①	
666	晩期	深鉢	口縁部	C19 S226	無刻目突帯、ナデ、粗い ナデ	ナデ	2mm 以下の網目褐色粒・黄褐色色を多量に含む。1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	IV-2B①	
667	晩期	深鉢	口縁部	C19 S226	無刻目突帯、ナデ、条面 のちナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色色・黄褐色色を多量に含む。	IV-2B①	
668	晩期	鉢	口縁部	C19 S226	無刻目突帯上車は粗い ナデ、下車は網代文様	丁寧なミガキ ナデ	1mm 以下の流黄褐色色を多量に含む。3mm 以下の網目褐色色を含む。	III③	口径 29.8cm、 口縁部外底欠片有、 III③ 網目有
669	晩期	鉢	口縁部	C19 S226	粗いナデ	丁寧なミガキ	5mm 以下の網目褐色色・3mm 以下の灰褐色粒・1.5mm 以下の赤褐色色・流黄褐色色を多量に含む。焼締な黒色光沢粒を少量含む。	III③	III③ 網目有、 III③ 外底欠片有、 III③ 口径 20.1cm
690	晩期	深鉢	口縁部	E22 S222	無刻目突帯、ナデ	ナデ	1mm 以下の網目褐色色を多量に含む。3mm 以下の灰白色粒・褐色色・2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	IV-2A②	口径 12.2cm、 内底黒、外底欠片有、 III③ 口径 20.1cm
691	晩期	鉢	口縁部	H21 S118	ナデ	ナデ	3mm 以下の網目褐色色を多量に含む。3mm 以下の網目褐色色を少量含む。	IV-B④	
692	晩期	深鉢	口縁部	H21 S118	粗いナデ	のちミガキ ナデ	3mm 以下の流黄褐色色・灰白色粒を多量に含む。	IV-1A④	内底、外底欠片有
693	晩期	鉢	口縁部	H21 S118	無刻目突帯、粗いナデ	条面のちナデ	2mm 以下の黄褐色色・灰白色粒を少量含む。	IV-2A④	内底黒
694	晩期	深鉢	口縁部	H21 S118	無刻目突帯、ナデ	丁寧なナデ	2mm 以下の灰白色粒・1.5mm 以下の灰褐色色・黄褐色色を含む。	IV-2B④	内底欠片有
695	晩期	浅鉢	口縁部	820 S2501	丁寧なミガキ	ミガキ	焼締な透明光沢粒を多量に含む。1mm 以下の赤褐色・網目褐色粒・灰白色粒・焼締褐色粒を少量含む。	I③	口径 17.6cm、 外底黒
696	晩期	浅鉢	口縁部	820 S2501	丁寧なミガキ、沈線	丁寧なミガキ、 沈線	2mm 以下の灰白色粒を少量含む。	I③	口径 17.6cm、 外底黒
697	晩期	浅鉢	口縁部	820 S2501	ミガキ	ナデのち ミガキ	焼締な透明光沢粒を含む。焼締な灰白色粒を少量含む。	I①	内底、外底黒
698	晩期	浅鉢	胴部	820 [S2502] + 820 [S2001] + 820	ミガキ	ナデのち ミガキ	3mm 以下の灰白色粒・焼締な透明光沢粒を少量含む。	I①	699 と同一方 外底黒
699	晩期	浅鉢	胴部	820 S2501	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	4mm 以下の灰白色粒・赤褐色色・焼締な透明光沢粒を少量含む。	I①	698 と同一方 外底黒
700	晩期	深鉢	口縁部	820 S2501	無刻目突帯、粗いナデ	条面のちナデ	3mm 以下の黄褐色色・網目褐色色を多量に含む。	IV-2A④	701 と同一、 口径 30.8cm
701	晩期	深鉢	底部	820 S2501	粗いナデ	条面のちナデ	3mm 以下の網目褐色色を多量に含む。3mm 以下の灰白色粒・5mm 以下の灰褐色粒を含む。	IV-2A④	700 と同一、 口径 30cm
702	晩期	浅鉢	口縁部	H15 [S50]	沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	焼締な赤褐色色・黄褐色色を少量含む。	I①	
703	晩期	浅鉢	口縁部	H17	沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	焼締な黄褐色色・黄褐色色を少量含む。	I①	
704	晩期	浅鉢	口縁部	G19	沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	焼締な黄褐色色・黄褐色色を少量含む。	I①	
705	晩期	浅鉢	口縁部	J10 [SA33/34]	ミガキ	沈線文、 ミガキ	1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	I①	網目有
706	晩期	浅鉢	口縁部	A4 [溝内一底]	沈線文、ミガキ	沈線文、 ミガキ	焼締な黄褐色色・流黄褐色色を多量に含む。1mm 以下の黒色光沢粒・1.5mm 以下の赤褐色色を少量含む。	I①	網目有

掲載 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
707	晩期	浅鉢	口縁部	C16 [S24]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐色粒・黒色粒を多量に含む。	1①	
708	晩期	浅鉢	口縁部	E18	ナデ、沈線文、ミガキ	ミガキ	5mm 程の粗粒、1mm 以下の白色粒を少量含む。	1①	外面黒変、内面黒変
709	晩期	浅鉢	口縁部	Ⅲ [SC51]	沈線文、ミガキ	沈線状にくびれ、ミガキ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒を少量含む。	1①	外面黒変黒しい
710	晩期	浅鉢	口縁部	Ⅲ [SC51]	沈線文、ミガキ	沈線状にくびれ、ミガキ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を少量含む。	1①	内面割傷黒しい
711	晩期	浅鉢	口縁部	ウ 33 [9r・S11]	浅い沈線、ミガキ	浅い沈線、ミガキ	褐色乃至黒色粒・褐色粒を多量に含む。	1①	
712	晩期	浅鉢	口縁部	Ⅲ [SA34]	沈線状にくびれ、粗いミガキ	沈線状にくびれ、ミガキ	褐色乃至黒色粒・褐色粒を少量含む。	1①	
713	晩期	浅鉢	口縁部	G18	沈線文、ミガキ	沈線文、ミガキ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒を少量含む。	1①	
714	晩期	浅鉢	口縁部	ウ 29	沈線文、ミガキ	沈線状にくびれ、ミガキ	2mm 以下の褐色粒を少量含む。	1①	ヒシ状突起
715	晩期	鉢	口縁部	G20	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の粗褐色粒を多量に含む。褐色乃至白色粒を少量含む。	1①	
716	晩期	浅鉢	口縁部	Ⅲ	ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒を少量含む。	1①	
717	晩期	浅鉢	口縁部	K10 [SA114]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の灰白色粒。褐色乃至透明光沢を少量含む。	1①	ヒシ状突起
718	晩期	浅鉢	口縁部	F18+F20 [S23]	ミガキ	沈線文、ミガキ	褐色乃至黒色粒・透明光沢を少量含む。	1①	口径 23.2cm
719	晩期	浅鉢	口縁部	A5-Ⅱ	ミガキ	沈線文、ミガキ	2mm 以下の褐色粒、1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	1②	
720	晩期	浅鉢	口縁部	C25	ミガキ	沈線文、ミガキ	1mm 以下の黒褐色粒を多量に含む。1mm 以下の褐色粒を少量含む。	1②	
721	晩期	浅鉢	口縁部	E20 [S26]	ミガキ	沈線文、ミガキ	1mm 以下の灰白色粒・褐色粒を多量に含む。	1②	口径 15.2cm、 穿孔あり
722	晩期	浅鉢	口縁部	H20 [S19]	ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒・にぶい黒褐色粒・透明光沢を多量に含む。	1②	
723	晩期	浅鉢	口縁部	J10 [SA33+SA34]	ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒を少量含む。	1②	
724	晩期	浅鉢	口縁部	K12 [SA64]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐色粒・明赤褐色粒を多量に含む。1mm 以下の黒色光沢を少量含む。	1②	ヒシ状突起
725	晩期	浅鉢	口縁部	E21	ミガキ	ミガキ	1mm 以下のにぶい黒褐色粒・黒褐色粒・透明光沢を少量含む。	1②	表面黒化
726	晩期	浅鉢	口縁部	G18 [S60]	ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒を少量含む。	1②	
727	晩期	浅鉢	口縁部	G18 [S60]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の黒褐色粒を多量に含む。1mm 以下の灰白色粒を少量含む。	1②	ヒシ状突起
728	晩期	浅鉢	口縁部	C25 [S15]	ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒を少量含む。	1②	内面割傷黒しい
729	晩期	浅鉢	口縁部	H17	沈線文、ミガキ	沈線文、ミガキ	褐色乃至黒色粒・にぶい黒褐色粒、1mm 以下の透明光沢を少量含む。	1②	口径 23.2cm
730	晩期	浅鉢	口縁部	J20 [S12]	ミガキ	沈線文、ミガキ	褐色乃至黒色粒・黒色光沢を少量含む。	1②	口径 12.0cm
731	晩期	浅鉢	口縁部	Ⅲ [SC33]	ミガキ	沈線文、ミガキ	2mm 以下の灰白色粒。褐色乃至黒色粒・黒色光沢を少量含む。	1②	口径 30.6cm
732	晩期	浅鉢	口縁部	D18 [S396]	ミガキ	浅い沈線、ミガキ	2mm 以下の粗粒状褐色粒・透明光沢を少量含む。	1②	
733	晩期	浅鉢	口縁部	D29 [S12]	ナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒・褐色粒を少量含む。	1②	
734	晩期	浅鉢	口縁部	D20 [S168]	沈線文、ミガキ	沈線文、ミガキ	1mm 以下の粗粒褐色粒・黒褐色粒・白色粒を少量含む。	1②	
735	晩期	浅鉢	口縁部	H21	沈線文、ミガキ	沈線文、ミガキ	褐色乃至白色粒を少量含む。	1②	
736	晩期	浅鉢	口縁部	I19 [F101]	沈線文、ミガキ	沈線状にくびれ、ミガキ	褐色乃至黒色粒を少量含む。	1②	
737	晩期	浅鉢	口縁部	D20 [S168]	細い沈線文、不明(ナデか)	沈線状にくびれ、ナデか	1mm 以下の灰白色粒。褐色乃至透明光沢を少量含む。	1②	ヒシ状突起、 割傷、黒化黒しい
738	晩期	浅鉢	口縁部	I16 [S56]	ミガキ	口縁部ミガキ、 胎土部以下ナデ	1mm 以下の褐色粒を少量含む。	1②	ナデ状突起、 外面黒変
739	晩期	浅鉢	口縁部	D26 [S13]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐色粒を少量含む。	1②	
740	晩期	浅鉢	口縁部	ア 27 [S2012]	沈線文、ミガキ	口縁部 ミガキ、以下 胎土のみナデ	1mm 以下の白色粒を多量に含む。褐色乃至黒色粒・透明光沢を少量含む。	1②	ヒシ状突起
741	晩期	浅鉢	口縁部	F23	沈線文、ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒を少量含む。	1②	
742	晩期	浅鉢	口縁部	Ⅲ [SA39]	沈線文、ミガキ	ミガキ	褐色乃至黒色粒・透明光沢を少量含む。	1②	ヒシ状突起、 割傷黒しい
743	晩期	浅鉢	口縁部	I12 [SA90]	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の褐色粒を少量含む。	1②	
744	晩期	浅鉢	口縁部	D18	ミガキ	ミガキ	褐色乃至透明光沢を多量に含む。2mm 以下の灰褐色粒を少量含む。	1②	
745	晩期	浅鉢	口縁部	B24 [S17]	ミガキ	ナデか	1mm 以下の黒褐色粒を少量含む。	1②	ヒシ状突起、 割傷黒しい
746	晩期	鉢	口縁部	D18 [S33]	ミガキ	ミガキ	褐色乃至白色粒・褐色粒を多量に含む。	1②	内面黒化黒しい
747	晩期	浅鉢	口縁部	G21 [S17]	ミガキ	ミガキ	3mm 以下のにぶい黒褐色粒を多量に含む。2mm 以下の黒褐色粒を少量含む。	1②	ナデ状突起、 内面黒化黒しい
748	晩期	浅鉢	口縁部	F16 [S81]	沈線文、ミガキ	ミガキ	1mm 以下のにぶい黒褐色粒・褐色粒を少量含む。褐色乃至透明光沢を少量含む。	1②	口径 17.0cm
749	晩期	浅鉢	口縁部	J10 [SA34]	口縁部と胎土部に沈線文、ミガキ	沈線文、ミガキ	1mm 以下のにぶい黒褐色粒・褐色粒を多量に含む。褐色乃至透明光沢を少量含む。	1②	
750	晩期	浅鉢	口縁部	G21 [S16]	沈線文、ミガキ	ナデ	1mm 以下の灰白色粒を多量に含む。褐色乃至透明光沢を少量含む。	1②	

発掘 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
751	晩期	浅鉢	口縁～ 胴部	G15	口縁部は土線状くだけ、 胴部に土線文、ミガキ	口縁部部、 土線文、 ミガキ	2mm 以下の褐色色を多量に含む。	1(2)	
752	晩期	浅鉢	口縁部	D18 [S33]	ミガキ		2mm 以下の灰白色・淡黄褐色・黒褐色。縦線は 透明光沢色を含む。	1(2)	
753	晩期	浅鉢	口縁～F19 胴部		ミガキ	ナデ	1mm 以下の褐色色・灰白色を含む。縦線は透明光 沢色を少量含む。	1(2)	口縁 24.0cm 内径 2.5寸着 内外高差 顕著しい
754	晩期	浅鉢	口縁～F20 [S23] 胴部		ナデ、ミガキ	ナデ	1mm 以下の灰白色・褐色色を多量に含む。	1(2)	
755	晩期	浅鉢	口縁部	H15 [S49]	ミガキ、胴部に 2 本の土 線	ミガキ	1mm 以下の黄褐色・黒褐色。縦線は透明光沢色を少 量含む。	1(2)	口縁 17cm
756	晩期	浅鉢	口縁部	E19 [S80]	口唇部ナデ、ミガキ、口 縁部に 1 本の土線	ミガキ、 土線部の工具痕	2mm 以下の茶褐色、1mm 以下の白色色を含む。	1(2)	外面は胴部に茶色打 撃物有り
757	晩期	浅鉢	口縁部	F17	ミガキ、口縁部に 1 本の 土線	口唇部ナデ、 ミガキ	2mm 以下の黄褐色・褐色色を含む。縦線は白色色を 少量含む。	1(2)	
758	晩期	浅鉢	口縁～A5一筋 胴部		土線文、ミガキ	ミガキ	縦線は褐色色・にじみ黄褐色を多量に含む。	1(2)	
759	晩期	浅鉢	口縁～K9 [腹孔] 胴部		ミガキ	土線文、 ミガキ	2mm 以下の黄褐色を多量に含む。	1(2)	
760	晩期	鉢	口縁部	F19 [S40]	肥厚口縁部、ミガキ		2mm 以下の黄褐色・灰白色・褐色色を含む。縦線は透 明光沢色を含む。	1(2)	
761	晩期	鉢	口縁部	E19 [S80]	ナデ	ナデ	3mm 以下の褐色色。縦線はにじみ黄褐色を多量に 含む。	1(2)	
762	晩期	鉢	口縁部	G22	粗いナデ	一筋土線文、 丁寧なナデ	6mm 以下の黄褐色の小粒を含む。3mm 以下の黄褐色・ 淡黄褐色・灰白色。縦線は透明光沢色を含む。	1(2)	
763	晩期	鉢	口縁部	G22	粗いナデ	一筋土線文、 ミガキ	2mm 以下の灰白色・黄褐色・褐色色を多量に含む。 5mm 以下の褐色色を含む。	1(2)	内外高差
764	晩期	浅鉢	口縁部	E22 [S140]	ミガキ?	ミガキ?	縦線は白色色・透明光沢色を含む。3mm 以下の灰 白色・暗赤褐色を少量含む。	1(2)	割傷深しい
765	晩期	浅鉢	口縁部	F22 [S164]	ミガキ	ミガキ	縦線は白色色・透明光沢色を含む。1mm 以下の灰 白色・褐色色を少量含む。	1(2)	縦線深まり
766	晩期	浅鉢	口縁部	G18 [S44]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の褐色色・淡黄褐色を少量含む。	1(2)	ヒレ状突起
767	晩期	浅鉢	口縁部	D21 [S141]	ミガキ、土線部に鉄製の 工具痕	ナデ、ミガキ	1mm 黄褐色・褐色色・透明光沢色を少量含む。	1(2)	内外面に茶色打撃物 打撃有り
768	晩期	浅鉢	口縁部	G20 [S22]	土線文、ミガキ	ミガキ	縦線は灰白色・褐色色を多量に含む。縦線は透明光 沢色を含む。	1(2)	外面に茶色打撃物有 り
769	晩期	浅鉢?	口縁部	A1 [溝内一筋]	土線文、ミガキ	土線文、 ミガキ	縦線は褐色色を多量に含む。縦線は黄褐色・黒色 色・透明光沢色を少量含む。	1(2)	溝内口縁
770	晩期	浅鉢?	口縁～K10 [SA32] 胴部	K10 [SA41]	黄褐色、土線文、ミガキ	ミガキ	縦線は褐色色を少量含む。	1(2)	内外面に茶色打撃物 有り
771	晩期	浅鉢	口縁部	F20 [S12]	土線文、横線起突部、ミ ガキ	土線文、 ミガキ	5mm 以下の灰白色を少量含む。	1(2)	ヒレ状突起
772	晩期	浅鉢	胴部	F20 [S23]	ミガキ、横線起突部	ミガキ	2mm 以下の灰白色を少量含む。	1(2)	
773	晩期	浅鉢	胴部	A4一筋	横線起突部、ナデ	ミガキ	1mm 以下の褐色色を多量に含む。1mm 以下の灰白 色を少量含む。	1(2)	
774	晩期	鉢・皿?	口縁部	A24 [S2015] + A24 [S2016]	ナデ	裏面のナデナ	7～4mm 灰白色。1mm 以下の黄褐色を多量に含む。	1(2)	溝内口縁 内部凹部
775	晩期	台付鉢・脚瓶 皿?	イ 27	ナデ	ナデ	ナデ	5mm 以下の灰褐色を多量に含む。1mm 以下の茶褐色 を少量含む。	1(2)	溝内凹部有り
776	晩期	脚付 鉢?	胴部～ 脚付部	B20 [S2009]	胴部ナデ、脚付部ナデ	工具ナデ、 ナデ	縦線は透明光沢色を多量に含む。1mm 以下の黄褐色・ 茶褐色を少量含む。	1(2)	
777	晩期	浅鉢	胴部	E21	ミガキ	ミガキ	縦線は灰白色・褐色色・黒色光沢を少量含む。	1(2)	内外高差
778	晩期	浅鉢	胴部	H19	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の黄褐色色を少量含む。	1(2)	
779	晩期	浅鉢	胴部	E17 [S38]	ミガキ	ミガキ	縦線は白色色・黄褐色・透明光沢色を少量含む。	1(2)	内外面より土線状 内外高差
780	晩期	浅鉢	胴部	D20 [S210]	ナデ	ナデ	3mm 以下の乳白色・灰褐色・黄褐色を多量に含む。	1(2)	縦線 内径 2.5寸着
781	晩期	浅鉢	胴部	E20 [S26]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の灰白色・淡黄褐色を多量に含む。1mm 以下の黄色光沢色を少量含む。	1(2)	
782	晩期	浅鉢	胴部	E15 [S7]	ミガキ	ミガキ	3mm 以下の黄褐色色・暗赤褐色を含む。縦線は黒 色光沢・透明光沢を少量含む。	1(2)	
783	晩期	浅鉢	胴部	C23	ミガキ	ナデ	1mm 以下の黄褐色・黒褐色を含む。縦線は透明光 沢色を少量含む。	1(2)	リシ状突起
784	晩期	浅鉢	胴部	E21	ミガキ	ナデ	縦線は灰白色色を少量含む。	1(2)	
785	晩期	浅鉢	胴部	B24 [S17] + C25 [S15]	土線文、ミガキ	ミガキ	縦線は褐色色・淡黄褐色を含む。	1(2)	
786	晩期	浅鉢	胴部	L8	土線文、ミガキ	ミガキ	1mm 以下の黄褐色色を含む。縦線は黒色光沢・透明 光沢を少量含む。	1(2)	
787	晩期	浅鉢	胴部	G15	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の褐色色・縦線は透明光沢色を多量に含む。	1(2)	
788	晩期	浅鉢	胴部	C18	ミガキ	ミガキ	2mm 以下の灰白色・黄褐色・褐色色を含む。1mm 以下の透明光沢色を少量含む。	1(2)	
789	晩期	浅鉢	胴部	JA [SA13] + K10 [SA41]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の黄褐色色。縦線は透明光沢色を多量に含 む。	1(2)	
790	晩期	鉢	胴部	F 27 [S2012]	丁寧なナデ	丁寧なナデ	1mm 以下のにじみ黄褐色を多量に含む。縦線は黄褐 色・透明光沢色を少量含む。	1(2)	内外面とも黄褐色 顕著
791	晩期	浅鉢	胴部	H21 S18	ミガキ	ナデ	2mm 以下の褐色色・灰白色・黄褐色。1mm 以下 の透明光沢色を少量含む。	1(2)	赤化、外周面に黄褐 色
792	晩期	浅鉢	胴部	F20 [S24]	ナデ?	ミガキ	縦線は黄褐色・灰白色色・透明光沢色を少量含む。	1(2)	溝内 35.0cm、 内外高差深しい
793	晩期	浅鉢	胴部	B8 [S248]	ミガキ	ミガキ	1mm 以下の黄褐色色を少量含む。	1(2)	溝内径 4.0cm

観測 番号	時期	産種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
794	晩期	浅鉢	底部	B24 [S17]	ミガキ	ナデ	10mm 以下の黄灰色粒を少量含む。	Ⅰ節	直径 3.2cm
795	晩期	浅鉢	底部	G19 [S62]	ミガキ	ミガキ	40mm 以下の黒色粒、焼結した白色粒を少量含む。	Ⅰ節	直径 6.5cm
796	晩期	深鉢	底部	D18 [S33]	ミガキ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒、焼結した透明状光沢を多量に含む、黒色光沢粒を少量含む。	Ⅰ節	直径 5.6cm
797	晩期	浅鉢	底部	A4—一括	浅黄文、ミガキ	ナデ	焼結した白色粒を含む、焼結した透明状光沢を少量含む。	Ⅰ節	直径 3.9cm
798	晩期	浅鉢	底部	I19	ミガキ	ミガキ	焼結した透明状光沢を多量に含む、灰色粒、黒色粒、茶色粒を少量含む。	Ⅰ節	直径 3cm 外面黒化 内面黄灰色 内径約 5.5cm 内底約 4.5cm
799	晩期	浅鉢	底部	K9 [SC30]	胴部ミガキ、底面ナデ	ナデ	10mm 以下の黒灰色粒、にぶい黄褐色粒、焼結した透明状光沢を含む。	Ⅰ節	直径 3.5cm
800	晩期	浅鉢	底部	I 34	ミガキ	割落	焼結した黄褐色粒、褐色粒を少量含む。	Ⅰ節	内底約 4.5cm 内径約 4.5cm
801	晩期	浅鉢	底部	H20 [S19]	ミガキ	ナデ	20mm 以下の灰白色粒、褐色粒を少量含む。	Ⅰ節	外面赤色付着層有り
802	晩期	浅鉢	底部	E17 [S38]	ミガキ	ナデ	20mm 以下の灰白色粒、茶色粒、透明状光沢を少量含む。	Ⅰ節	
803	晩期	蓋	胴部	I19	染帯文、ミガキ	ナデ	焼結した褐色粒、深黄褐色粒、黒色光沢粒を含む。	Ⅰ節	
804	晩期	蓋	胴部下 ～胴部	F18 [S42]	染帯文、ミガキ	ナデ	10mm 以下の灰白色粒、褐色粒を含む。	Ⅱ節	内面黒化層しい
805	晩期	蓋	胴部	A5 [溝内一括]	ナデ	ナデ	10mm 以下の灰白色粒、にぶい褐色粒を多量に含む、焼結した透明状光沢を少量含む。	Ⅱ節	胴部が 内底約 4.5cm
806	晩期	蓋	胴部	A5—一括	ミガキ	ナデ	20mm 以下の灰白色粒、茶色粒を含む、5mm 程度の小石粒を少量含む。	Ⅱ節	外面黒化
807	晩期	蓋	胴部	I19	胴部ミガキ、底面ナデ	ミガキ	20mm 以下のにぶい黄褐色粒、茶色粒、焼結した透明状光沢を含む。	Ⅱ節	内面黒化層しい
808	晩期	鉢	鉢縁	A1 [溝内一括]	孔文、染帯	染帯	30mm 以下の透明褐色粒、褐色粒、10mm 以下の透明褐色粒を多量に含む。	Ⅲ節	口径 4.2cm 外面入付層
809	晩期	鉢	口縁部	L8 + L8 [SA45]	ナデ、凹線	染帯のちナデ	20mm 以下の深黄褐色粒、灰白色粒を多量に含む、4mm 以下のにぶい褐色粒、焼結した透明状光沢を少量含む。	Ⅲ節	口径 3.0cm
810	晩期	鉢	口～胴下	F18 [S41]	肥厚口縁部、丁寧なナデ	染帯のちナデ	20mm 以下の灰白色粒、深黄褐色粒を多量に含む、焼結した透明状光沢を少量含む。	Ⅲ節	外面入付層
811	晩期	鉢	胴部	G19 [S61]	染帯のちナデ	上部染帯のちナデ、以下へう状ナデ	20mm 以下の透明褐色粒、黒色粒を多量に含む、10mm 以下の灰白色粒を含む。	Ⅲ節	
812	晩期	鉢	胴部	F20	粗いナデ	染帯のちナデ	20mm 以下の灰白色粒、深黄褐色粒を多量に含む、20mm 以下の褐色粒を少量含む。	Ⅲ節	
813	晩期	鉢	口縁部	F20 [S24]	肥厚口縁部、口唇～口縁部ナデ、胴部編布庄	染帯	10mm 以下の深黄褐色粒を少量含む。	Ⅲ節	
814	晩期	浅鉢	口縁部	F20 [S24]	編布庄	ナデ	30mm 以下の灰白色粒を含む。	Ⅲ節	
815	晩期	鉢	胴部	H19	編布庄	丁寧なミガキ	20mm 以下の灰白色粒、深黄褐色粒を多量に含む。	Ⅲ節	内面入付層
816	晩期	鉢	胴部	I9 [SA40]	編布庄	ナデ	20mm 以下の小石を含む、焼結した黄褐色粒を含む。	Ⅲ節	内面入付層
817	晩期	鉢	胴部	L9+K9 [SH851]	上部ナデ、下部胴代庄	丁寧なナデ	10mm 以下の灰白色粒、褐色粒、20mm 以下の褐色粒、透明状光沢を少量含む。	Ⅲ節	口唇と同一 外面入付層 内径約 5.0cm
818	晩期	鉢	胴部	A1—一括	上部ナデ、下部胴代庄のちナデ	ナデ	30mm 以下の褐色粒、深黄褐色粒を少量含む。	Ⅲ節	口唇と同一 外面入付層 内径約 5.0cm
819	晩期	鉢	底部	I9 [SA39] + I9	編布 (胴代) 庄のちナデ	工具ナデ	1cm 以下の小石を含む、10mm 以下の灰色粒・暗褐色粒、灰白色粒を少量含む。	Ⅲ節	口径 3.0cm 外面入付層
820	晩期	鉢	底部	I18	貝殻染帯のち粗いミガキ	染帯のちミガキ	30mm 以下のにぶい黄褐色粒、褐色粒、褐色粒を多量に含む、20mm 以下の透明褐色粒、暗褐色粒を少量含む。	Ⅳ節	直径 15.0cm 外面入付層
821	晩期	鉢	底部	G18	粗いミガキ	ミガキ	10mm 以下の透明褐色粒を多量に含む、30mm 以下の褐色粒、にぶい黄褐色粒を少量含む。	Ⅳ節	直径 3.2cm
822	晩期	鉢	底部	F21	ナデ	ナデ	40mm 以下の深黄褐色粒、20mm 以下の褐色粒、深黄褐色粒、10mm 以下の透明褐色粒を少量含む。	Ⅳ節	外面入付層
823	晩期	鉢	底部	F20 [S23]	太い貝子、貝殻染帯のちナデ	染帯のちナデ	50mm 以下の黄褐色粒、20mm 以下の透明褐色粒、灰白色粒を含む、20mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。	Ⅳ節	内面黒化
824	晩期	深鉢	底部	K10 [SA32] + J10 [SA33]	ナデ	染帯	20mm 以下の黄褐色粒を多量に含む、10mm 以下の灰白色粒を少量含む。	Ⅳ節	
825	晩期	鉢	底部	J11+J10 [SA34]	染帯	染帯	30mm 以下の深黄褐色粒を含む、20mm 以下の灰白色粒を少量含む。	Ⅳ節	直径 18.0cm 外面入付層
826	晩期	鉢	底部	K10 [SA32]	胴部ナデ、底面胴代庄	ナデ	30mm 以下の黒色光沢粒、10mm 透明状光沢を含む、10mm 以下の透明褐色粒を少量含む。	Ⅳ節	直径 7.4cm、外面黒化層しい、内面黒化
827	晩期	鉢	底部	M5	染帯のちナデ	ナデ	10mm 以下の透明褐色粒、褐色粒を多量に含む、焼結した透明状光沢、黒色光沢粒を少量含む。	Ⅳ節	内面黒化層しい
828	晩期	鉢	底部	E17 [S8]	ナデ、染帯	染帯のちナデ	30mm 以下の灰白色粒、深黄褐色粒を多量に含む、20mm 以下の褐色粒を少量含む。	Ⅳ節	内面黒化、外面黒化
829	晩期	深鉢	口縁部	E14 [S5]	貝殻染帯のちナデ	貝殻染帯のちナデ	30mm 以下の透明褐色粒、褐色粒、20mm 以下の灰白色粒、10mm 以下の透明褐色粒を含む、褐色光沢粒を少量含む。	Ⅳ IA (B)	
830	晩期	深鉢	口縁部	A28	ナデ	ナデ	30mm 以下の透明褐色粒を多量に含む。	Ⅳ IA (B)	
831	晩期	深鉢	口縁部	I9 [SA40]	口唇部ミガキ、口縁部以下ナデ	ミガキ	40mm 以下のにぶい黄褐色粒、30mm 以下の黒色粒、20mm 以下の透明褐色粒を多量に含む。	Ⅳ IA (B)	
832	晩期	深鉢	口縁部	A23 [SA34]	ナデ	ナデ	10mm 以下の深黄褐色粒、灰色粒を含む、30mm 以下の黒色光沢粒、灰白色光沢粒を多量に含む。	Ⅳ IA (B)	口縁部
833	晩期	深鉢	口縁部	J10	口唇部ミガキ、口縁部以下ミガキ、ナデ	ミガキ	50mm 以下の深黄褐色粒、灰白色粒を多量に含む。	Ⅳ IA (B)	縁部、縁部孔
834	晩期	深鉢	口縁部	E18	遊戯童子土製に木漆用土、口唇部以下貝殻染帯のちナデ	貝殻染帯のちナデ	30mm 以下の深黄褐色粒、灰白色粒を多量に含む、透明状光沢を少量含む。	Ⅳ IA (B)	遊戯口縁
835	晩期	深鉢	口縁部	B24	口唇部ナデ、口縁部以下粗いミガキ	ナデ	20mm 以下のにぶい黄褐色粒、褐色粒を多量に含む。	Ⅳ IA (B)	外面黒化層有り
836	晩期	深鉢	口縁部	A1 [溝内一括]	染帯のちナデ	染帯のちナデ	20mm 以下の深黄褐色粒を多量に含む、4mm 程度の小石粒を少量含む。	Ⅳ IB (1)	遊戯口縁

観覧 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
837	晩期	深鉢	口縁部 F20 [S4]	条痕のちナデ	条痕のちナデ	6mm 以下の小点刻、2mm 以下の浅黒褐色粒を含む。	IV B①	渡辺川跡	
838	晩期	深鉢	口縁部 M6	口唇部ナデ、口縁部以下 目尻条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の黄褐色粒・灰白色粒、2mm 以下の黒色光沢 粒を少量含む。	IV B①		
839	晩期	深鉢	口縁部 K10	口唇部ナデ、条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰白色粒・緑褐色粒・褐色粒、5mm 以下の深い赤褐色粒を少量含む。	IV B①		
840	晩期	深鉢	口縁部 G20	口唇部ナデ、口縁部以下 条痕のちナデ	条痕のちナデ	5mm 以下の浅黒褐色粒を少量含む。褐色透明光沢 粒を少量含む。	IV B②		
841	晩期	深鉢	口縁部 A1 [溝内一法]	条痕	条痕	5mm 以下の灰白色粒・浅黒褐色粒を少量含む。	IV B②	口径 30.2cm	
842	晩期	深鉢	口縁部 H21	口唇部ナデ、口縁部以下 条痕	ミナギ	5mm 以下の黒褐色粒・灰白色粒、1mm 以下の浅黒色 粒を含む。褐色黒色光沢粒を少量含む。	IV B②		
843	晩期	深鉢	口縁部 K8 [SC85]	無刻目突刺、ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・褐色粒・黒褐色粒を少量含む。	IV 2A①		
844	晩期	深鉢	口縁部 48 [SC51]	無刻目突刺、粗いナデ	ナデ	3mm 以下の深い褐色粒、1mm 以下の黒褐色粒を多 量に含む。1mm 以下の赤褐色粒を少量含む。	IV 2A②	口径 34.5cm 線刻片 片断との位置 840 と同	
845	晩期	深鉢	口縁部 F22 胴部	無刻目突刺、粗いナデ	ナデ	1mm 以下の浅黒褐色粒・褐色粒を少量含む。	IV 2A②	口径 49.5cm 片断との位置 845 と同	
846	晩期	深鉢	胴部 F22	粗いナデ	ナデ	1mm 以下の浅黒褐色粒・褐色粒を少量含む。	IV 2A②		
847	晩期	深鉢	口縁部 K8 [SA36]	無刻目突刺、条痕のちナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅褐色粒・灰白色粒を少量含む。1mm 以下の黒色粒。褐色透明光沢粒を含む。	IV 2A②		
848	晩期	深鉢	口縁部 I10 [SC105]	無刻目突刺、ナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の白褐色・褐色色粒を少量含む。6mm 程度の 砂粒。褐色黒色光沢粒を少量含む。	IV 2A③	口径 23.6cm	
849	晩期	深鉢	口縁部 C21 [S2002]	口唇部ナデ、無刻目突刺、 肩条痕のちナデ、条痕 のちミナギキ	条痕のちミナギキ	1mm 以下の黄褐色粒・灰白色粒・浅黒褐色粒を少量含む。	IV 2A③	口径 20.0cm 片断との位置	
850	晩期	深鉢	口縁部 L9	無刻目突刺、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	5mm 以下の黄褐色粒、3mm 以下の灰白色粒・褐色粒 粒を少量含む。2mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	IV 2A④	内面化粧面らしい	
851	晩期	深鉢	口縁部 618 [P116] 胴部	無刻目突刺、ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の灰白色粒・浅黒褐色粒を少量含む。緑褐 色透明光沢粒を少量含む。	IV 2A④		
852	晩期	深鉢	口縁部 L6 [SA6]	浅黒褐色粒の突起、ナデ	ナデ	2mm 以下の黒色光沢粒を少量含む。1mm 以下の黒 色・灰白色粒・褐色粒を含む。	IV 2A④		
853	晩期	深鉢	口縁部 J15	無刻目突刺、ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・黄褐色粒・黒褐色粒を少量含む。 褐色黒色光沢粒・透明光沢粒を少量含む。	IV 2B①		
854	晩期	深鉢	口縁部 E24	無刻目突刺、ナデ	ナデ	3mm 以下の褐色粒、1mm 以下の灰白色粒・黄褐色 色粒を含む。	IV 2B①		
855	晩期	深鉢	口縁部 M5	無刻目突刺、ナデ	ナデ	3mm 以下の浅黒褐色粒を少量含む。1mm 以下の透 明光沢粒を少量含む。	IV 2B①	内面穴大付着	
856	晩期	深鉢	口縁部 K10 [SA32/SA41]	無刻目突刺、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	2mm 以下の深い褐色粒・褐色粒を少量含む。	IV 2B②	ヒレ状突起	
857	晩期	深鉢	口縁部 F19 [S40]	無刻目突刺、ナデ	ナデ	1mm 以下の細黒褐色粒を少量含む。1mm 以下の灰 白色粒・褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	IV 2B②		
858	晩期	深鉢	口縁部 99+19 [SA40] 粗いナデ	無刻目突刺、無刻目突刺、 粗いナデ	ナデ	2mm 以下の褐色粒・黄褐色粒を少量含む。	IV 2B③	口縁部穴大付着 跡が深い	
859	晩期	深鉢	口縁部 D18 [S14] 口唇部以下条痕	肥厚口唇部、口唇部ナデ、 口唇部以下条痕	ナデ	3mm 以下の褐色粒・灰白色粒・灰白色粒を少量含む。	IV 2B④		
860	晩期	深鉢	口縁部 C23+C23 [S170]	無刻目突刺、ナデ	ナデ	3mm 以下の灰白色粒・灰褐色粒を少量含む。	IV 2B④		
861	晩期	深鉢	口縁部 L5 [SH107]	無刻目突刺、ナデ	ナデ	1mm 以下の浅褐色粒・褐色光沢粒・透明光沢粒を多 量に含む。	IV 2B④		
862	晩期	深鉢	口縁部 D18	無刻目突刺、ナデ	ナデ	3mm 以下の黒褐色粒・褐色粒・灰白色粒を含む。	IV 2B④	ヒレ状突起 内面穴大付着	
863	晩期	深鉢	口縁部 18 SC244	無刻目突刺、粗いナデ	ナデ	5mm 以下の褐色粒・灰白色粒を少量含む。3mm 以下の赤褐色粒、2mm 以下の透明光沢粒・黒色光沢粒 を少量含む。	IV 2B④	内面穴大付着	
864	晩期	深鉢	口縁部 K8 [SA35]	無刻目突刺、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	3mm 以下の浅黒褐色粒・灰白色粒を少量含む。1mm 以下の透明光沢粒を少量含む。	IV 2B⑤	渡辺川跡の可能性	
865	晩期	深鉢	口縁部 C21 [S2002]	無刻目突刺、ナデ、条痕 のちナデ	ナデ	1mm 以下の黄褐色粒・褐色粒を少量含む。黒色光 沢粒を少量含む。	IV 2B⑤		
866	晩期	深鉢	口縁部 E21	無刻目突刺、口唇部ナデ、 口縁部以下粗いナデ	条痕のちナデ	1mm 以下の深い褐色粒・透明光沢粒を少量含む。	IV 2B⑤	ヒレ状突起	
867	晩期	深鉢	口縁部 FH15 [S49]	孔列文、条痕のちナデ	ミナギキ	2mm 以下の浅褐色粒・灰白色粒を少量含む。	IV 3A⑥	肩化粧面	
868	晩期	深鉢	口縁部 A1 [溝内一法]	孔列文、口唇部ミナギキ、 口縁部以下ナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の浅褐色粒・灰白色粒を少量含む。	IV 3A⑦		
869	晩期	深鉢	口縁部 A1 [溝内一法]	孔列文、ナデ	ナデ	3mm 以下の明褐色粒を少量含む。2mm 以下の灰黒 色粒を少量含む。	IV 3A⑧		
870	晩期	深鉢	口縁部 E19 [S31]	孔列文、ナデ	ナデ	2mm 以下の明褐色粒・黄褐色粒を少量含む。2mm 以下の灰白色粒を含む。	IV 3A⑧		
871	晩期	深鉢	口縁部 AS [溝内一法]	孔列文、ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅褐色粒・灰白色粒を少量含む。1mm 以下の赤褐色粒。褐色黒色透明光沢粒を少量含む。	IV 3A⑨		
872	晩期	深鉢	口縁部 09	孔列文、ナデ、条痕	条痕のちナデ	1mm 以下の明褐色粒を少量含む。	IV 3A⑨		
873	晩期	深鉢	口縁部 D25	孔列文、条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰褐色粒・黄褐色粒を少量含む。	IV 3A⑩		
874	晩期	深鉢	口縁部 ア 28	浅黒褐色粒の突起、条痕 のちナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の白褐色粒を少量含む。2mm 以下の黄褐色 粒を含む。	IV 3B①		
875	晩期	深鉢	口縁部 K4 [腹丸] 口縁部以下段条痕のちナデ	孔列文、口唇部ナデ、口 縁部以下段条痕のちナデ	ナデ	2mm 以下の灰白色粒を少量含む。褐色透明光沢粒 を少量含む。	IV 3B①	渡辺川跡	
876	晩期	深鉢	口縁部 J10	孔列文、ナデ、条痕のち ナデ	条痕のちナデ	2mm 以下の浅黒褐色粒を少量含む。	IV 3B①		
877	晩期	深鉢	口縁部 H11	浅黒褐色粒の突起、粗いナ デ	条痕のちナデ	2mm 以下の黄褐色粒を少量含む。	IV 3B②	内面穴大付着	
878	晩期	深鉢	口縁部 G19 +E17 [S38]	孔列文、口唇部ミナギキ、 口縁部以下条痕	条痕	1mm 以下の白褐色粒を少量含む。3mm 以下の黄褐色 粒を含む。	IV 3B②		
879	晩期	深鉢	口縁部 E21	孔列文、条痕のちナデ	条痕のちナデ	4mm 以下の明褐色粒・黄褐色粒を少量含む。	IV 3B④		

観覧 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
880	晩期	深鉢	口縁部 F18 [S43]		浅い乳列文、ナデ	ナデ	1mm以下の明黄色粒を多量に含み、4mm程度の小白色粒を少量含む。	IV 3B ④	南北朝
881	晩期	深鉢	口縁部 F10		乳列文、ナデ	ナデ	5mm以下の暗灰色粒、3mm以下の灰黄色粒、褐色粒を多量に含む。	IV 3B ⑤	
882	晩期	深鉢	口縁部 A5 [溝内一旗]		乳列文、ナデ	ナデ	1mm以下の薄黄色粒を少量含む。	IV 3B ④	
883	晩期	鉢	口縁部 P 26		無刻目突櫛、乳列文、条道のちナデ	条道のちナデ	2mm以下の黄褐色・黒褐色粒、1mm以下の乳白色・灰色粒を含む。	IV 4A ④	外堀大入付櫛
884	晩期	深鉢	口縁部 E18		無刻目突櫛、乳列文、ナデ、条道のちナデ	条道のちナデ	3mm以下の灰白色粒・浅黄褐色粒・褐色粒を含む。	IV 4A ⑤	
885	晩期	深鉢	口縁部 F19 [S39]		無刻目突櫛、竹管による乳列文、ナデ、櫛文櫛文、条道のちナデ	ナデ、条道のちナデ	3mm以下の薄褐色粒・乳白色粒を多量に含む。	IV 4A ⑤	
886	晩期	深鉢	口縁部 C2 [S152]		無刻目突櫛、乳列文、ナデ	ナデ	2mm以下の赤褐色粒・1mm以下の褐色灰色を多量に含む。	IV 4A ⑤	口縁 11.3cm 外堀大入付櫛
887	晩期	鉢	口縁部 H21		無刻目突櫛、竹管による乳列文、貝殻条道のちナデ	条道のちナデ	2mm以下の黄褐色粒を多量に含む。	IV 4A ⑤	
888	晩期	深鉢	口縁部 F18 [S43]		無刻目突櫛上に竹管による乳列文、ナデ	ナデ	3mm以下の褐色粒・褐色色粒・灰色粒を含む。	IV 4B ①	
889	晩期	深鉢	口縁部 T19		厚層帯 [無刻目突櫛] 上に印櫛、乳列文、ナデ、条道のちナデ	ナデ	5mm以下の暗褐色粒、3mm以下の薄黄褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 4B ①	
890	晩期	深鉢	口縁部 G18		無刻目突櫛、乳列文、ナデ	ナデ	3mm以下の薄褐色粒・灰白色粒・黄褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 4B ①	
891	晩期	深鉢	口縁部 19		無刻目突櫛、乳列文、ナデ	ナデ	5mm以下の灰白色の小白粒を含み、1mm以下の黄褐色粒を含む。	IV 4B ①	内堀墓之ニ属スル類
892	晩期	深鉢	口縁部 T11		無刻目突櫛、乳列文、条道のちナデ	ナデ	3mm以下の褐色粒・褐色灰色・乳白色粒を多量に含む。	IV 4B ①	
893	晩期	深鉢	口縁部 T10		無刻目突櫛、乳列文、条道のちナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒・赤褐色粒を少量含む。	IV 4B ①	
894	晩期	深鉢	口縁部 B30 [S803]		無刻目突櫛、乳列文、条道のちナデ	条道のちナデ	4mm以下の灰色粒・褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	外堀大入付櫛
895	晩期	深鉢	口縁部 F16 [S81]		厚層帯 [無刻目突櫛] 上に印櫛、乳列文、ナデ	ナデ	4mm以下の薄褐色粒、2mm以下の褐色粒・褐色色・灰色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 4B ②	
896	晩期	深鉢	口縁部 G20		無刻目突櫛、乳列文、口縁部ミナナ、口縁部以下条道のちナデ	ナデ	1mm以下の灰白色粒・黄褐色粒・黄褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	内堀墓群
897	晩期	深鉢	口縁部 F19 [P120]		無刻目突櫛、乳列文、ナデ	太い単位の子ナデ	2mm以下の赤褐色・黄褐色を多量に含み、2mm以下の明黄色粒を含む。	IV 4B ②	
898	晩期	深鉢	口縁部 H19		無刻目突櫛、乳列文、ナデ、条道のちナデ	条道のちナデ	2mm以下の暗褐色粒・黄褐色粒を多量に含み、4mm以下の明黄色粒を含む。	IV 4B ②	
899	晩期	深鉢	口縁部 J10 [SA33]		厚層帯 [無刻目突櫛]、乳列文、ナデ、条道のちナデ	条道のちナデ	4mm以下の暗褐色粒・乳白色粒・褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	刻線が深い
900	晩期	深鉢	口縁部 J10a-D18 [S33]		無刻目突櫛、乳列文、ナデ、条道のちナデ	条道のちナデ	2mm以下の灰白色粒・褐色粒・褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	
901	晩期	深鉢	口縁部 B27 [S18]		無刻目突櫛、乳列文、ナデ、貝殻条道のちナデ	条道のちナデ	2mm以下の薄黄褐色を多量に含み、3mm以下の黄褐色粒・明褐色粒を含む。	IV 4B ②	
902	晩期	深鉢	口縁部 G18 [S60]		無刻目突櫛、乳列文、条道のちナデ	条道のちナデ	2mm以下の薄黄褐色粒を多量に含み、3mm以下の暗灰色粒・赤褐色粒・褐色粒を少量含む。	IV 4B ②	
903	晩期	深鉢	口縁部 A1 [溝内一旗]		無刻目突櫛、乳列文、ナデ	条道のちナデ	2mm以下の灰白色粒を多量に含み、1mm以下の褐色灰色粒を少量含む。	IV 4B ②	904と同一方
904	晩期	深鉢	口縁部 H2		無刻目突櫛、乳列文、ナデ	条道のちナデ	1mm以下の灰白色粒・褐色灰色を多量に含む。	IV 4B ②	903と同一方
905	晩期	深鉢	口縁部 M3 [SA118]		無刻目突櫛、貝殻条道のちナデ	ナデ	1mm以下の赤褐色粒・黄褐色粒・褐色粒・透明光沢粒・黄褐色光沢粒を含む。	IV 4B ②	内堀大入付櫛
906	晩期	深鉢	口縁部 K6 [復乱]		無刻目突櫛、条道のちナデ	ナデ	1mm以下の赤褐色・黄褐色粒・黄褐色光沢粒を多量に含む。	IV 4B ②	
907	晩期	深鉢	口縁部 H19		注線文、貝殻条道のちナデ	条道のちナデ	3mm以下の明褐色粒、2mm以下の灰白色粒を多量に含み、2mm以下の褐色粒・黄褐色粒を含む。	IV 4B ②	
908	晩期	深鉢	口縁部 E15 [S7 + S228]		貝殻条道のちナデ	条道のちナデ	1mm以下の赤褐色・褐色粒を多量に含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	IV 4B ②	
909	晩期	深鉢	口縁部 G16a+H18		無刻目突櫛、条道のちナデ	条道のちナデ	4mm以下の薄黄褐色・褐色粒・灰色粒を多量に含む。	IV 4B ②	
910	晩期	深鉢	口縁部 K6+K8 [復乱]		無刻目突櫛、条道のちナデ	条道のちナデ	3mm以下の灰褐色粒、1mm以下の灰白色粒・明黄褐色粒を含む。	IV 4B ②	外堀大入付櫛
911	晩期	深鉢	口縁部 J11		ナデ	ナデ	3mm以下の薄黄褐色粒を多量に含み、1mm以下の灰白色粒・灰褐色粒を少量含む。	IV 4B ②	
912	晩期	深鉢	口縁部 E19 [S34]		粗いナデ	ナデ	2mm以下の黄褐色粒・黄褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	
913	晩期	深鉢	口縁部 C2 [S152]		ナデ	ナデ	5mm以下の灰黄色粒、2mm以下の黄褐色粒を多量に含む。	IV 4B ②	内堀民化付櫛
914	晩期	深鉢	口縁部 C22 [S152]		条道のちナデ	ナデ	3mm以下の暗褐色粒・多褐色粒・赤褐色粒・黄褐色色を含み、2mm以下の黄褐色光沢粒を少量含む。	IV 4B ②	
915	晩期	深鉢	口縁部 H21S118		粗いナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・黄褐色粒を多量に含み、2mm以下の褐色粒を少量含む。	IV 4B ②	外堀墓底、内堀墓群
916	晩期	鉢	口縁部 A5 [S7]		刻目突櫛 [貝殻]、貝殻条道のちナデ	条道のちナデ	1mm以下の灰白色粒・浅黄褐色粒を多量に含む。微細な黄褐色・透明光沢粒を少量含む。	V 7 ①	口縁 17.6cm、 外堀、内堀大入付櫛
917	晩期	鉢	口縁部 D19 [S7]		刻目突櫛 [工具]、ナデ	ナデ	4mm以下の暗褐色粒を多量に含み、1mm以下の黄褐色・白褐色を少量含む。	V 7 ①	
918	晩期	鉢	口縁部 H19 [P105]		刻目突櫛 [指頭]、乳列文、ナデ	工具によるナデ り風ナデ	2mm以下の薄黄褐色・褐色粒・褐色粒を多量に含む。	V 8 ②	外堀墓底
919	晩期	鉢	口縁部 F19 [S40]		刻目突櫛 [貝殻]、乳列文、ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄褐色粒・灰褐色粒・明黄褐色色を含み、微細な透明光沢粒を少量含む。	V 8 ②	内堀墓底
920	晩期	鉢	口縁部 F20 [S4]		刻目突櫛 [指頭]、乳列文、貝殻条道のちナデ	ナデ	3mm以下の黄褐色粒を多量に含む。3mm以下の灰白色粒を少量含む。	V 8 ②	外堀一旗墓底
921	晩期	鉢	口縁部 A5 [S7]		刻目突櫛 [指頭]、ナデ、条道のちナデ	条道のちナデ	3mm以下の灰白色粒・黄褐色粒・褐色粒、1mm以下の白褐色・褐色粒を多量に含む。	V 7 ②	外堀墓底
922	晩期	鉢	口縁部 G20		口縁部ミナナに刻目突櫛 [指頭]、乳列文、ナデ	ナデ	2mm以下の灰白色粒・浅黄褐色粒・褐色色・褐色色を多量に含み、1mm以下の黄褐色光沢粒を少量含む。	V 8 ②	口縁 11.4cm、 外堀大入付櫛

機軸 番号	時期	器種	部位	出土 地点	調整、文様		胎土	分類	備考
					外面	内面			
923	晩期	鉢	口縁部	G20 [S22]	刻目突帯 (指節)、乳列文、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰色色粒・茶褐色粒、稀散な透明乳光粒、黒色光沢粒を少量含む。	V 8 ④	外皿黒変
924	晩期	鉢	口縁部	F16 [S81]	刻目突帯 (指節)、乳列文、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰色色粒・黒褐色粒・黒褐色粒・黒褐色粒を少量含む。	V 8 ④	外皿大欠片層
925	晩期	鉢	口縁部	F18	刻目突帯 (指節)、凸唇部 ミ方キ、口縁部以下ナデ	ミ方キ	1mm 以下の灰色色粒・茶褐色粒を少量含む。2mm 以下の浅黒褐色粒、4mm 以下の砂粒を少量含む。	V 7 ③	内皿黒変
926	晩期	鉢	口縁部	A23 [S2010]	刻目突帯 (指節)、乳列文、ナデ	ナデ	2mm 以下の透明茶褐色粒・灰色色粒を少量含む。1mm 以下の茶褐色光沢粒を少量含む。	V 8 ③	内皿黒変 外皿黒変
927	晩期	鉢	口縁部	112 [S109]	刻目突帯 (工具 U)、乳列文、ナデ	貝殻茶褐色のちナデ	2mm 以下の褐色色粒・茶褐色色粒、灰色色粒を少量含む。	V 8 ③	外皿大欠片層
928	晩期	鉢	口縁部	A 29	刻目突帯 (工具 V)、ナデ	貝殻茶褐色のちナデ	3mm 以下の褐色色粒、2mm 以下の灰色色粒を含む。	V 7 ③	内皿・外皿大欠片層
929	晩期	鉢	口縁部	H19	刻目突帯 (工具先端押注)、乳列文、ナデ、条痕のちナデ	貝殻茶褐色	3mm 以下の灰色色粒を少量含む。	V 8 ③	外皿大欠片層 内皿黒変
930	晩期	鉢	口縁部	F19 [S40]	条痕部に工具による押注。刻目突帯 (指節)、ナデ	ナデ	1mm 以下の灰褐色粒・黄褐色粒を少量含む。1mm 以下の灰色色粒を少量含む。	V 7 ④	涙口縁 外皿の焼付層付着
931	晩期	鉢	口縁部	F18 [S41]	刻目突帯 (指節)、乳列文、ナデ	ナデ	2mm 以下の灰色色粒・黄褐色粒を含む。1mm 以下の透明乳光粒、5mm 以下の灰色色粒を少量含む。	V 8 ④	涙状茶褐色
932	晩期	鉢	口縁部	G15	刻目突帯 (工具 U)、縮注 横文、ナデ	貝殻茶褐色のちナデ	3mm 以下の灰色色粒を少量含む。1mm 以下の褐色色粒、透明乳光粒を少量含む。	V 7 ②	933 と同一 口径 96.2cm、 内皿・外皿大欠片層
933	晩期	鉢	口縁部	G15	刻目突帯 (工具 U)、縮注 横文、ナデ	貝殻茶褐色のちナデ	4mm 以下の薄層茶褐色を少量含む。2mm 以下の灰褐色粒・茶褐色色粒を少量含む。	V 7 ②	932 と同一 口径 96.2cm、 内皿・外皿大欠片層
934	晩期	鉢	胴部	F20	貝殻茶褐色のちナデ	貝殻茶褐色のちナデ	3mm 以下の浅黒褐色粒を少量含む。2mm 以下の褐色色粒を少量含む。	V 7 ②	932・933 と同一 口径 96.2cm、 内皿・外皿大欠片層
935	晩期	鉢	胴部	K7 [SA11]	刻目突帯 (貝殻)、ナデ、 貝殻茶褐色のちナデ	ナデ	3mm 以下の灰色色粒・黄褐色粒・茶褐色色粒を少量含む。	V 8	内皿黒変
936	晩期	鉢	胴部	F20 [S24]	刻目突帯 (貝殻)、貝殻茶褐色のちナデ	貝殻茶褐色のちナデ	2mm 以下の茶褐色粒・灰色色粒を少量含む。1mm 以下の灰色色粒を少量含む。	V 8	外皿大欠片層
937	晩期	鉢	胴部	F16 [S81]	刻目突帯 (工具 U)、条痕のちナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰色色粒・茶褐色粒を少量含む。4mm 以下の非透明色粒を少量含む。	V 8	大欠片層
938	晩期	鉢	胴部	F19 [S41]	刻目突帯 (指節)、貝殻茶褐色のちナデ	ナデ	3mm 以下の灰色色粒・黄褐色色粒を少量含む。稀散な透明乳光粒を少量含む。	V 8	内皿未付着
939	晩期	鉢	胴部	之 31 [S3001]	刻目突帯 (工具)、貝殻茶褐色のちナデ	貝殻茶褐色のちナデ	2mm 以下の透明茶褐色・褐色粒を含む。1mm 以下の半透明粒を少量含む。	V 8	内皿一部黒変
940	晩期	深鉢	底部	M5 [SA3]	ナデ	ナデ	1mm 以下の茶褐色色粒・灰色色粒を少量含む。	ME1	口径 8.6cm
941	晩期	深鉢	底部	D18 [S73]	工具ナデ、ナデ	ナデ、貝殻茶褐色のちナデ	1mm 以下の褐色色粒を少量含む。1mm 以下の灰色色粒・茶褐色色粒を少量含む。	ME1	口径 8.6cm
942	晩期	深鉢	底部	H18	ナデ、条痕	ナデ	3mm 以下の灰色色粒を少量含む。3mm 非透明色粒、稀散な透明乳光粒を少量含む。	ME1	口径 11.2cm
943	晩期	深鉢	底部	110 [SA23]	ナデ、底面ナデ、指節痕	ナデ	2mm 以下の褐色色粒・褐色色粒、茶褐色色粒を少量含む。5mm 以下の砂粒を含む。	ME1	口径 9.1cm 内皿黒変
944	晩期	深鉢・鉢蓋部	底面	E18	ナデ	工具ナデ、ナデ	1mm 以下の灰色色粒・茶褐色粒・乳白色粒を少量含む。	ME1	口径 8.4cm
945	晩期	深鉢	底部	M5	粗いナデ	粗いナデ	3mm 以下の褐色色粒・灰色色粒・茶褐色色粒を少量含む。2mm 茶褐色色粒を少量含む。	ME1	口径 8.4cm
946	晩期	深鉢	底部	G18 [S60]	ナデ	ナデ	5mm 以下の透明茶褐色粒・暗褐色色粒を含む。1mm 以下の灰色色粒を少量含む。	ME1	
947	晩期	深鉢	底部	K8 [SA35]	粗いナデ	ナデ	3mm 以下の茶褐色色粒・灰色色粒・茶褐色色粒を少量含む。1mm 透明乳光粒を少量含む。	ME1	口径 7.6cm 底心・側溝浅い
948	晩期	深鉢・鉢蓋部	底面	D18 [S9]	ミ方キ、ナデ	ナデ	1mm 以下の茶褐色粒・暗褐色色粒・灰色色粒を少量含む。5mm の乳白色色粒を少量含む。	ME1	口径 9.1cm 内皿黒変
949	晩期	深鉢	底部	E21	工具ナデ、条痕、丁寧なナデ	ナデ	3mm 以下の灰色色粒・白色色粒を少量含む。稀散な茶褐色色粒を少量含む。	ME1	口径 9.4cm
950	晩期	深鉢	底部	117 [S555]	条痕、ナデ	条痕のちナデ	3mm 以下の灰色色粒・白色色粒・浅黒褐色色粒を少量含む。4mm 以下の砂粒を少量含む。	ME1	口径 9.1cm
951	晩期	深鉢	底部	H20 [S19]	条痕のちナデ	ナデ	2mm 以下の灰色色粒・灰色色粒・茶褐色色粒を少量含む。	ME1	口径 7.8cm
952	晩期	深鉢	底部	F18 [S42]	条痕のちナデ、 底面近代付着	工具ナデ	3mm 以下の灰色色粒・白色色粒を少量含む。1.5mm 以下の乳白色色粒・褐色色粒を含む。	ME1	口径 11.2cm
953	晩期	深鉢	底部	A23 [S2010]	条痕のちナデ、ナデ、 底面近代付着	ナデ	2mm 以下の乳白色色粒、稀散な透明乳光粒・茶褐色色粒を含む。	ME1	口径 9cm
954	晩期	深鉢	底部	D26	粗いナデ、底面ナデ	貝殻茶褐色のちナデ、ナデ	3mm 以下の茶褐色色粒・灰色色粒・茶褐色色粒を含む。	ME1	口径 8.4cm
955	晩期	深鉢	底部	A24 [S2172]	ナデ	ナデ	3mm 以下の褐色色粒・茶褐色色粒を含む。稀散な茶褐色色光沢粒を少量含む。	ME1	口径 7.2cm
956	晩期	深鉢	底部	A30	工具ナデ、底面粗いナデ	粗いナデ	3mm 以下の茶褐色色粒・茶褐色色粒を少量含む。2mm 以下の浅黒褐色色粒を少量含む。	ME1	
957	晩期	深鉢	底部	J10	条痕、ナデ	貝殻茶褐色のちナデ、ナデ	2mm 以下の灰色色粒・暗褐色色粒・茶褐色色粒を少量含む。	ME1	口径 9.9cm 内皿大欠片層
958	晩期	深鉢	底部	A1 一筋	工具ナデ、ナデ	ナデ	3mm 以下の茶褐色色粒、2mm 以下の浅黒褐色色粒を含む。	ME1	口径 9.6cm 内皿黒変
959	晩期	深鉢	底部	D18 [S9] + E16 [S348]	ナデ、底面近代付着	ナデ	3mm 以下の褐色色粒・白色色粒を少量含む。1mm 以下の灰色色粒を少量含む。	ME1	口径 9.5cm 内皿黒変
960	晩期	深鉢	底部	A5 一筋	ナデ、底面近代付着か?	条痕のちナデ、ナデ	2mm 以下の乳白色色粒・灰色色粒、1mm 以下の褐色色粒を少量含む。	ME1	口径 7.9cm 内皿黒変付着 外皿黒変
961	晩期	深鉢	底部	D18 [S9]	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰色色粒を少量含む。2mm 以下の透明茶褐色色粒、1mm 以下の透明乳光粒を少量含む。	ME1	口径 9.0cm 内皿黒変浅い
962	晩期	深鉢	胴部	A1 上溝一筋	ナデ	ナデ	3mm 以下の灰色色粒を少量含む。2mm 以下の褐色色粒を少量含む。	ME1	



1A1 北西端断面



2A1 北西断面



3A2 3区断面



6A3 441グリッドトレンチ北部土層堆積



4A3 2区断面(南北)



7A3 441グリッドトレンチ中央部土層堆積

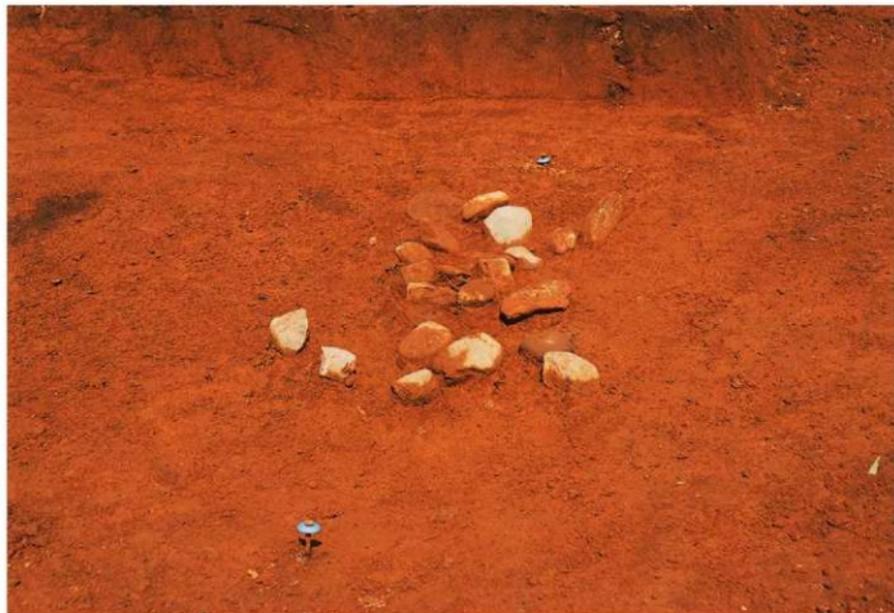


5A3 水性堆積を見せるAT



8A3 441グリッドトレンチ南部土層堆積

各調査区の土層堆積状況



LA3 S124 横出 (前から)

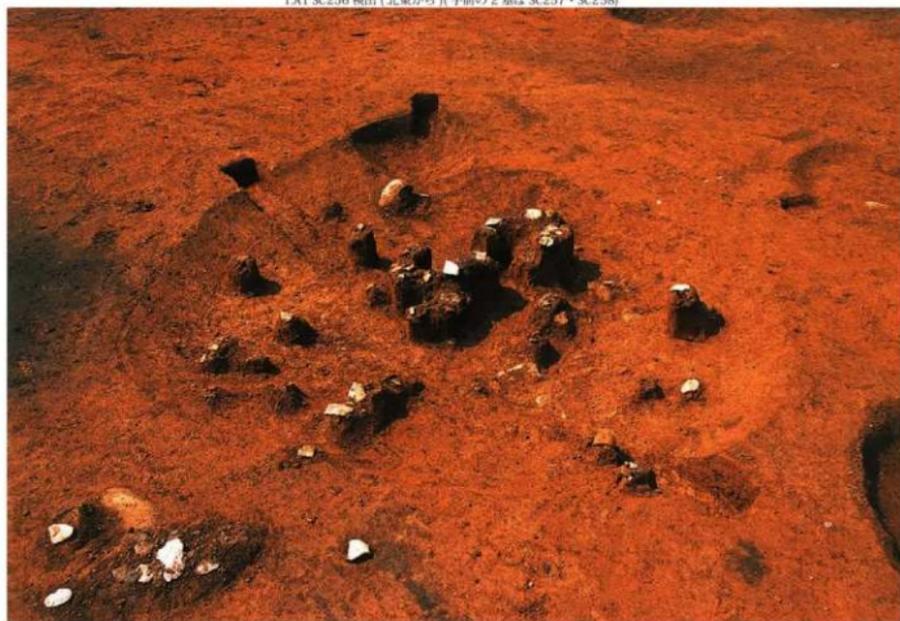


LA3 S124 完掘 (北から)

旧石器時代礫群



1A1 SC256 検出 (北東から) [手前の2基は SC257・SC258]



2A1 SC256 遺物出土 (東から)

縄文時代草創期 竪穴状遺構



1A3 散石① (東から)



2A3 散石② (南から)  
縄文時代早期 集石遺構 (1)



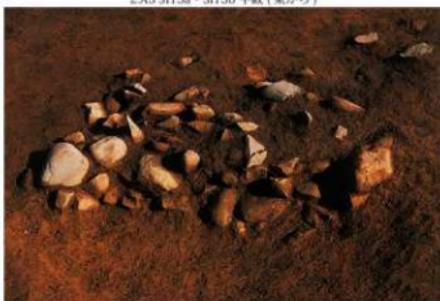
1.A3 SI13a・SI13b 検出 (南西から)



2.A3 SI13a・SI13b 平載 (東から)



3.A3 SI15 検出 (南西から)



4.A3 SI15 平載 (南西から)



5.A3 SI12 検出 (南東から)



6.A3 SI12 平載 (南東から)



7.A3 SI13 検出 (東から)



8.A3 SI13 平載 (東から)



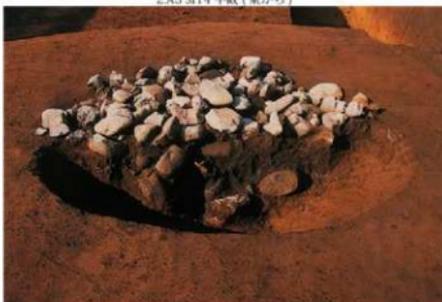
1A3 SI14 検出 (東から)



2A3 SI14 平載 (東から)



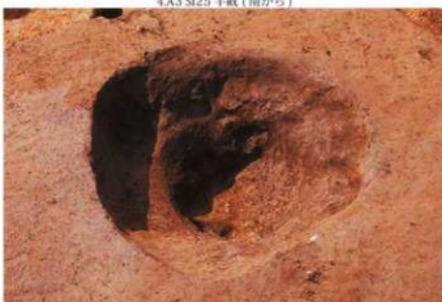
3A3 SI25 検出 (北から)



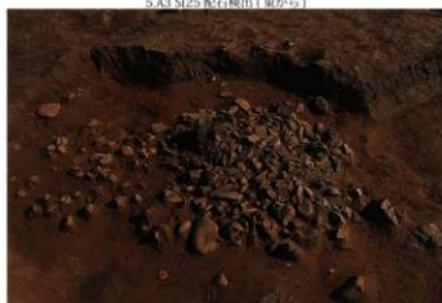
4A3 SI25 平載 (南から)



5A3 SI25 水石検出 (東から)



6A3 SI25 完掘 (東から)



7A3 SI150 検出 (西から)



8A3 SI150 完掘 (南から)



1A3 SI123・SI124 検出 (東から)



2A3 SI23 検出 (北から)



3A3 SI123 平載 (南から)



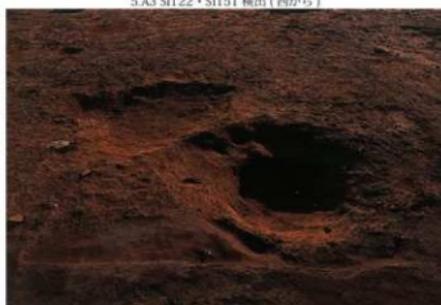
4A3 SI123 平載 (南から)



5A3 SI122・SI151 検出 (西から)



6A3 SI122 平載 (西から)



7A3 SI122・SI151 完掘 (北から)

縄文時代早期 集石遺構 (4)



1. 密集する集石遺構群 (A3 SI138～SI141・SI148・東から)



2.A3 SI138 検出 (東から)



3.A3 SI139～SI141 検出 (東から)



4.A3 SI138～SI140 半截 (西から)



5.A3 SI138～SI141・SI148 完截 (西から)

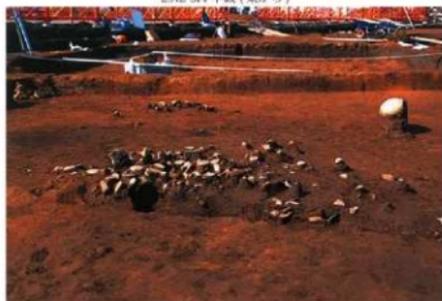
縄文時代早期 集石遺構 (5)



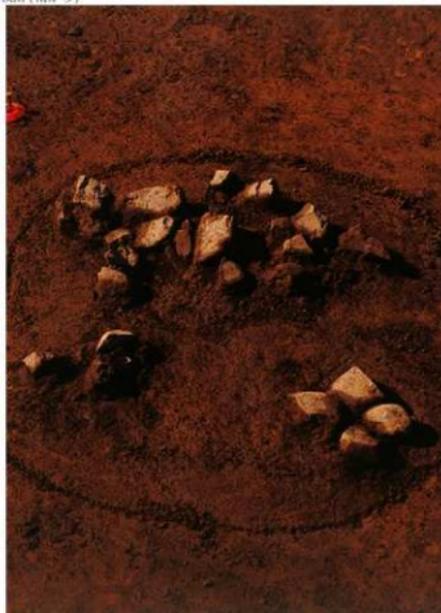
1A2 SI4・SI5 検出 (南から)



2A2 SI4 平截 (東から)



3A2 SI5 平截 (東から)



4A2 SI6 検出 (南から)

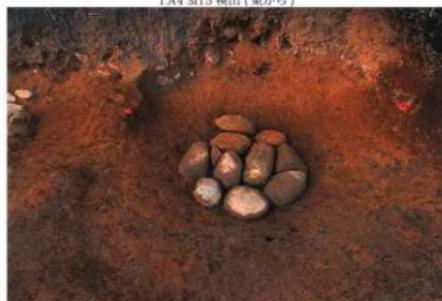
縄文時代早期 集石遺構 (6)



1A4 SI15 検出 (東から)



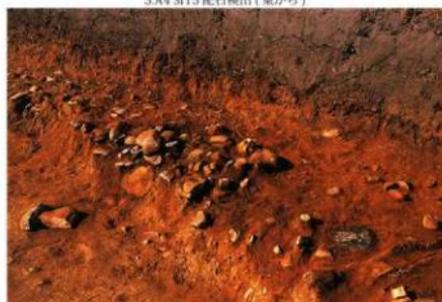
2A4 SI15 平截 (東から)



3A4 SI15 配石検出 (東から)



4A4 SI15 完掘 (東から)



5A4 SI2 検出 (西から)



6A4 SI2 平截 (東から)



7A4 SI11 検出 (北から)



8A4 SI11 平截 (北から)

縄文時代早期 集石遺構 (7)



1. A4 S16 ~ S18 横出 (北から)



2. A4 S16・S17 平截 (東から)

縄文時代早期 集石遺構 (8)



1A4 S18・S19 平葺 (南から)



2A4 S18・S19 完葺 (南から)



3A4 S12 横出 (東から)



4A4 S12 平葺 (東から)



5A4 S20 横出 (南から)



6A4 S20 平葺 (南から)



7A4 S20 完葺 (南から)



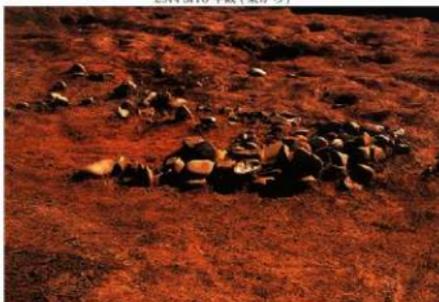
1A4 SI10 検出 (南から)



2A4 SI10 半截 (東から)



3A4 SI9 検出 (東から)



4A4 SI9 半截 (西から)



5A4 SI16・SI17 検出 (南から)



6A4 SI16・SI17 半截 (西から)



7A5 SI32 半截



1A5 SI31 + SI32 検出



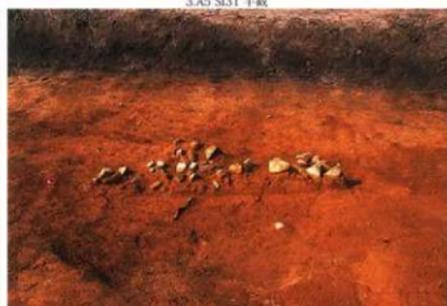
2A5 SI31 検出



3A5 SI31 平截



4A5 SI31 完掘



5A5 SI4 平截

縄文時代早期 集石遺構 (11)



1.A5 SI6・SI22 横出



2.A5 SI22 横出



3.A5 SI29 横出



4.A5 SI17 半截

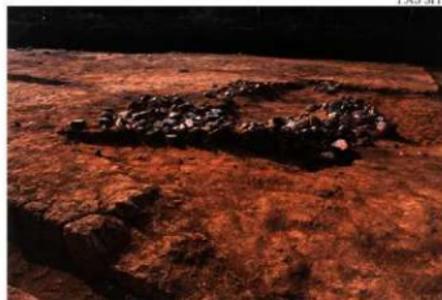


5.A5 SI17 完版

縄文時代早期 集石遺構 (12)



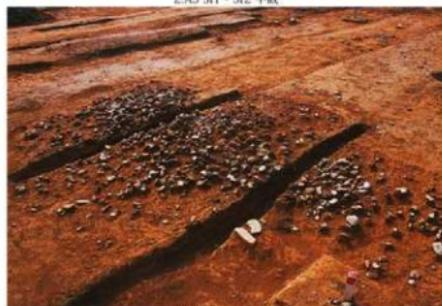
1A5 SI1 ~ SI3 横出



2A5 SI1・SI2 平截



3A5 SI3 平截



4A5 SI27・SI28 横出



5A5 SI27 平截

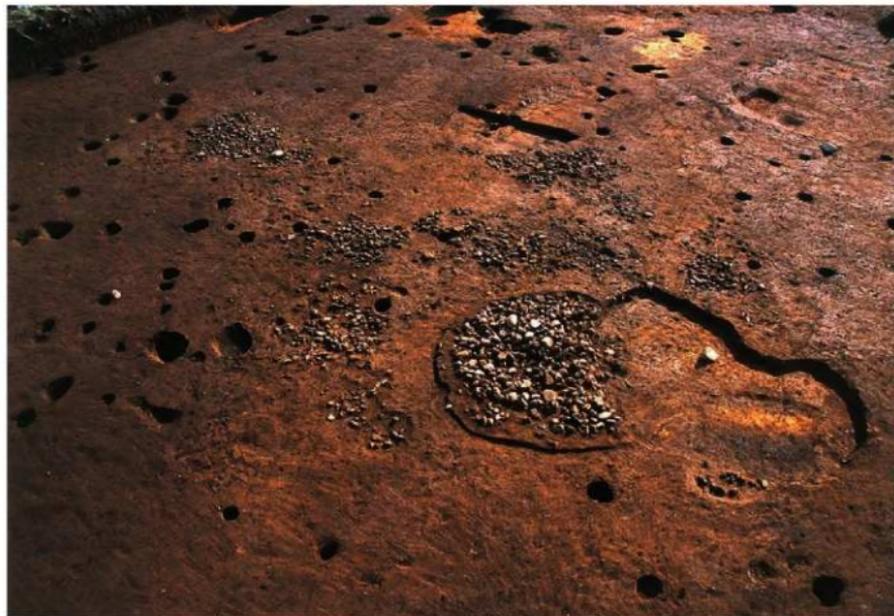


1A1 散石① (北から)

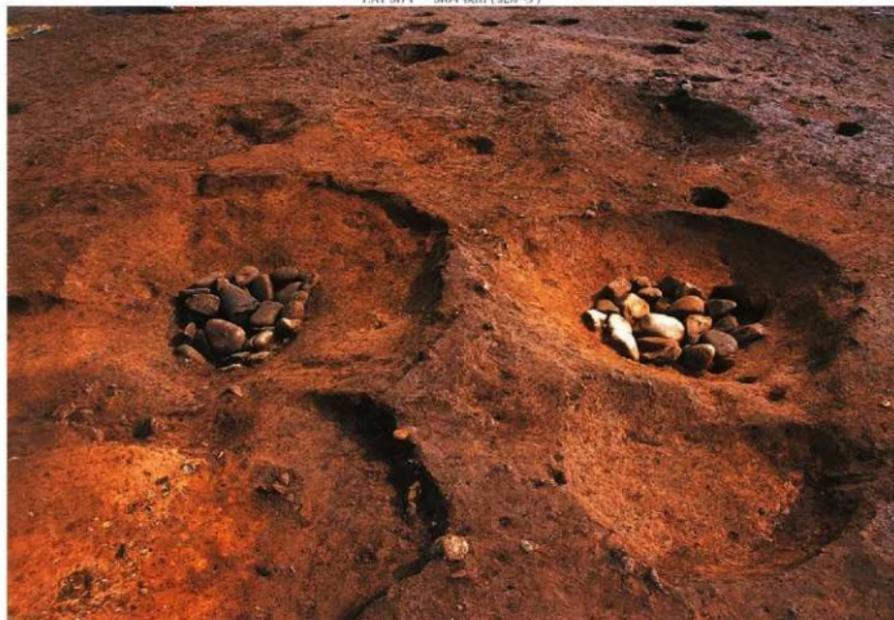


2A1 散石② (西から)

縄文時代早期 集石遺構 (14)



1.A1 SI71～SI84 検出 (北から)



2.A1 SI76・SI84 配石検出 (西から)

縄文時代早期 集石遺構 (15)



1A1 SI84 検出 (北から)



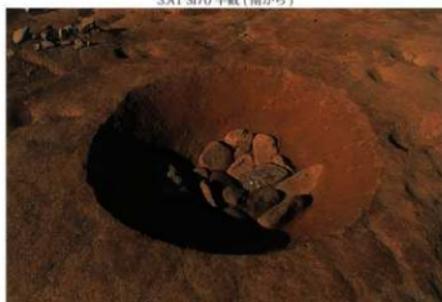
2A1 SI70 検出 (西から)



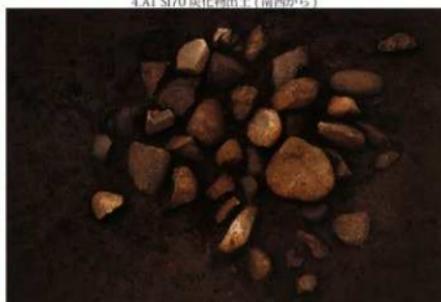
3A1 SI70 平截 (南から)



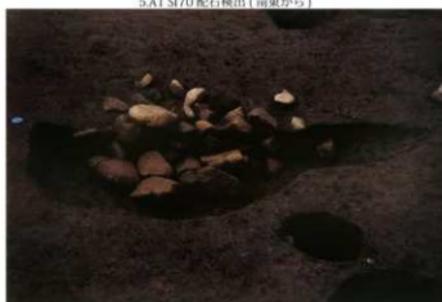
4A1 SI70 原作物出土 (南西から)



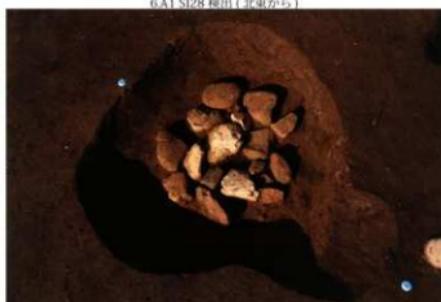
5A1 SI70 配石検出 (南東から)



6A1 SI28 検出 (北から)

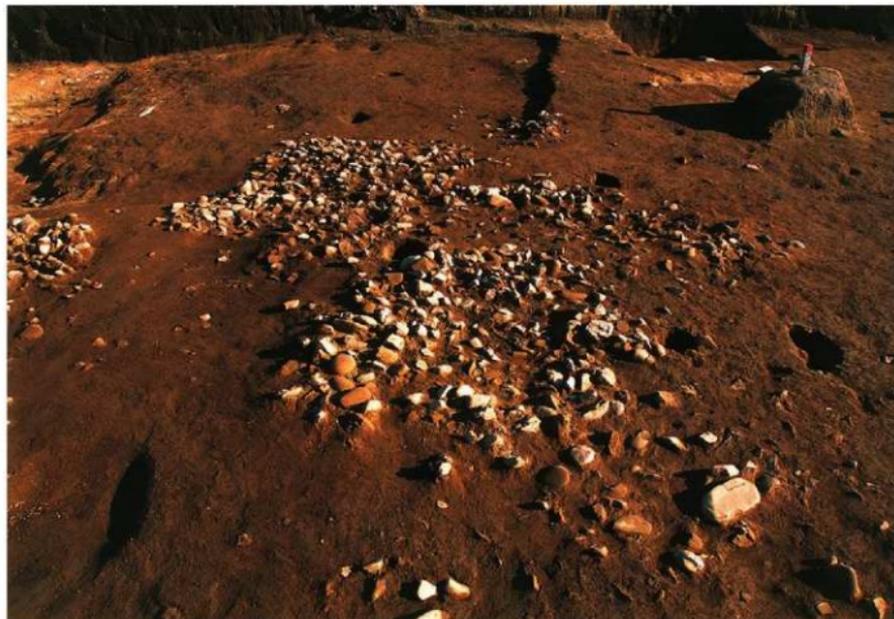


7A1 SI28 平截 (南から)



8A1 SI28 配石検出 (南東から)

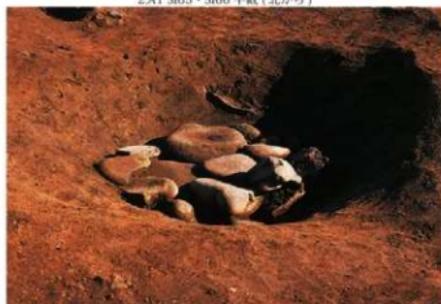
縄文時代早期 集石遺構 (16)



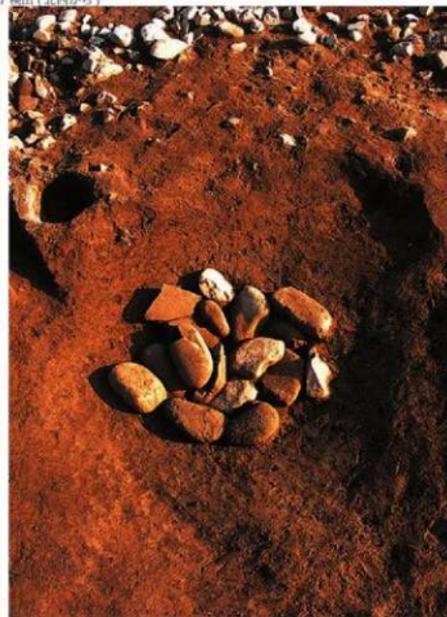
1.A1 SI64 ~ SI67 横出 (北西から)



2.A1 SI65・SI66 平載 (北から)



3.A1 SI65 配石横出 (西から)



4.A1 SI66 配石横出 (西から)

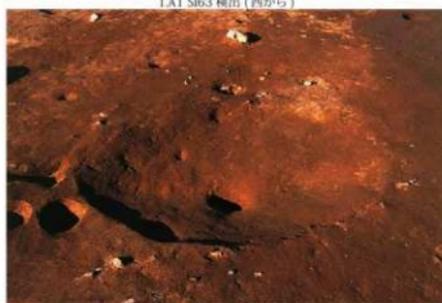
縄文時代早期 集石遺構 (17)



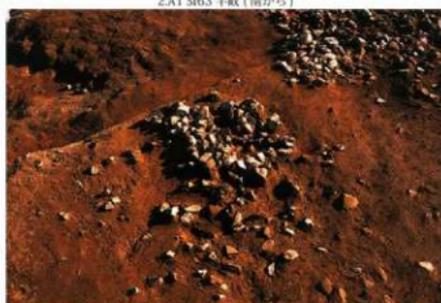
1A1 SI63 検出 (西から)



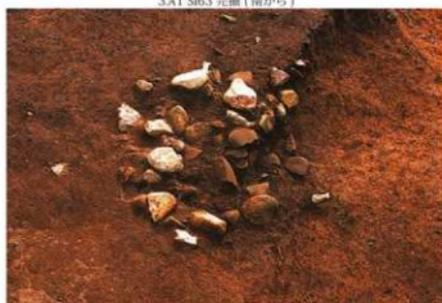
2A1 SI63 平截 (南から)



3A1 SI63 完掘 (南から)



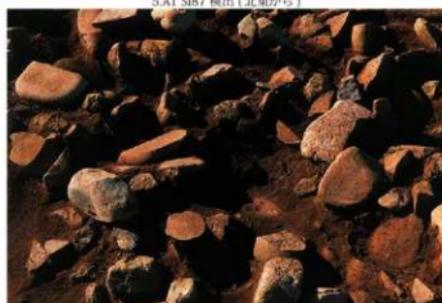
4A1 SI68 検出 (北から)



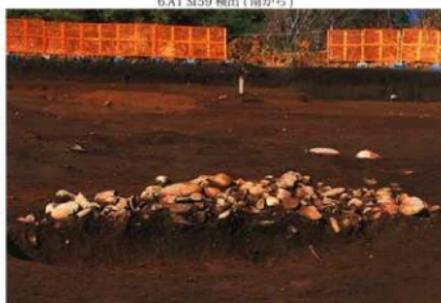
5A1 SI87 検出 (北東から)



6A1 SI59 検出 (南から)



7A1 SI59 炭化物出土 (東から)



8A1 SI59 平截 (東から)

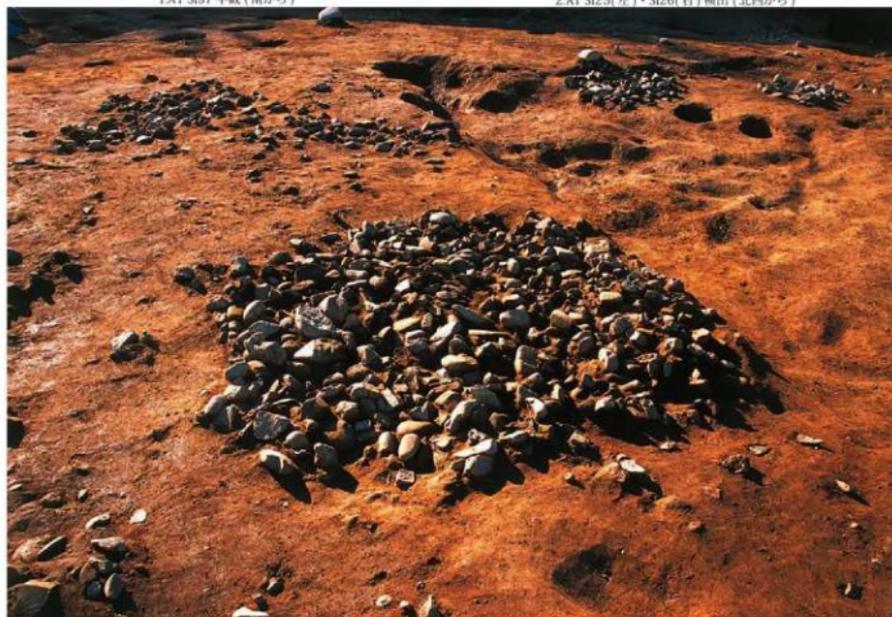
縄文時代早期 集石遺構 (18)



1A1 SI97 平載 (南から)



2A1 SI25(左)・SI26(右) 横出 (北西から)



3A1 SI40 横出 (東から)



4A1 SI40 配石横出 (東から)



5A1 SI40 完掘 (東から)

縄文時代早期 集石遺構 (19)



1.A1 SI94 横出 (東から)



2.A1 SI94 平載 (東から)



3.A1 SI94 完皿 (東から)



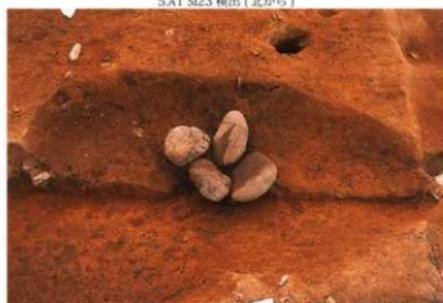
4.A1 SI15・SI16 横出 (北から)



5.A1 SI23 横出 (北から)



6.A1 SI23・SI95 平載 (南から)



7.A1 SI23 配石横出 (南から)



8.A1 SI23・SI95 完皿 (南から)



1A1 SI51・SI52 横出 (北西から)



2A1 SI51・SI52 完掘 (西から)



3A1 SI91・SI92 半截 (南から)



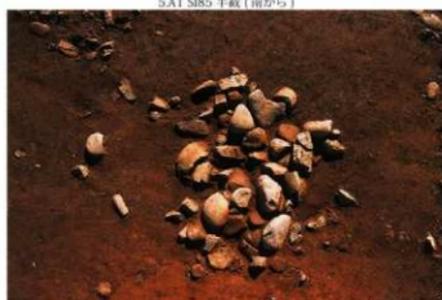
4A1 SI91・SI92 完掘 (南から)



5A1 SI85 半截 (南から)



6A1 SI85 完掘 (南西から)



7A1 SI50 横出 (北から)



8A1 SI50 半截 (南東から)

縄文時代早期 集石遺構 (21)



1A1 SI49 検出 (東から)



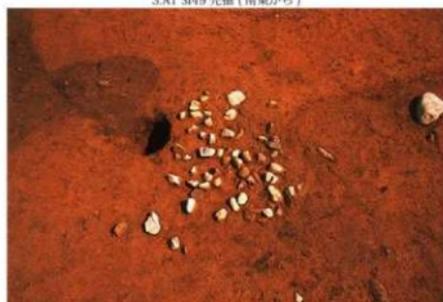
2A1 SI49 配石検出 (東から)



3A1 SI49 完籠 (南東から)



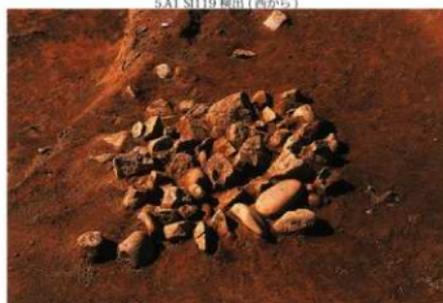
4A1 SI45 検出 (南から)



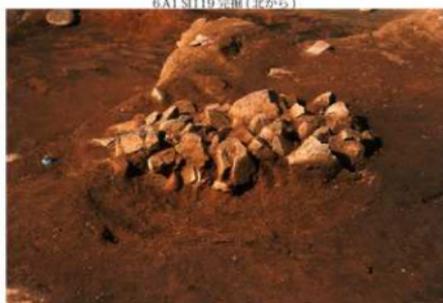
5A1 SI119 検出 (西から)



6A1 SI119 完籠 (北から)



7A1 SI111 検出 (東から)



8A1 SI111 平截 (東から)



1A1 S15・S16 検出 (北から)



2A1 S15 平截 (東から)



4A1 S16 平截 (東から)



3A1 S15 完掘



5A1 S16 完掘 (東から)

縄文時代早期 集石遺構 (23)



1A1 SI47 配石・炭化物検出 (東から)



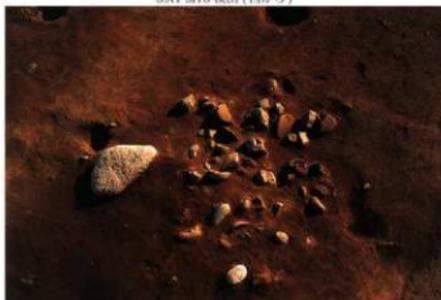
2A1 SI146・SI147 完掘 (北西から)



3A1 SI18 検出 (西から)



4A1 SI18 平截 (西から)



5A1 SI27 検出 (北から)



6A1 SI27 平截 (西から)



7A1 SI27 完掘 (南東から)

縄文時代早期 集石遺構 (24)



1.A1 SI2 ~ SI4・SI108 横出 (北から)



2.A1 SI7 ~ SI10 横出 (西から)

縄文時代早期 集石遺構 (25)



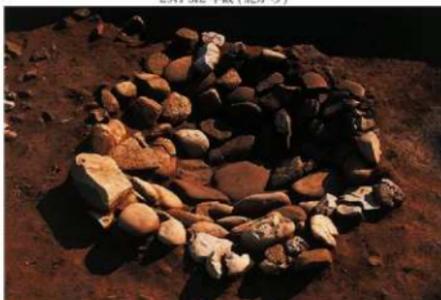
1. A1 S12 配石横出 (北から)



2. A1 S12 平截 (北から)



3. A1 S18・S19 平截 (西から)



4. A1 S18 配石横出 (西から)



5. A1 S18 配石横出 (南から)



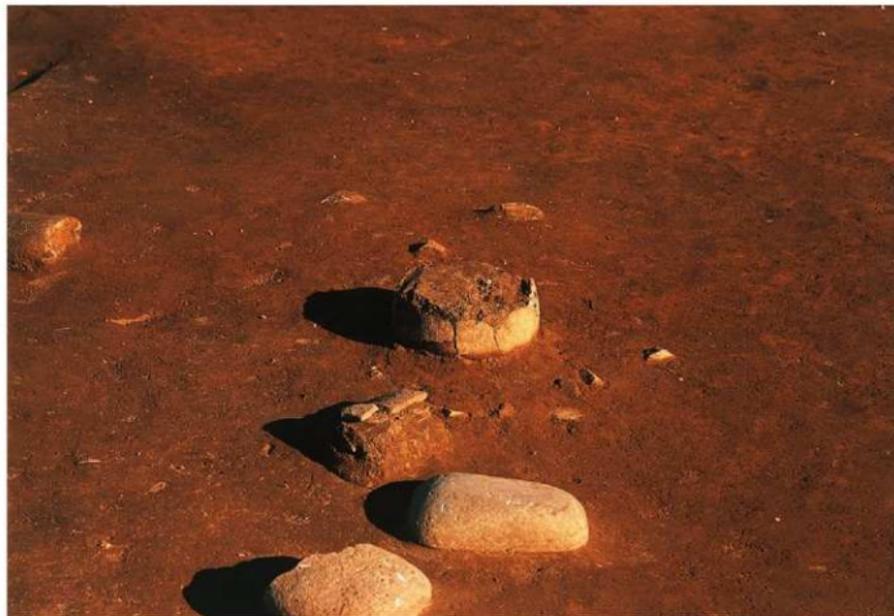
6. A1 S18 配石平截 (東から)



7. A1 S10 平截 (西から)



8. A1 S10 完撤 (西から)



1A1 SC210 検出 (前から)



2A1 SC210 半截 (西から)

縄文時代早期 土器埋設遺構



1A3 SP1 ~ SP3 完掘 (北から)



2A3 SP1 ~ SP3 横出



3A3 SP1 ~ SP3 断面 (東から)



4A3 SP1 ~ SP3 断面 (西から)



5A3 SP1 ~ SP3 断面 (北西から)

縄文時代早期 炉穴(1)



1A3 SP6 ~ SP8 完掘 (北から)



2A3 SP6 ~ SP8 検出 (南から)



3A3 SP6 ~ SP8 断面 (東から)

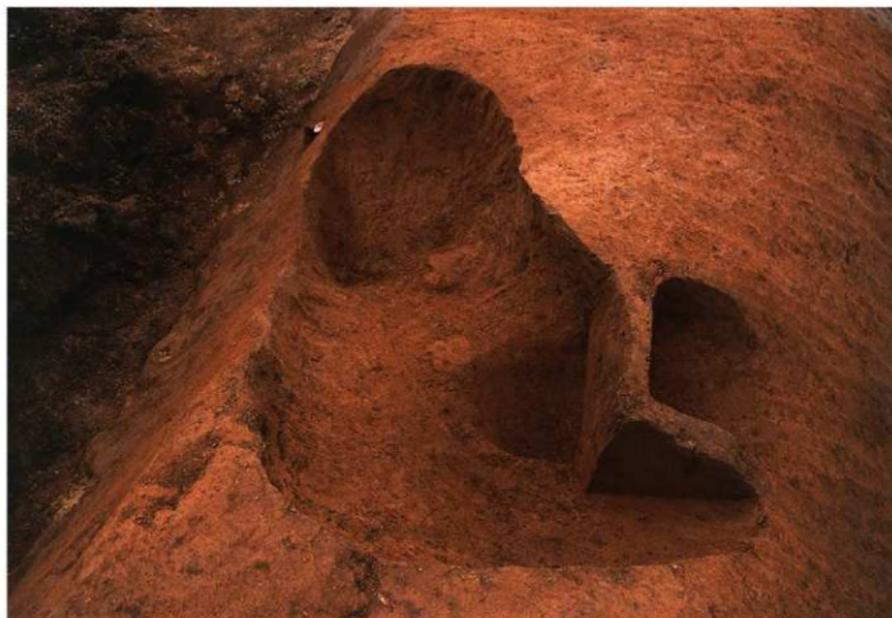


4A3 SP6 半截 (南東から)



5A3 SP6・SP7 断面 (南から)

縄文時代早期 炉穴 (2)



1.A3 SP4・SP9 完掘 (北から)



2.A3 SP4・SP9 半截 (東から)



3.A3 SP4・SP9 半截 (北から)



4.A3 SP4 横出 (北から)



5.A3 SP4 断面 (北から)

縄文時代早期 炉穴(3)



1A3 SP5 検出 (南から)



2A3 SP5 平載 (北から)



3A1 SC210・SC211・SC212 平載状況 (西から)



4A1 SC211・SC212・SC213(SC210) 完備状況 (西から)



5A1 SC240 平載 (南から)



6A1 SC240 完備 (西から)



7A1 SC205・SC206 平載 (北から)



8A1 SC205・SC206 完備 (北から)

縄文時代早期 茅穴(4)・土坑(1)



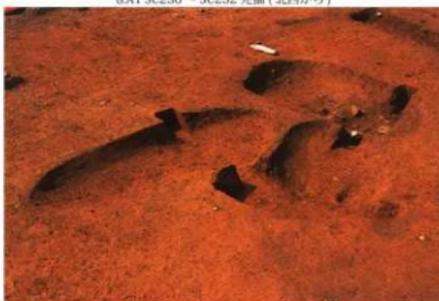
7A1 SC230～SC232 平截(西から)



8A1 SC230～SC232 完掘(北西から)



1A1 SC219・SC220 平截(西から)



2A1 SC246～SC248 完掘(東から)



5A1 SC249～SC255・SC263 完掘(北東から)

縄文時代早期 土坑(2)



3A1 SC245・SC216 完掘 (西から)



4A1 SC208・SC209 検出 (西から)



1A1 SC227 検出 (北東から)



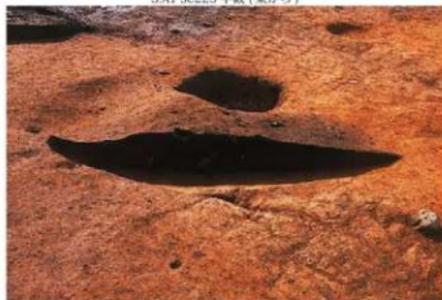
2A1 SC227 平載



3A1 SC225 平載 (東から)



4A1 SC239 検出 (北から)



5A1 SC239 平載 (東から)



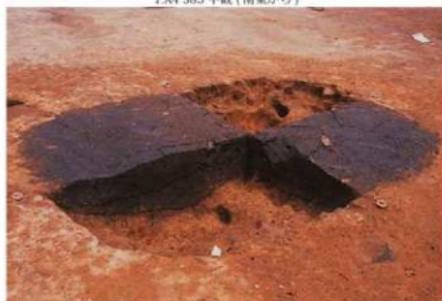
6A1 SC239 完掘 (北から)



1A4 S83 半截 (南東から)



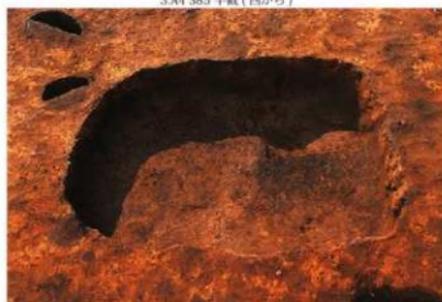
2A4 S83 完掘 (東から)



3A4 S85 半截 (西から)



4A4 S197 断面 (北東から)



5A4 S197 完掘 (北から)



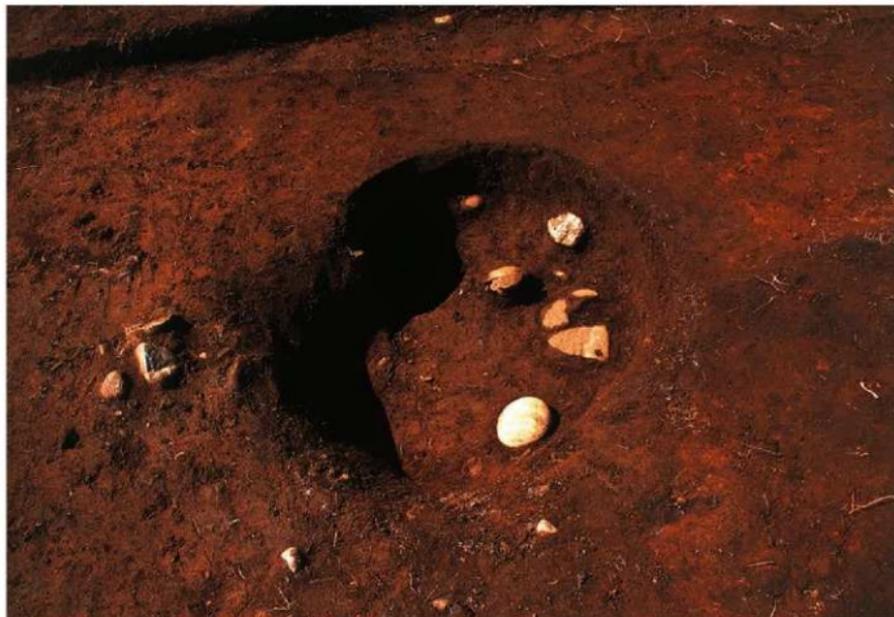
6A4 S197 砂層をもつ床面の様子 (北から)



7A4 S145 断面 (北西から)



8A4 S145 完掘 (西から)



IA1 SC318 遺物出土(東から)

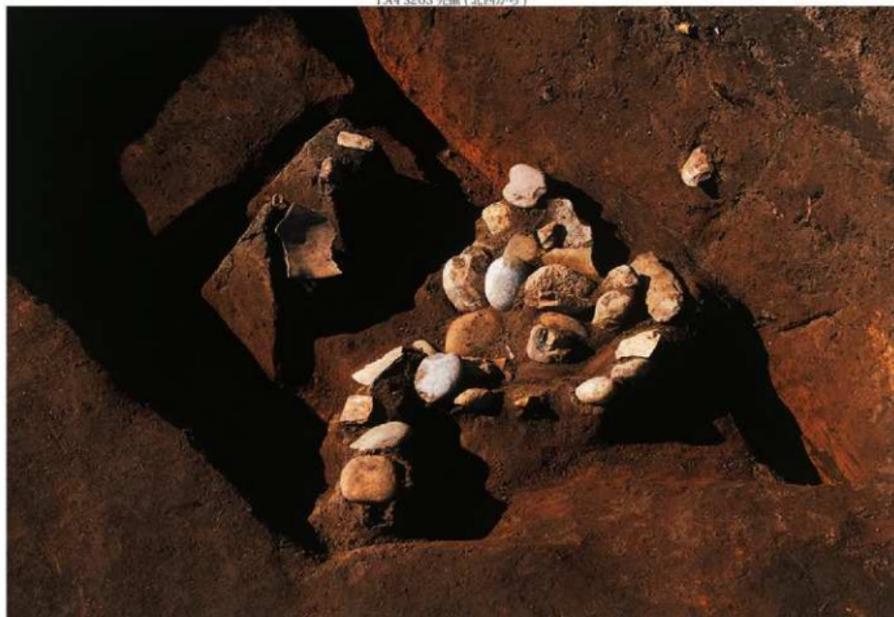


ZA4 S104 遺物出土

縄文時代晩期 土坑(1)



1A4 S203 完掘 (北西から)

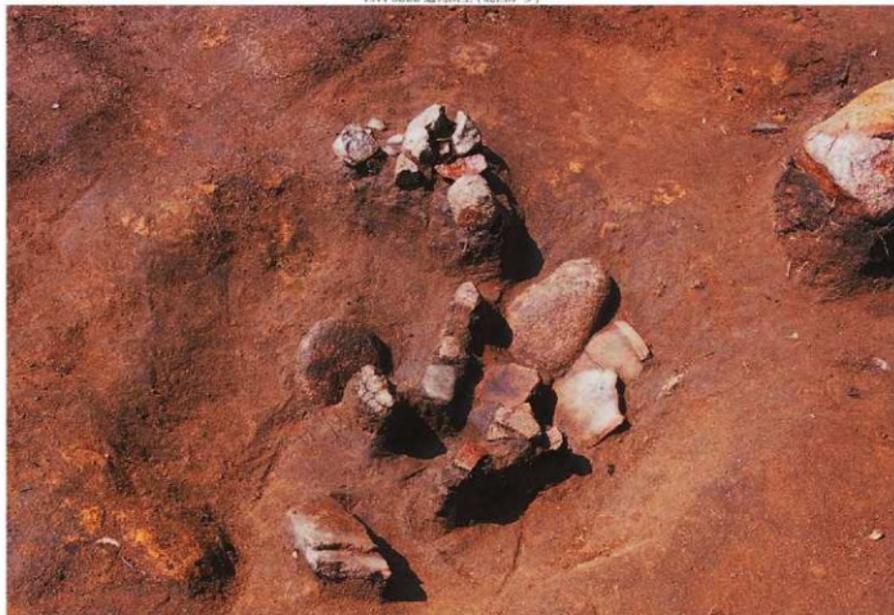


2A2 S226 遺物出土 (南から)

縄文時代晩期 土坑 (2)



1A4 S222 遺物出土 (北西から)



2A5 S118 遺物出土

縄文時代晩期 土坑 (3)



IA2 S2501 遺物出土 (北から・画面左の上坑)  
縄文時代晩期 土坑 (4)



旧石器 (I) 1 ~ 35, 37 ~ 40



旧石器 (2) 36、41 ~ 44、46 ~ 49



旧石器 (3) 45、50～71



縄文時代草創期(1) 竪穴状遺構(A1 SC256) 72～97